

生涯福祉学部

社会福祉学科

専門教育科目
教職に関する科目

教育目標

I 教育目標

生涯福祉学部社会福祉学科は、基本的人権と社会正義の尊重を基礎としたソーシャルワークの理念を踏まえ、個人とそれを取り巻く社会環境との相互作用を理解して、人々とその環境に働きかけることにより家族や地域の福祉力を高める、21世紀に相応しいソーシャルワーカーを養成します。

II 学習の流れ

〈1年次〉専門科目を学ぶための土台づくりです。教養科目によりソーシャルワーカーとしての価値の判断の基礎となる知識を身につけ、必修科目の「人間の生物学的機能と反応」、「人間の心理・社会的機能と支援」、「社会理論と社会システム」により、人と環境についての理解を深めます。「現代社会と福祉ⅠⅡ」により社会福祉の体系や基本の知識を学びます。

〈2年次〉本格的に社会福祉の専門学習が始まります。福祉サービスの基礎となる「社会保障論ⅠⅡ」、そして各サービスを体系的に学びます。1年で学んだ基礎となる知識、2年でのサービスの知識を踏まえ、「ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ」により、知識を実践につなげます。専門コース科目も登場し、例えば心理福祉コースでは「臨床心理学」など重要な科目があります。「演習Ⅱ」では、コミュニティアワーとして地域を学ぶ体験をします。

〈3年次〉3年次ではⅡ期の「ソーシャルワーク実習」が最も重要な科目です。1年次より準備します。社会福祉の体系やサービスの知識を土台とし、「ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ」及び、「ソーシャルワーク演習ⅠⅡ」（3年次ゼミ）を中心に実習に繋がります。専門コース科目では「精神保健学ⅠⅡ」など精神保健・医療福祉コースの主要科目があります。

〈4年次〉学びの集大成です。「ソーシャルワーク演習Ⅲ」により実習を深化させ、「卒業演習」（4年次ゼミ）で個々の関心に応じテーマを選び卒業研究を行います。理論と実践を統合、社会福祉学の理解を深めるとともにソーシャルワーカーの専門性を自覚します。

III コース選択と資格取得 ※ 2年次からは3つのコースに分かれて学習します

- 総合福祉コース**は、地域福祉を軸に、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、福祉教育など幅広い分野で活躍するソーシャルワーカーをめざします。卒業後は社会福祉士の国家試験受験資格と希望者は高等学校教諭（福祉）の免許資格を取得することができます。
- 精神保健・医療福祉コース**は、ソーシャルワーカーの知識・技術を土台に、精神障害者や医療・保健機関の利用者に対して、生活問題の解決を支援する精神科ソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカーをめざします。卒業後は社会福祉士、及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができます。
- 心理福祉コース**は、人間の行動や心の働きの理解を深め、科学的にみる姿勢を養うことにより、人の心の問題をケアできるソーシャルワーカーをめざします。卒業後は社会福祉士の国家試験受験資格と認定心理士の資格が取得できます。

平成 22 年度
(2010 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成22年度の 担 当 者		
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 基 礎 教 育	法学	講義		2				2									今井 俊介	
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2				2									(森田 義宏)	
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2					2								吉原 恵子	
	生涯学習論	講義		2				2									吉原 恵子	
	人間の生物学的機能と反応	講義		2		○	◇		2								[久野 克也]	
	人間の心理・社会的機能と支援	講義		2		○	◇		2								北島 律之	
	社会理論と社会システム	講義		2		○	◇		2								吉原 恵子	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義		2		○				2								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義		2		○					2							
	美と感性	講義		2					2									浜島 成嘉
	ライフデザイン論	講義		2										2				
	行政法	講義		2					2									今井 俊介
	家族社会学	講義		2						2								
	家族福祉論	講義		2							2							
	発達心理学	講義		2				▲		2								
	人間関係論	講義		2							2							
	親子関係の心理学	講義		2								2						
	健康心理学	講義		2							2							
	集団心理学	講義		2								2						
	社会心理学	講義		2						2								北島 律之
	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義		2							2							
	コミュニケーション心理学Ⅱ	講義		2								2						
	教育心理学	講義		2				△			2							
	ライフステージと健康	講義		2										2				
	食文化論	講義		2					2									[和田 武夫]
	食生活論	講義		2					2									(福本 恭子)・[仲川 直毅]
	レクリエーションワークⅠ	講義		2					2									不開講
	レクリエーションワークⅡ	講義		2					2									不開講
演習Ⅰ	演習		4					4									田端・吉原・稲富	
演習Ⅱ	演習		6						6									
専 門 コ ア 目 科	現代社会と福祉Ⅰ	講義		2		○	◇	△	2								牧田 満知子	
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○	◇	△	2								牧田 満知子	
	社会保障論Ⅰ	講義		2		○	◇			2								
	社会保障論Ⅱ	講義		2		○	◇				2							
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義		2		○		△	2								牧田 満知子	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2		○		△	2								桐石 梢	
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義		2		○		△		2								
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2		○		△		2								
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義		2		○	◇				2							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2		○	◇					2						
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2		○	◇					2						
	就労支援の制度とサービス	講義		2		○						2						
	権利擁護と成年後見制度	講義		2		○	◇					2						
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義		4		○	◇	△				4						
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義		4		○	◇	△					4					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習		1		○		△		2								田端・村上・高橋・井上
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習		1		○		△			2								
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習		1		○		△					2						
社会調査の基盤	講義		2		○			2									田端 和彦	
社会調査の応用	講義		2					2									田端 和彦	

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成22年度の 担当者			
			必修	選択				1年		2年		3年		4年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△					2							
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習		4	○		△						4						
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習		4	○		△							4					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習		2	○		△								2				
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△							12					
	地域経済論	講義		2									2						
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇								2					
	福祉工学	講義		2											2				
	まちづくり論	講義		2										2					
	国際福祉論	講義		2												2			
	スクールソーシャルワーク	講義		2												2			
	更生保護制度	講義		1	○										1				
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○										2				
	インターンシップ	実習		4											12				
	社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2							②		②		②		②		不開講
	社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2								②		②		②		②	不開講
	教 育 科 目	医療福祉論	講義		2	○	◇								2				
		応用医療福祉論	講義		2											2			
		精神保健福祉論	講義		6									6					
精神医学Ⅰ		講義		2		◇						2							
精神医学Ⅱ		講義		2		◇							2						
精神保健学Ⅰ		講義		2		◇								2					
精神保健学Ⅱ		講義		2		◇									2				
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		講義		2										2					
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		講義		2											2				
精神科リハビリテーション学Ⅰ		講義		2										2					
精神科リハビリテーション学Ⅱ		講義		2											2				
精神保健福祉援助演習		演習		4		◇									4				
精神保健福祉援助実習		実習		4		◇										12			
老年医学		講義		2										2					
認知心理学		講義		2										2					
心理統計学		講義		2										2					
臨床心理学		講義		2										2					
心理測定法		講義		2										2					
心理学基礎実験		実験		2											4				
心理療法Ⅰ		講義		2										2					
心理療法Ⅱ		講義		2											2				
心理検査法実習		実習		2											4				
行動分析論		講義		2												2			
心理カウンセリング演習	演習		2												2				
老人・障害者の心理	講義		2												2				
色彩論	講義		2												2				
社会福祉特別演習	演習		4													4			
卒業演習	演習		4													4			

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成22年度の担当者	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教職に関する科目	教職概論	講義	2				△	2									(廣岡 義之)
	教育原理	講義	2				△	2									(廣岡 義之)
	教育制度論	講義	2				△	2									(廣岡 義之)
	教育課程論	講義	2				△			2							
	福祉科教育法	講義	4				△				4						
	特別活動論	講義	2				△			2							
	教育方法・技術論	講義	2				△			2							
	生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2				△		2								
	教育相談 (カウンセリングを含む)	講義	2				△	2									琴浦 志津
	事前・事後指導	演習	1				△					1					
	高等学校教育実習	実習	2				△						4				
	教職実践演習 (高)	演習	2				△							2			

- は社会福祉士国家試験受験資格必修科目
- ◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目
- △は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

- ※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。
- ※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を履修すること。

《専門基礎科目》

科目名	法学				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

講義形式を基本とするが、時には例題を掲げて討論方式をもミックスしてみたい。ニュースを賑わす事例はもとより、身近で卑近な例（年金、食品偽装、労働者派遣、家族殺人、教科書問題、サラ金地獄など）を取り上げ関心を引き起こしたい。

《授業の到達目標》

社会規範としての法の存在、価値を自覚させ、国家の基本構造、国民生活の基本公序としての憲法を理解する。次いで民法の主要部分を解説し、私法秩序の要点を理解する。さらに刑事、労働、社会保障法の分野の概略を説明し、裁判員制度の解説で締めくくる。極力具体的事例を挙げて法と社会の連結の関心を深めるようにする。国家試験合格の水準を目指したい。

《テキスト》

福祉士養成講座編集委員会編 新版社会福祉士養成講座12 法学 第3版 中央法規刊

《参考文献》

その都度指定する。資料等はコピーのうえ配布する。

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストによるが（80%）、中間にレポートを提出させペーパーテストの一部に補充することがある（20%以内）

《授業時間外学習》

今日の社会はある程度の法的素養が無ければ安全に渡りることができません。幸い法的素材はいたるところに散在しています。これらを地道に収集していけば大きな財産となります。ニュースはもとより色々な面に配意し法的問題を探し当ててください。それを法学の学習に還元してください。

《備考》

法学の学習には、隣接諸科学特に政治学、経済学、社会学、心理学等々の広範な知識と理解が要請される。極力そのような講義を聴いて欲しい。また日々の新聞、テレビ、ラジオのニュースや解説に触れて欲しい。なお受講の際は手ごろな六法全書を携行して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	法学の基礎知識（社会あるところに法あり 法と道徳）
第 2 週	日本国憲法（総論・国民生活と憲法—基本原理 憲法前文）
第 3 週	基本的人権（1 総論—現代社会と人権 その歴史）
第 4 週	基本的人権（2 各論—自由権的基本権と生存的基本権）
第 5 週	民法（総則—法律行為、代理、時効）
第 6 週	民法（物権—物権変動、対抗要件）
第 7 週	民法（契約—現代社会における契約の機能・売買、賃貸借）
第 8 週	民法（不法行為—その機能と態様 国家賠償責任）
第 9 週	民法（親族・相続—現代社会における家族法の機能と役割）
第 10 週	行政と法（情報公開、個人情報保護、行政救済）
第 11 週	犯罪と刑罰（刑事実体法と手続法の概観、被害者の訴訟手続参加等新しい潮流）
第 12 週	労働と法（労働者派遣制度の解説 採用内定解約等の問題）
第 13 週	社会保障と法（社会保障法体系の概観 福祉を取巻く法律問題）
第 14 週	裁判員制度について（制度の概観 運用上の問題点）
第 15 週	まとめと質疑応答

《専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学 I				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

発達とは何か、発達に及ぼす環境の影響について学ぶ。さらに乳幼児期から児童期までの年齢段階ごとの発達の様相や課題について学ぶ、それぞれの年齢段階固有の発達上の問題について学び、発達支援の基礎的知識を得る。
 発達概念、発達の理論、発達と環境、乳児期・幼児期・児童期の発達の過程と様相、各発達段階における課題と問題、発達障害などその支援などをとりあげる

《授業の到達目標》

発達心理学で用いられる基本的用語を説明できる。
 発達と環境についての考え方や代表的な発達理論について説明できる。
 各発達段階ごとの発達課題について説明できる。
 乳児期から児童期までの認知や社会性などの発達について説明できる。
 子どもが抱えている発達上の問題への初歩的対処ができる。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

試験（70%）と授業態度（提出物、授業態度等 30%）

《授業時間外学習》

子どもに関する記事、事件などについて新聞、TV、インターネット上の情報を
 毎授業毎にノート、プリントを整理し、要点をまとめ、提出する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 発達概念 発達に及ぼす生得要因と環境要因の相互作用①
第 2 週	発達に及ぼす生得要因と環境要因の相互作用②発達の原理 発達の理論
第 3 週	発達の原理
第 4 週	発達の理論
第 5 週	胎児期の発達 誕生をめぐるいくつかの問題
第 6 週	乳児期の発達① 乳児期の発達課題 乳児の認知機能・・・有能な乳児
第 7 週	乳児期の発達② 乳児の社会性の発達 愛着の形成と愛着の内的作業モデル
第 8 週	親子の絆について考える 視聴覚教材
第 9 週	幼児期の発達① 幼児期の発達課題 幼児の認知の発達と特徴
第 10 週	幼児期の発達② 認知とことばの発達
第 11 週	幼児期の発達③ 幼児の自己意識と社会性の発達
第 12 週	児童期の発達① 児童期の発達課題 児童の認知機能の発達
第 13 週	児童期の発達② 児童の社会性の発達② 学校と友達関係
第 14 週	乳幼児期・児童期の発達をつまづきとこころの問題①
第 15 週	乳幼児期・児童期の発達をつまづきとこころの問題②

《専門基礎科目》

科目名	生涯学習論				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、まず生涯学習とは何かについて十分に理解することをめざします。とくに学校教育との関係から、生涯学習の特徴を学びます。生涯学習という表現でもわかるように生涯学習は「生涯にわたる」学習ですから、その学習が誰によって、いつ、どこで行われるかは多様です。また、人の一生と関わることから社会福祉とも関連があること、また、人が暮らして行く社会や文化、時代の影響を受けることも予想できますね。

生涯学習を社会の変化に照らして考えると、「生涯福祉」を前提としたこれからの福祉社会のニーズが見えてきます。

《授業の到達目標》

- (1) 「生涯学習」という考え方について説明できる。
 - 「生涯学習」って何だろう？
 - 「生涯学習」はなぜ必要なのか？
 - 「生涯学習」は誰がいつどのように学ぶのか？
- (2) 「生涯学習」と「生涯発達」の関係について理論に基づいて説明できる。
 - 人は「生涯」発達するのか？
 - 人はどのように発達するのだろうか？
- (3) 「生涯学習」と社会福祉の関係について考えをまとめて、発表することができる。
 - 「生涯学習」とライフサイクルの変化について
 - 「生涯学習」と高齢社会について
 - 「生涯学習」と地域福祉について

《テキスト》

『新しい時代の生涯学習』 関口礼子他著 (2009, 有斐閣アルマ)

《参考文献》

適宜、提示します。

《成績評価の方法》

- 講義のうち10回以上の出席により単位認定のための被評価資格を得るものとする。
- 課題および授業内レポート、作業シート等を適宜実施する (配点: 問題発見力、問題解決力、文章作成力および知識の定着度 45%)。
- 「学習のまとめ」により学習達成度を評価する (配点: 知識体系を理解する力、批判的思考力、社会変化と生涯学習の関係を読み解こうとする関心・意欲などの獲得度: 55%)。

《授業時間外学習》

- (1) できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4) 課題には予習あるいは復習のための学習内容が含まれています。一生懸命取り組み、遅れずに提出してください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3 Stepsで学習に取り組んでほしい。さいごの、「まとめる」は、新しいことを学んだ後、学びっぱなしではなく、講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことを、自分の中から引き出して整理することを指しています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	生涯学習とは何か ○ 「生涯学習」導入の背景 ○ 教育と学習 ○ 生涯学習と社会教育
第 2 週	生涯学習と生涯発達 ○ 発達段階と発達課題 ○ 第1の発達と第2の発達 ○ 高齢期の発達課題
第 3 週	社会の変化と生涯学習(1) ○ 人口動態の変化 ○ 人口の高齢化 ○ 高齢者にとっての学習
第 4 週	学習のまとめ①
第 5 週	社会の変化と生涯学習(2) ○ グローバル化と学習 ○ グローバル化と教育制度 ○ グローバル化時代の学習課題
第 6 週	社会の変化と生涯学習(3) ○ ライフコースの変化 ○ 少子化と家族の変化 ○ 男女平等教育と家庭教育 (学習)
第 7 週	生涯学習の方法(1) ○ 方法論の重要性 ○ アンドラゴジーとペダゴジー ○ 生涯学習の方法
第 8 週	生涯学習の場(1) ○ 社会資源の利用 ○ 地域社会における学び ○ 図書館と公民館/地域センター
第 9 週	生涯学習の方法(2) (演習①) ○ 実践例に学ぶ ○ ボランティア ○ NPO 活動
第 10 週	生涯学習プログラムの発表 (演習②) ○ 地域のニーズ ○ プログラムの対象 ○ 企画・広報
第 11 週	生涯学習プログラムの発表 (演習③) ○ 地域のニーズ ○ プログラムの対象 ○ 企画・広報
第 12 週	生涯学習の場(2) ○ 職業的社会化と発達 ○ 職業指導 ○ 企業内教育
第 13 週	生涯学習の場(3) ○ 教育によらない学習 ○ 宗教と儀式 (祭り) ○ 芸術と音楽
第 14 週	生涯学習と生涯福祉 ○ 生涯発達と生涯学習 ○ 地域福祉と生涯学習 ○ 社会変化と生涯学習
第 15 週	学習のまとめ②

《専門基礎科目》

科目名	人間の生物的功能と反応				
担当者名	久野 克也				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在、管理栄養士は疾病予防や病態の栄養管理を通じて医学・医療に関与する機会が益々増加している。そのため現代医学、医療がどのように成立してきたかの歴史を学び、現代医学、医療の問題点を社会医学的に検討する。また先進医学を通じて将来の医療の展望について考えてゆきたい。講義とともに、自らの意見を積極的に述べる訓練を行うため、種々の具体的なテーマに沿って自由討論を取り入れてゆきたい。

《授業の到達目標》

私達の属する社会における、医学・医療システムや社会医学の基礎を学習する。そして、将来管理栄養士として、自分自身だけでなく家庭や職域で周囲の人達の健康管理をそれぞれのライフサイクルに沿って構築することができる、基本的知識を得ることを目標とする。

《テキスト》

『看護のための最新医療講座 35 医療と社会』（中山書店）

《参考文献》

『医学概論』北村諭 著（中外医学社）

『現代医学と社会』森本兼義 著（朝倉書店）

《成績評価の方法》

学期末に筆記試験を行う。適時、講義中にレポートの提出を求め出席評価を行う。

（全評価の90%）

（全評価の10%）

《授業時間外学習》

講義中に特に重要なキーワードを指示するので、終了後復習し100字以内にまとめておく。

《備考》

将来、栄養治療、給食などの現場でリーダーとなれるような、意見を持てる専門家をめざす基礎にしてください。現在健康に全く問題のない諸君達でも、将来必ず病気や事故で病院にかかる機会があります。その時自分があるいは家族が、どのようなシステムで健康を回復し社会復帰できるのかを、広い視野から知ることができると考えます。

講義内容は、決して平易ではありません。しかし、周囲の学生や講義に迷惑ですので私語は慎んでください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	医学の歴史（現代医療はどのように作られてきたか）
第 2 週	医療のしくみと社会保障（医療機関とその従事者、医療保険制度、年金制度）
第 3 週	医療と住民の関係（ボランティア・NPO・住民参加の方法）
第 4 週	医療と法律（脳死、医療事故訴訟など法の規制）
第 5 週	医療経済（医療費とはなにか）
第 6 週	医療におけるコミュニケーション（インフォームドコンセントやセカンドオピニオンの考え方）
第 7 週	医療とエビデンス（エビデンスに基づく医療とは）
第 8 週	環境と医学（私たちを取りまく環境が健康に及ぼす影響、食の安全）
第 9 週	ケアシステム（医療における介護の意義）
第 10 週	先進医療への期待（未来の医学）
第 11 週	医療における栄養学の意義（NST における栄養士の役割）
第 12 週	食育の役割（栄養士が行う栄養教育や予防医学）
第 13 週	代替医療とは（総合医療における栄養学の意義）
第 14 週	人のライフサイクル（ライフサイクルと医療の質）
第 15 週	終末医療（ホスピスにおける栄養士の役割）

《専門基礎科目》

科目名	人間の心理・社会的機能と支援				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせません。本講義では教養科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学びます。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説します。

《授業の到達目標》

- 教養科目「心理学」の基本テーマについて論じることができる。
- 対人交流、発達、ストレス、心理療法と見立てといった主要テーマについて、理解し説明できる。
- 社会福祉と心理学の関わりを説明できる。

《テキスト》

「心理学理論と心理的支援—心理学」 [編集] 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考文献》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60% レポート・小テスト等 20% 受講態度 20%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・復習の方法
授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。

《備考》

本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス、心理学の歴史と分野
第 2 週	教養科目「心理学の復習」① 性格、感情
第 3 週	教養科目「心理学の復習」② 欲求と動機づけ、感覚・知覚・認知
第 4 週	教養科目「心理学の復習」③ 学習・記憶、知能・創造性・思考
第 5 週	確認テスト、解説
第 6 週	人間環境と集団
第 7 週	対人交流とコミュニケーション
第 8 週	発達①：心理学的な発達理論、障害と発達
第 9 週	発達②：高齢者の認知機能
第 10 週	適応とストレス①：ストレスと身体、ストレスに関する心理学理論
第 11 週	適応とストレス②：ストレスと性格、ストレスと心理的反応、ストレスからの回復
第 12 週	面接から心理療法へ①：面接、心理テスト
第 13 週	面接から心理療法へ②：様々な心理療法
第 14 週	脳と心
第 15 週	まとめ

《専門基礎科目》

科目名	社会理論と社会システム				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について社会理論の専門用語によって体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。具体的内容として、(1)社会学イントロダクション、(2)人と社会の関係、(3)現代社会の理解、(4)人々の「生活」の理解、(5)社会問題の理解 を取り上げる。

《授業の到達目標》

- (1)社会学の理論における専門用語を習得して、現代社会の特徴を説明できるようになる。
 - 社会はどのような「つくり」になっているのだろうか？ ●社会はどのようにして動いているのだろうか？
- (2)人々の「生活」を構成する要素について体系的に学び、説明できるようになる。
 - 生活はどのように成り立っているのだろうか？ ●ライフスタイルや生活の質はどのように変化しているのだろうか？
 - 社会は個人の集まりだけど、個人の総和がそのまま社会ではない...個人と社会の関係はどうなっているのだろうか？
- (3)社会問題について批判的に捉えるだけでなく、自分なりの考えをまとめて発表できる。
 - 「社会問題」に近づこう！ ●「社会問題」はどうとらえたらいいのだろうか？

《テキスト》

『社会学』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座3〕(2009,中央法規出版)

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《成績評価の方法》

- 講義のうち10回以上の出席により評価および単位認定対象とする。
- ミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度 45%)
- 学習のまとめにより学習達成度を評価する。(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%)

《授業時間外学習》

- (1)できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。
- (4)ミニ・テストの実施は事前に知らせますが、日頃から学習内容をまとめておく習慣を身につけてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。1st Stepとして、「聴く」、2nd Stepとして「考える」、3rd Stepとして「まとめる」の3 Steps で学習に取り組んでほしい。さいごの、「まとめる」では、(1)講義を聴いて自分の中にあたらしく生まれたことを、自分の中から引き出して整理することができたのか、(2)人々の生活と社会の関係について自分なりの見方や考え方をもちうることができたのかについて自己評価してみましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会学的ものの見方(社会学の成立、社会学とは何か[理論社会学、社会学の隣接領域、近代社会]、個人と社会、社会学と社会福祉)
第 2 週	社会学イントロダクション(1)ー社会システムー (自己、アイデンティティ、ステレオタイプ、文化・規範、価値/意味、行為と行動、社会システムの概念、産業と職業、社会階級と社会階層)
第 3 週	社会学イントロダクション(2)ー法と社会システムー(法と社会規範、法と社会秩序) 社会学イントロダクション(3)ー経済と社会システムー(市場の概念、交換の概念、労働の概念、就業形態)
第 4 週	人と社会の関係(1)(行為論：行為の種類と類型、欲求、準拠集団、秩序問題、社会的行為論の展開、役割演技と印象操作)
第 5 週	人と社会の関係(2)(役割論：地位と役割、社会規範、社会化、役割葛藤、ダブルコンティンジェンシー)
第 6 週	学習のまとめ①
第 7 週	社会集団と組織(社会集団の概念、集団の諸類型、集団のメカニズム、組織の概念、官僚制的組織、インフォーマル・グループ)
第 8 週	地域(地域の概念、地域社会の集団・組織、都市化と過疎化)
第 9 週	家族(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能、ジェンダーの視点)
第 10 週	学習のまとめ②
第 11 週	生活の理解(生活構造の概念、ライフステージ、生活時間、生活様式、消費、生活の質)
第 12 週	社会変動と人口変動(社会変動の概念、近代化、人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化)
第 13 週	社会問題の理解(1)(社会問題の構築、新しい社会問題、転換期の社会問題)
第 14 週	社会問題の理解(2)(共生社会と権利、人権・生存権・社会権、社会運動、ネットワーク、エンパワメント)
第 15 週	学習の総まとめ③

《専門基礎科目》

科目名	美と感性				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

私達は、絵画を鑑賞したり、美しい風景を見て感動することがあります。何故美しいと感じ、感動することは私達の人生にどのような意味があるのか、またそれは生きるための根源的な力となりえるのか?を考えます。

《授業の到達目標》

感性が豊かであるということは、自分自身の人生においても豊かな生涯を送ることが出来る。それは何故なのかということ踏まえて、感性とは何か、美を感じるとはどのような意味があるのかを学び、感性を磨きます。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

- ・『理性と美的快楽』ジャン＝ピエール・シャンジュー著 岩田誠 監訳(産業図書)

《成績評価の方法》

- ・レポート課題 (100%)
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

- ・風景、絵画において感動したことをメモしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・感性とは？ 美しさを感じる心について。
第 2 週	・感性のメカニズム 感覚との関係から解明
第 3 週	・知覚と感情 感動する心(アウシュビッツ収容所での出来事)
第 4 週	・感性と情操 感性を育むにはどうすれば良いのか
第 5 週	・美しさの法則 美はある法則によって成り立っている
第 6 週	・自然と美 自然の中に美を発見する
第 7 週	・日本の美意識 世界に誇る日本の美の原点について(自然と人間の共生)
第 8 週	・西洋の美意識 日本の美と西洋の美を比較しその違いを理解する
第 9 週	・美は何の役に立つのか？ 老子との問答から考える
第 10 週	・美は何故必要なのか しなやかな心について
第 11 週	・美と生きることのかかわり・I しなやかな精神力
第 12 週	・美と生きることのかかわり・II 豊かな人生
第 13 週	・感性をどのように育むのか？ 「ねむの木学園」の子供たちの絵を鑑賞する
第 14 週	・感性について アウトサイダーアート(知的障害者の個性的な美の表現を鑑賞する)
第 15 週	・現代社会と感性を考える

《専門基礎科目》

科目名	行政法				
担当者名	今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業計画表に従い講義形式で行なう。最近マスコミを賑わす行政事例、著名な行政判例は極力取り上げることとする。

《授業の到達目標》

行政の仕組みから説き起こし、行政救済に至るまで一通りの説明を行い、立法、司法との相違を浮き彫りにする。情報公開制度・個人情報保護制度等にも触れながら現行行政法の重要部分全般にわたり平易に解説し、国家試験に合格し将来社会福祉行政に携わる際の知識を受けたい。

《テキスト》

福祉士養成講座編集委員会編集 新版社会福祉士養成講座 1 2 法 学 第3版 中央法規刊

《参考文献》

折に触れ指定するが、さしあたって
新藤宗幸著「行政ってなんだろう」岩波ジュニア新書299
芝池義一著「行政法読本」有斐閣を薦める
また資料などは適宜コピーのうえ配布する。

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストによるが（80%）、その一部をレポート提出により補充することもある（20%）

《授業時間外学習》

行政肥大国家ですので、行政法の素材はいたるところに転がっています。鋭い視線で社会・国家・法律・経済の実態を見つめてください。これらの資料収集が時間外の学習課題です。時間内に持ち込んでもらって皆さんとの討議材料にしましょう。

《備考》

初めての教科なので気後れするかもしれませんが、その内容は日々経験すること、ニュース等で見聞することが多いと思います。憲法等広い知識が必要となりますので、Ⅰ期に「法と社会」等の講義を聴いておけば、理解に役立つと思いますので聴講をお勧めします。なを受講の際は手ごろな六法全書を携行して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	行政法の基本構造
第 2 週	法律による行政の原理 行政法の一般原則
第 3 週	行政上の法律関係（私法関係との相違）
第 4 週	行政組織のあらまし
第 5 週	行政行為（1）
第 6 週	行政行為（2）
第 7 週	行政指導、行政計画、行政調査
第 8 週	行政の実効性確保
第 9 週	情報公開法のあらまし
第 10 週	個人情報保護法のあらまし
第 11 週	行政上の救済手続き
第 12 週	行政事件訴訟
第 13 週	行政不服申立
第 14 週	国家賠償
第 15 週	損失補償

《専門基礎科目》

科目名	社会心理学				
担当者名	北島先生				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会心理学は、家族や友人との身近な社会、学校や会社といった日常的活動の舞台となる社会、さらには国際的なつながりの中における規模が大きな社会について、それらをどのように心に映し出し、それらにどのように働きかけるかを解き明かそうとしています。本講義では、社会心理学の知見を体系的に学習し、人と人が出会うところに生まれるいろいろな問題に対し深く洞察したり、遠く離れた世界で起きている現象さえも自分自身の心と関係していることを認識できたりする力を養います。「自己」「他者とのつながり」「自己間の影響過程」「社会の理解」などをテーマとし、個人と社会的状況との間に起こる様々な相互的過程を科学的に学びます。

《授業の到達目標》

- 「社会心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 自己、他者とのつながり、自己間の影響過程、社会の理解といった主要テーマについて、理解し説明できる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房

《参考文献》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60% レポート・小テストなど 20% 受講態度 20%

《授業時間外学習》

・予習の方法

下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。

・復習の方法

最初に、授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。また、テーマの目的に深く関係した課題を出しますので、レポートを作成するようにしてください。レポートは採点・添削後、返却します。

《備考》

- 本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。
- 認定心理士の資格取得を目指す人は、受講するようにしてください。
- 心は一人ひとりに当たり前のようにあるため、自分で気づくことができる視点から自分の心を眺め、素朴にすべてを知っているつもりになってしまいがちです。自己中心主義的ではなく、なるべく謙虚に客観的に、心について考えようとするのが大切です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス、「社会的動物としての人間と社会心理学」① 他者の心の理解
第 2 週	「社会的動物としての人間と社会心理学」② 集団での協力関係
第 3 週	「感情」① 感情の生起
第 4 週	「感情」② 感情の役割
第 5 週	「人を傷つける心、人を助ける心」① 他者への攻撃
第 6 週	「人を傷つける心、人を助ける心」② 他者への援助
第 7 週	「集団」① 集団とは何か
第 8 週	「集団」② 集団の行動への影響
第 9 週	「社会的自己」① 自己とは何か
第 10 週	「社会的自己」② 自己評価と自己制御
第 11 週	「社会的影響」 人が他者に及ぼす影響
第 12 週	「態度・説得」 態度とは何か、態度はどのように変わるか
第 13 週	「原因帰属と社会的推論・判断」① 他者の行動の理解
第 14 週	「原因帰属と社会的推論・判断」② 判断の特徴
第 15 週	「これまで何を学んだか」 まとめ

《専門基礎科目》

科目名	食文化論				
担当者名	和田 武夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

人が健康で豊かな生活を営むうえで、食生活は最も重要な要素である。ここでは、食生活を文化の面から捉え講義する。食文化を形成する要因として、自然条件、人間の技術（獲得の技術：採取、栽培、農耕、漁労、牧畜など、調製の技術：調理器具、料理、調味など、保存の技術：発酵、滅菌など）社会の規約（社会規範、習慣など）などが挙げられている。これらの要因に時間的変遷を加え、世界の食文化について学び、食文化を理解する。

《授業の到達目標》

- 世界の食文化の概要を知る。
- 食文化の多様性を理解し食文化に対して興味を持つ。
- 食文化に興味を持ち、各自の食生活を豊かにすることに役立てる。

《テキスト》

とくに用いない。
毎回、多くのスライド（パワーポイントによる）を用いて講義する。

《参考文献》

『食の文化－人類の食文化：講座』石毛直道監修、吉田集而編（味の素食の文化センター）
『食の文化地理』石毛直道著（朝日選書）、『食肉文化と魚食文化』長崎福三著（農山漁村文化協会）
『稲作の起源』池橋宏著（株講談社）

《成績評価の方法》

- ・ レポート 80%
- ・ 授業内討論などへの参加 20%

《授業時間外学習》

- ・ 予習
該当する講義内容に関する文献などを見ておく。
- ・ 復習
講義を聴き、興味をもてた事項について更に調べておく。

《備考》

将来、福祉分野で活躍するとき、食生活の指導において役立つ知識や教養として食文化を教える。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	世界の農耕文化：農耕文化の起源、地中海農耕文化、根栽農耕文化、サバンナ農耕文化、稲作農耕文化 など
第 2 週	米の文化（1）：稲作の起源、中国の稲作遺跡、日本への伝播、日本の古代の稲作 など
第 3 週	米の文化（2）：米の種類、おいしい米、米のおいしさの測定、世界の米料理 など
第 4 週	雑穀の文化：雑穀とは、主な起源地域、雑穀の特徴、主食としてのトウモロコシ、雑穀料理 など
第 5 週	いもの文化：いもの種類、野生のいもは有毒、世界のいも、ジャガイモのヨーロッパへの伝播 など
第 6 週	麦の文化（1）：麦食と麦の栽培化、大麦と小麦、製粉の歴史 など
第 7 週	麦の文化（2）：麦の種類と用途、世界の麦の食べ方、麦食と風習 など
第 8 週	豆の文化：作物としての豆類、豆の種類、世界の豆、豆の加工と豆料理 など
第 9 週	肉の文化（1）：ヨーロッパの肉食思想、食肉生産の歴史、食肉の加工 など
第 10 週	肉の文化（2）：家禽類、民族と肉食、世界の肉料理 など
第 11 週	乳と乳製品の文化：乳利用の歴史、乳加工技術と乳製品、世界の乳製品 など
第 12 週	魚の文化：漁労と文化、世界の魚類、魚の養殖、世界の魚料理 など
第 13 週	調味用の文化：世界の調味料、塩、酢と酸味料、甘味料、豆醬と漁醬、料理とだし など
第 14 週	香辛料の文化：世界の香辛料、香辛料の開発史、西洋の香辛料、中国の薬味 など
第 15 週	まとめ

《専門基礎科目》

科目名	食生活論				
担当者名	福本 恭子・仲川 直樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 人間にとって「食べる」とはどのようなことなのか、福本が担当する食生活論では、栄養学や食品学等の専門分野から食生活の基本的知識を学び、現在の食生活における問題点の抽出と望ましい食生活とは何かを考える。
- ・ 食は、人間が生命を維持し、労働力を再生産するうえで大事な要素である。したがって我々の食料消費、食生活やそのあり方について考察し、今後の食生活がどうあるべきか検討することは重要な課題である。消費者すなわち我々の食料消費や食生活が変化するという事は、必然的に食料を生産する農業や漁業などの生産過程にも大きな影響を与える。さらに近年、急速な発展のみられる食品産業においても食料消費や食生活の変化に柔軟に対応することが販売戦略上の主要な課題となっている。これらのことを踏まえたうえで、近年の食生活の動向を分析し、経済学的な観点から食生活がもつ特徴や問題点について検討することを課題とする。

《授業の到達目標》

- ・ 食生活の基本的な知識を理解する。
- ・ 現在の食生活における問題を考察する。

《テキスト》

時子山ひろみ・荏開津典生「フードシステムの経済学」医歯薬出版（後半5回使用する）
必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

必要に応じて紹介する

《成績評価の方法》

レポート（50%）と授業態度（50%）に基づいて総合的に判断

《授業時間外学習》

予習を行うこと

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	食生活論の概要説明
第 2 週	食べ物の機能と役割①（栄養）
第 3 週	食べ物の機能と役割②（食品）
第 4 週	食べ物の機能と役割③（調理）
第 5 週	ライフステージ別食生活
第 6 週	病気と食生活
第 7 週	食生活の歴史①（戦前）
第 8 週	食生活の歴史②（戦後）
第 9 週	世界の食生活とわが国の食生活
第 10 週	現在の食生活問題
第 11 週	食品の商品としての特徴：食品は、人が生きていくうえで、必要不可欠であることから他の商品とは異なる特徴を有している。その特徴とともに食品選択や食品需要などの食料経済学の基礎的な理論について学習する。
第 12 週	食品の消費構造の変化：食料需給表を使用して食品の消費構造の変化を質と量の両面からみていく。そのうえで、食品の消費構造の変化要因について考察する。
第 13 週	人口構成の変化と食生活：主に家計調査年報を用い、人口や家族構成の変化および飲食費の構成などをみていき、人口構成、飲食費の変化などの面から現在の日本における食生活の特徴について学習する。
第 14 週	食の外部化の進展：食の外部化の進展について外食および中食産業の特徴および現状を中心に学習する。
第 15 週	食品の安全性問題：食品の安全性は、すべての人が毎日食するものであることから特に重要である。食品の安全性問題が需給構造にどのような影響を与えるかを学習するとともに、リスク・コミュニケーションの考え方についても修得する。

《専門基礎科目》

科目名	演習 I				
担当者名	田端 和彦・吉原 恵子・稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・I期分

《授業のねらい及び概要》

本演習は、大学ではじめて学ぶ人たちが、(1)学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2)大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3)4年間の見通しをもって専門教育を受ける準備ができるようになること、また、充実した学生生活を自分自身で設計できるようになることを目的としている。この演習クラスは少人数で構成され、教員—学生間および学生間で交流をはかりながら、個人個人の能力を開発し発揮するための場であり、また「学びの共同体」である。内容は以下の通りである。

- (1)大学生になる／兵大生になる ●大学のしくみを知ろう ●友だちを作ろう ●先生と親しくなろう
 (2)大学での学び方を学ぶ ●学ぶためのスキルを身につけよう ●時間を管理しよう ●学びの履歴を作ろう
 (3)自分の目標を決めて、計画を立てて進んでいこう ●自分を知ろう ●4年間の見通しを立てよう ●将来の目標を定めよう

《授業の到達目標》

大学生としての生活習慣を身につけることができる。

学びに必要とされる文献を読む力、ノートテイキング、文章にまとめる基礎力を身につける。

将来の社会で必要とされる発表することやコミュニケーションを取ることなどの学士力の基盤を作る

《テキスト》

『知へのステップ (改訂版)』学習技術研究会編 (2007、くろしお出版)

『プラクティカル・プレゼンテーションスキル』上村和美・内田充美 (2005、くろしお出版)

《参考文献》

『大学生の学び・入門』溝上慎一(2006、有斐閣アルマ)

『知のツールボックス』専修大学出版企画委員会編(2006、専修大学出版局)

《成績評価の方法》

授業への参加態度およびグループにおける活動への参加。(配点：意欲・関心、協力性 45 点)

学習スキルの獲得 (課題、提出物)。(配点：知識とスキルの獲得度 55 点)

規定に基づき 1/3 以上の欠席があれば評価の対象としない。

《授業時間外学習》

ほぼ毎回レポート課題があるので、それを指定された期日までに提出しなければならない。

授業時間以外でも調査に出向くなど、自ら調べる活動がある。

《備考》

複数回、学外での見学を予定している。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・イントロダクション [①自己紹介、②アイスブレイキングほか] ・大学生活全般 [オリエンテーションおよびフレッシュマンキャンプのフォローアップ]
第 2 週	・大学における学習方法について [①シラバスの活用方法 (学習計画の立て方) ②効果的な学習方法 (事前学習と復習、欠席した授業の補完) ③タイムマネジメント④大学の授業の種類 (講義、演習、実験、実習、フィールドワークほか) ⑤講義形式の授業の受け方 (ノートテイキング、質問の仕方) ⑥課題提出の方法 ⑦定期試験等の準備と受け方について]
第 3 週	・ノートテイキング [①ノートテイキングのスキル ②講義ノートをとる ③ノートテイキングの実際]
第 4 週	・文献・資料の探し方 [① 課題解決のための情報収集の仕方 —文献調査と事項調査— ②図書館の利用方法 ③資料の種類と分類]
第 5 週	・インターネットによる情報収集 [①コンピュータを利用した文献調査 ②インターネットを利用した事項調査] ・情報の整理 [①情報の保存と整理方法 ②文献リストの作成 ③文献リストの活用]
第 6 週	・文献の読み方 (基礎編) [①テキストを読むとは ②専門書の特徴について ③二度読み方式]
第 7 週	・文献の読み方 (応用編) [①深く読むためのスキル (要約する) ②深く読むためのスキル (感想意見をもつ)]
第 8 週	・文献の読み方 (応用編) (つづき)
第 9 週	・レポート (アカデミック・ライティング) の書き方 (基礎編) [①レポートとは何か ②レポート作成の手順 ②-1 スケジュールをたてる ②-2 話題を絞り込む ②-3 最終的な主張を定める ②-4 材料を集める——情報収集 ②-5 アウトラインを考える ②-6 材料を整理する ②-7 構成を考える ②-8 執筆する ②-9 推敲する]
第 10 週	・論文作法 [①引用のしかた ②注のつけかた ③参考文献リストの書きかた ④レポート作成の実際]
第 11 週	・レポート (アカデミック・ライティング) の書き方 (応用編) [①わかりやすい文とは ①-1 文の長さ ①-2 読点を打つ ①-3 漢字とかなの使い分け ①-4 対応関係 ①-5 段落の設定 ②わかりやすい表現方法とは ②-1 「箇条書き」で表現する ②-2 「表」「グラフ」で表現する]
第 12 週	・レポート (アカデミック・ライティング) の書き方 (応用編) (つづき)
第 13 週	・プレゼンテーションスキル (基本編) [①プレゼンテーションの種類と特徴 ②プレゼンテーションのツール ③話すプレゼンテーションが完成するまで ④レジュメの作成]
第 14 週	・プレゼンテーションスキル (応用編) [①プレゼンテーションツールの活用 ②スライド作成の基本 ③スライドを作る (例：PPT など) ④読み原稿を作る ⑤リハーサルをする]
第 15 週	・I期のふり返り [①自己目標の確認と達成度の自己評価 ②グループ活動における達成度の自己評価]

《専門基礎科目》

科目名	演習 I				
担当者名	田端 和彦・吉原 恵子・稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

I 期に引き続き、大学生として学ぶための基礎的な能力を身につけることを狙いとする。社会福祉やソーシャルワークをテーマとして、バリアフリーやコミュニティなどの課題について、グループディスカッション、レポート作成、プレゼンテーションなどを行う。一連の演習の作業の中で、チームワークを養い、リーダーシップを発揮する術を学ぶ。特に事前の学習や調査を経て、プレゼンテーションにいたる一連の作業をチームで行うが、こうした学習を通し、ソーシャルワーカーとして、あるいは福祉を学ぶ者としての自覚を促す。

《授業の到達目標》

異なる個性、能力を持ったメンバーで構成されるチームにおいて、協調性を保ちながら自らの能力を最大限に発揮しチームに貢献する自覚を持ち、そのための能力を向上させることができる。
 チーム活動のためのリーダーシップを発揮することができる。
 プレゼンテーションに関するノウハウや知識を身につける。
 社会福祉やソーシャルワーク活動に関する基礎的な知識を身につける。

《テキスト》

演習 I (I 期) 参照のこと。

《参考文献》

授業中に指示します。

《成績評価の方法》

授業への参加態度およびグループにおける活動への参加。(配点：意欲・関心、協力性 45 点)
 学習スキルの獲得(課題、提出物)。(配点：知識とスキルの獲得度 55 点)
 規定に基づき 1/3 以上の欠席があれば評価の対象としない。

《授業時間外学習》

ほぼ毎回レポート課題があるので、それを指定された期日までに提出しなければならない。
 時間外に自ら調べ、発表するための準備を行うなどの活動が多い。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・プレゼンテーション・スキル (内容をまとめて発表する) ・要点を聴き取る力
第 2 週	・プレゼンテーション・スキル (内容をまとめて発表する) ・要点を聴き取る力
第 3 週	・プレゼンテーション・スキル (内容をまとめて発表する) ・要点を聴き取る力
第 4 週	・ディベート法 (論点を発見し、相手を説得する力)
第 5 週	・生涯学習社会の背景について理解する
第 6 週	・グローバル化が地域の人々に与える影響について考える
第 7 週	・人の発達課題を理解し、高齢者の学習課題を考える
第 8 週	・男女共同参画社会における家族について考察する
第 9 週	・情報化社会の特徴を知るとともに、社会に与える影響について考える
第 10 週	・地域住民による活動を通してまちづくりを考える
第 11 週	・地域住民による活動を通してまちづくりを考える
第 12 週	・将来の進路を考える。「高齢者福祉」、「児童福祉」、「障がい者福祉」
第 13 週	・将来の進路を考える。「高齢者福祉」、「児童福祉」、「障がい者福祉」
第 14 週	・将来の進路を考える。「精神保健／医療福祉」、「心理福祉」、「地域福祉」
第 15 週	・将来の進路を考える。「精神保健／医療福祉」、「心理福祉」、「地域福祉」

《専門コア科目》

科目名	現代社会と福祉 I				
担当者名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。また VHS や DVD などの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することを目的としている。

《授業の到達目標》

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し、社会福祉問題を総合的視点に立って論理的にとらえる視点を養う。

《テキスト》

新版『社会福祉士養成講座 1 現代社会と福祉』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

『人口減少時代の社会福祉学』小田兼三編著、ミネルヴァ書房

《成績評価の方法》

授業参加等に関する評価 50%、定期試験による評価 50%

《授業時間外学習》

テキストの関連箇所を予習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 1年の講義計画、講義内容の概説、および受講の心得について説明し、社会福祉に関わる基本的文献について紹介、解説する。
第 2 週	社会福祉の概念 「社会福祉学を学ぶとは何か」という根本的な命題を考える。実態概念としての社会福祉と目的概念としての社会福祉という基本的な専門概念に言及しながら概説する。
第 3 週	社会福祉の理論と理念 社会福祉の代表的な理論である考橋、岡本、三浦をとりあげそれぞれについて概説する。また比較考察としてティトムス、マーシャルについても言及する。
第 4 週	社会福祉の制度および法体系 社会福祉法、および福祉を形成する福祉六法、社会福祉に関係するさまざまな法とその体系について学ぶ
第 5 週	社会福祉の制度および法体系 法が規定する行為や活動の総体が「制度」、すなわち法の実体である。大別すると所得保障、医療保障、そして自立保障の3つに分けられる社会保障の制度とあおの内容について概説する。
第 6 週	日本の社会福祉の歴史的沿革 福祉概念はどのように生まれ、近代の福祉へと形成、展開してきたのかという問題を扱う。
第 7 週	近代社会と社会福祉 とりわけ戦後の窮乏社会と G.H.Q との関係を通して、日本の貧困救済中心の福祉の展開を考察する。
第 8 週	現代社会と社会福祉 1970 年代以降の日本福祉国家について、ケインズ主義に基づいたグローバル福祉国家論を中心に考察を深める。
第 9 週	少子高齢化社会の現状と課題 社会福祉基礎構造改革の主要因としての少子化問題、高齢者比率の増加による医療、年金問題について、資料、データに基づいて議論する。
第 10 週	福祉政策におけるニーズと資源 「福祉需要とは何か」「福祉におけるニーズ」とは何かという問題を、M.フーコーの「生一権力論」を作業仮説としてとりあげながら考察を深める。
第 11 週	資源論 社会福祉政策を円滑に運用するにはさまざまな社会資源が必要である。根源的な問題でありながら、これまではあまり顧慮されなかった「資源」について、事例を基に考察を深める。
第 12 週	福祉政策と社会問題 (1) 高齢者問題、とりわけ高齢者介護に焦点をあて、介護保険の課題点について事例を基に考察を深める。
第 13 週	福祉政策と社会問題 (2) 児童、家庭福祉の問題をとりあげ、事例を基に考察を深める。
第 14 週	福祉政策と社会問題 (3) 障害者問題と自立支援法について、事例を基に考察を深める。
第 15 週	まとめと質疑応答

《専門コア科目》

科目名	現代社会と福祉Ⅱ				
担当者名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。また VHS、DVD などの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することを目的としている。

《授業の到達目標》

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し、社会福祉問題を総合的視点に立って論理的にとらえる視点を養う。

《テキスト》

新版『社会福祉士養成講座 1 現代社会と福祉』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考文献》

『人口減少時代の社会福祉学』小田兼三編著、ミネルヴァ書房

《成績評価の方法》

授業参加等に関する評価 50%、定期試験の評価 50%

《授業時間外学習》

テキストの関連箇所を予習しておくこと。

《備考》

「現代社会と福祉Ⅰ」を受講し単位を取得していることが受講の要件となる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	福祉政策と社会問題（4） 生活保護の問題を扱う。制度についてはすでに学んでいるので、ここでは事例に基づいて請う去るを深める。
第 2 週	福祉政策と社会問題（5） コミュニティワークの現状と課題について事例を基に考察を深める。
第 3 週	国際社会と福祉問題 ユニセフ、世界銀行、JICA などの活動を取りあげ、世界という視座から貧困問題について考察する。適宜 VHS、DVD を使用する。
第 4 週	福祉政策の現代的課題（1） 現代の福祉を考える上での主要な問題である「社会的排除」「社会連帯」について概説し、イギリス、フランスの事例を検証する。
第 5 週	福祉政策の現代的課題（2） エスニック・マイノリティーの問題、格差社会、セーフティネットに関して、欧米での政策を中心に考察を深める。
第 6 週	福祉政策の論点（1） 効率性と公平性、普遍主義と選別主義の問題を、福祉先進国といわれる北欧などを事例に考察する。
第 7 週	福祉政策の論点（2） 自立支援とはどういうことなのか。この問題を高齢者介護、および障害者問題の事例を通してさらに深く考察する。
第 8 週	福祉政策の論点（3） 福祉におけるジェンダー問題は避けて通れない。シャドウワークと位置づけられてきた介護労働を事例をもとに歳考察し、理解を深める。
第 9 週	福祉政策の論点（4） 移動する介護労働力としてインドネシア人介護士・看護師の問題を扱う。彼らは福祉労働の供給源として定着し得るのかという問題を考察する。
第 10 週	福祉政策における国の役割について概説する。すでにこれまでの授業で何度も触れているので、ここでは受講生と議論し、批判的な視座から考察を深める。
第 11 週	社会福祉における市場の役割について概説する。市場がうまく機能しているイギリスなどを事例として取り上げ、考察を深める。
第 12 週	福祉供給部門のしくみ、役割について概説する。
第 13 週	福祉供給過程について概説し、事例を基に考察を深める。
第 14 週	福祉利用過程について概説し、福祉の全体像についての理解を確かなものにする。
第 15 週	まとめと質疑応答

《専門コア科目》

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I				
担当者名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

座学が中心となるが、できるだけ現状を理解してもらえようVHS、DVDなどを適宜併用する。本講義はきわめて専門性の高い教科でもあり、毎回専門用語などが頻出する。一回生には理解が大変な部分もあるかもしれない。このため講義では適宜ワークシートによって、その時間の講義内容の重要事項のまとめを行う。これらも出席点として加算するので、休まないことを前提に受講してほしい。

《授業の到達目標》

高齢化は近年の社会福祉学において世界共通のテーマとなっている。本講義ではこうした現状をふまえ、高齢者政策というマクロな視点、および高齢者個人々人への福祉サービスや支援に関する知識というミクロな視点の両面から、高齢者福祉の全体像について概説する。とくに高齢者福祉の要ともいべき介護保険制度とケアマネジメントに着目し、事例を通して福祉のあり方を考える視点を養う。

《テキスト》

新版『社会福祉士養成講座 2 高齢者に対する支援と介護保険制度』社会福祉士養成講座編集委員会変、中央法規出版社

《参考文献》

岡本千秋他編『介護予防実践論』中央法規出版、2006年

《成績評価の方法》

授業等への参加に関する評価 50%、定期試験の評価 50%

《授業時間外学習》

テキストの関連箇所を予習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション。講義内容のガイダンスおよび受講上の注意。
第 2 週	高齢者の定義（1）：高齢者を理解するために、身体的、精神的、生活機能的な3面から考察する。
第 3 週	高齢者の定義（2）：「老いる」とはどのようなことなのか。豊かな「老い」とはどのような状態をさすのかという古典的命題を考える。
第 4 週	高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉、介護需要について理解する（1）：日本における高齢者の地域情勢と家族関係
第 5 週	高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉、介護需要について理解する（1）：日本における高齢者の経済問題と就労、生活保護
第 6 週	高齢者の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉、介護需要について理解する（1）：日本における要介護高齢者の虐待、認知症などの社会問題
第 7 週	高齢者福祉制度の理念と体系（1） 老人福祉法制定の背景、およびその目的、基本理念、実施体制について詳述する。
第 8 週	高齢者福祉制度の理念と体系（2） 老人保健法制定の背景、およびその目的、基本理念、実施体制について詳述する。
第 9 週	高齢者福祉政策（1） 高齢者福祉に関する法制度、および体系について概説する。
第 10 週	高齢者福祉政策（2） ゴールドプラン、新ゴールドプラン、ゴールドプラン 21 について詳述する。
第 11 週	高齢者福祉制度、政策に関する事例問題を扱う。これまでの知識を正しくふまえて、批判的な視座から問題を論じ、福祉の本質を考える。
第 12 週	高齢者に関する関連諸論策（1） 年金、生活保護という所得保障について考える。さらに今後を見据えて高齢者の就労問題についても考察する。
第 13 週	高齢者に関する関連諸論策（2） 高齢者の住環境問題、福祉用具、ユニバーサルデザインに関して概説し、議論する。
第 14 週	成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について概説し、事例を中心に問題点を考察する。
第 15 週	前期のまとめ。質疑応答。

《専門コア科目》

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

I期15回の高齢者の総合的な理解を踏まえて、さらにⅡ期15回で、サービス提供の実際や高齢者の相談支援、高齢者福祉の現状と近未来の課題を、介護も含めて展開する。

《授業の到達目標》

介護保険制度の概要と介護保険の提供サービスの内容は理解する。

《テキスト》

高齢者に対する支援と介護保険制度 新・社会福祉士養成講座 中央法規出版

《参考文献》

授業中適宜示してゆく。

《成績評価の方法》

試験とレポート（50点）と平常点、授業態度（50点）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
毎回、次回の授業内容を示すので予習をしておくこと。
- ・復習の方法
授業内容を再確認し、不明な点は質問する。または自分で調べる。

《備考》

現代の介護をめぐる諸問題に対して、問題解決能力を高めていくことを目指している。
授業の積極的な参加を希望する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	介護保険サービスの体系の序論
第2週	介護支援専門員（ケアマネジャー）について
第3週	居宅・施設・地域密着サービスについて
第4週	高齢者を支援する組織と役割
第5週	高齢者支援の方法と実際
第6週	高齢者を支援する専門職の役割と実際
第7週	介護の概念や対象
第8週	介護過程
第9週	自立に向けた介護
第10週	日常生活の介護
第11週	認知症ケア
第12週	終末期ケア
第13週	居住環境を考える
第14週	高齢者福祉課題の近未来
第15週	総括

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I				
担当者名	田端 和彦・村上 須賀子・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

ソーシャルワークは人と環境との相互作用に介入する専門職である。本実習指導では、以下の点を授業のねらいとしておいている。

- ①社会問題を知る
- ②受講生自らの生活と社会とのつながりを考えられる
- ③ソーシャルワークの視点から社会の現状を分析できる

《授業の到達目標》

- ①ボランティア先で、今何が課題となっているのかが説明できる。
- ②批判的思考ができる。

《テキスト》

「ボランティア体験の手引き」を参照すること

《参考文献》

《成績評価の方法》

本科目は実習指導の一環であるため、出席状況と授業態度で評価する（出席状況 30%、授業態度 70%）。前半 15 回で 3 回以上の欠席があり、それを超えて欠席や遅刻があった場合はボランティア体験に出向くことができない。後半 15 回で 3 回以上の欠席があり、それを超えて欠席や遅刻があった場合は、ボランティア体験を済ませていても不可となる。

《授業時間外学習》

ボランティア体験に必要な自己アピールなど、授業時間外で作成しなければならない文書が多くある。

《備考》

社会福祉実習は学外に出て学ぶ実習である。そのため、担当教員やボランティア先・実習先と綿密に連絡を取る必要がある。学科では、実習指導室を設けているので、是非活用してほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】オリエンテーション 【内容】ソーシャルワーク実習指導 I の位置づけ、目的、課題
第 2 週	【項目】ボランティア先を知る① 【内容】社会福祉施設についての説明
第 3 週	【項目】ボランティア先を知る② 【内容】社会福祉施設と地域との結びつきについて学ぶ
第 4 週	【項目】ボランティア先を知る③ 【内容】さまざまなボランティア活動について学ぶ
第 5 週	【項目】記録の書き方について 【内容】記録の書き方についての説明
第 6 週	【項目】ボランティア体験で目指すもの 【内容】ボランティア体験を通じて何を得心したいのかを整理する
第 7 週	【項目】ボランティア体験先の情報収集 【内容】ボランティア先選定のための情報収集を行う
第 8 週	【項目】マナー教育① 【内容】ボランティア先との連絡の仕方を演習で学ぶ
第 9 週	【項目】マナー教育② 【内容】ボランティア先との連絡の仕方を演習で学ぶ
第 10 週	【項目】ボランティア体験先の交渉① 【内容】ボランティアを受け入れてもらえるように交渉する
第 11 週	【項目】ボランティア体験先の交渉② 【内容】ボランティアを受け入れてもらえるように交渉する
第 12 週	【項目】マナー教育③ 【内容】さまざまな連絡調整が必要な場面を想定しての演習
第 13 週	【項目】マナー教育④ 【内容】さまざまな連絡調整が必要な場面を想定しての演習
第 14 週	【項目】ボランティア体験①
第 15 週	【項目】ボランティア体験②

《専門コア科目》

科目名	社会調査の基盤				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

そもそも社会調査とは何か、こうした疑問から始まり、社会調査が明らかにすることや、その役割を学び、社会調査がなぜソーシャルワークに必要なかを理解することが目的です。ソーシャルワーカーが介入するためには、クライアントの置かれた社会状況を把握しなければなりません。量的、質的な基本的な調査方法を学び、客観的な事実を表す統計表を読み取るために必要な統計的、または制度上の知識を学びます。また実際に行われた社会調査の役割や限界について理解します。さらに実際に社会調査を行う場合の手法や注意点などを理解します。

《授業の到達目標》

- ・ アンケート調査、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができる。
- ・ 統計表を読み取り、地域社会のおかれた状況を理解することができる。
- ・ アンケートの結果を正確に把握し、それに騙されないような知識を身に付けることができる。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考文献》

ティム・メイ『社会調査の考え方：論点と方法』世界思想社

《成績評価の方法》

テストが60%、日常点（宿題、小テスト）が40%です。

《授業時間外学習》

テキストの指示する場所を事前に読んでおいて下さい。
復習に関連する宿題を課しますのでそれを提出して下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス・社会調査の歴史とその意義①
第 2 週	2 社会調査の歴史とその意義②
第 3 週	3 量的調査と質的調査
第 4 週	4 日本の統計制度と社会福祉に必要な統計
第 5 週	5 調査結果の分析の基礎①記述統計
第 6 週	6 調査結果の分析の基礎②集計
第 7 週	7 調査結果の分析の基礎③回帰・相関
第 8 週	8 アンケート調査の具体的な進め方①～母集団と標本集団
第 9 週	9 アンケート調査の具体的な進め方②～調査票の配布と回収
第 10 週	10 アンケート調査の具体的な進め方③～設問の作り方
第 11 週	11 アンケート調査の具体的な進め方④～分析の方法
第 12 週	12 観察の方法～非参与観察、参与観察とは
第 13 週	13 インタビュー調査の方法～①構造化インタビュー
第 14 週	14 インタビュー調査の方法～②非構造化インタビュー
第 15 週	15 インタビュー調査の方法～③グループインタビュー

《専門コア科目》

科目名	社会調査の応用				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会調査の基礎を踏まえて、パソコンを使って実際にアンケートの分析やインタビューを行い、基礎で学んだ内容の定着と具体的な方法を理解します。アンケート調査については、簡単なアンケートを実施し、その結果について、SPSS（社会科学における統計パッケージ）を使って分析の手法を学びます。また、互いにインタビューをしてその手法について確認します。

《授業の到達目標》

- ・ アンケートを実施し分析することができる。

《テキスト》

ありません。プリントを配布します。

《参考文献》

石村貞夫『SPSSによる統計処理の手順』東京図書
内田 治『すぐわかる SPSSによるアンケートの調査・集計・解析』東京図書

《成績評価の方法》

レポートが60%、日常点（実技等）が40%です。

《授業時間外学習》

宿題を課しますのでそれを提出して下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス/パソコンの使い方
第 2 週	2 SPSS とは何か
第 3 週	3 SPSS を使ったのデータ入力の方法
第 4 週	4 アンケート調査の内容とそのデータについて
第 5 週	5 アンケート調査の分析① 分析手法のあれこれ
第 6 週	6 アンケート調査の分析② 単純集計の方法
第 7 週	7 アンケート調査の分析③ クロス集計の方法
第 8 週	8 アンケート調査の分析④ 検定について 1
第 9 週	9 アンケート調査の分析⑤ やってみよう 1
第 10 週	10 アンケート調査の分析⑥ 統計値と集計
第 11 週	11 アンケート調査の分析⑦ 回帰分析と相関分析
第 12 週	12 アンケート調査の分析⑧ 検定について 2
第 13 週	13 アンケート調査の分析⑨ やってみよう 2
第 14 週	14 インタビューの実際①
第 15 週	15 インタビューの実際②

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

教職の歴史や意義とはどのようなものか、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事とはどのようなものか、教員の身分保障と地位はどのようなものか、求められる教師の資質能力について、教育職員免許状の授与と取得の条件とはなにか、教師の研修、服務とはどのようなものか、等について解説し、その理解をねらいとする。

《授業の到達目標》

教員の資質向上が焦眉の課題である状況のなかで、教育実習をおこなう教職課程履修者は、その責任が以前にも増して重くなったことをよく認識して、教育実習に積極的に取り組むことが求められよう。その意味で本講義は将来、教職の道をめざす履修者にとって、教師になるための基礎的・基本的態度と知識を学ぶことを目指す。

《テキスト》

『新しい教職概論・教育原理』 広岡義之編著（関西学院大学出版会）2008年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教職の意義と歴史について
第 3 週	教職員組織について
第 4 週	教師の職務と学校の運営について
第 5 週	現場教師（小・中・高等学校）の実際について
第 6 週	大学における教職への動機づけ
第 7 週	教師の養成と免許について
第 8 週	教師の採用・研修・身分保障について
第 9 週	教育職員免許上の授与と取得の条件
第 10 週	求められる教師の資質能力について
第 11 週	生涯学習社会と「開かれた学校」への方向転換
第 12 週	「学ぶ力」の育成と教師の資質能力
第 13 週	教育荒廃と教師の役割
第 14 週	教師の悩みと不安
第 15 週	本講義のまとめと重要箇所の復習

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を伝統的教育学と実存主義教育との対比を通して教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、様々な教育思想家の主張を援用しつつ、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などにも言及したい。また社会で求められる教育的課題という観点から、平和教育、高齢者教育、家庭教育、環境教育、言語教育等の領域について教育人間学的手法で論じてゆくことにする。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《テキスト》

- 『新しい教育学概論』 広岡 義之著（創言社）2007年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	人間形成の意義と課題
第 3 週	伝統的な教育学と実存的教育学の関連性
第 4 週	ソクラテスにおける「助産術」の教育学的意義と課題
第 5 週	プラトンにおける「洞窟の譬喩」の教育学的意義と課題
第 6 週	ブーバーにおける「われーなんじ」論の教育学的意義と課題
第 7 週	フランクルの人間形成論の教育学的意義と課題
第 8 週	「人生の意味」を充足するための教育的意義と課題
第 9 週	実存的空虚の時代の教育的意義と課題
第 10 週	言語教育の教育学的意義と課題
第 11 週	家庭教育の教育学的意義と課題
第 12 週	高齢者教育の教育学的意義と課題
第 13 週	環境教育の教育学的意義と課題
第 14 週	平和教育の教育学的意義と課題
第 15 週	主体的な生き方・あり方教育の意義と課題

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的 position についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《テキスト》

1. 『教育の制度と歴史』 広岡 義之編著 (ミネルヴァ書房) 2007年
2. 『教育用語集』(仮題) 広岡 義之編著 (ミネルヴァ書房) 2010年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためであるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 3 週	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史
第 4 週	17・18 世紀の教育制度と教育の歴史
第 5 週	西洋近代公教育制度の発達
第 6 週	19・20 世紀の教育制度と教育の歴史
第 7 週	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向
第 8 週	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 9 週	日本近世・近代の教育制度と教育の歴史
第 10 週	国民教育の確立
第 11 週	日本近代教育制度の拡充と教育運動
第 12 週	戦時体制下の教育制度と教育
第 13 週	戦後日本の教育改革および教育制度改革
第 14 週	現代日本教育制度と教育行政
第 15 週	現代日本の教育改革

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらいおよび概要》

学校教育の重大問題として、学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられる。これらの背景には、現代を生きる子どもたちのこころの発達ゆがみがあると考えられるが、これらに対して、教師はどのようなことができるだろうか？

人と人との関係を考えていくうえでのヒントは、悩むひとたちと治療者との関係の中で見出された事例の積み重ねによって理論化された、臨床心理学の理論の中に多くあるといっても過言ではない。そこでこの授業では、教師が子どもたちと関係性を構築していくためのスキルとして、カウンセリングの基礎を体験しながら学ぶことをめざす。そして後半は各年代の子どもたちの事例を取り上げるが、各自が子どもたちの問題について自分なりの対処法を見出していけるよう、自分の耳で聴き、感じたことを大切にしていける方法についても学んでほしい。

《授業の到達目標》

1. カウンセリングの基礎を学び、ひとの話を集中して聴くことができるようになること。
2. 自分自身のこころに焦点をあてて、そこに耳を傾けられるようになること。
3. 近年の学校現場での様々な問題に、自分なりの視点をもてるようになること。

《テキスト》

必要な資料は、適宜配布する。

《参考文献》

1. 「スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本」 滝口俊子・田中慶江編 創元社（1400 円＋税）
2. 「特別支援教育のための 100 冊」 特別教育支援プロジェクトチーム 創元社（1800 円）

《成績評価の方法》

授業への取組み 30% レポート 20% 授業内容の理解 50%

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリスト（上記の参考文献にとりあげられている 112 冊＋100 冊）を配布する。半期の間にできるだけ多くの本を手にとり読んでいただきたい。そしてこの中から自分の興味のある本を一冊えらんで、手書きで原稿用紙又はレポート用紙 5 枚の感想文を提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	授業計画
第1週	オリエンテーション：教育相談とは何か
第2週	カウンセリングの基礎理論
第3週	聴くということ
第4週	自分でできるカウンセリング
第5週	カウンセリング実習①
第6週	カウンセリング実習②
第7週	前半のまとめ
第8週	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題①
第9週	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題②
第10週	事例研究：乳幼児の事例
第11週	事例研究：小学生の事例
第12週	事例研究：中学・高校生の事例
第13週	家庭との連携のあり方
第14週	地域機関との連携のあり方
第15週	今後に生かす教育相談

平成 21 年度
(2009 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成22年度の 担当者		
			必修	選択			1年		2年		3年		4年				
							I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 基 礎 教 科	法学	講義		2				2									
	生涯発達心理学Ⅰ	講義		2				2									
	生涯発達心理学Ⅱ	講義		2					2								(森田 義宏)
	生涯学習論	講義		2				2									
	人間の生物学的機能と反応	講義	2		○	◇		2									
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◇		2									
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◇		2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○				2								Sung Lai Boo
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○					2							Sung Lai Boo
	美と感性	講義		2				2									
	ライフデザイン論	講義		2									2				
	行政法	講義		2					2								
	家族社会学	講義		2						2							[菊地 真理]
	家族福祉論	講義		2							2						高橋 千代
	発達心理学	講義		2				▲		2							[山田 佳代子]
	人間関係論	講義		2							2						(森田 義宏)
	親子関係の心理学	講義		2								2					
	健康心理学	講義		2							2						[山田 佳代子]
	集団心理学	講義		2								2					
	社会心理学	講義		2						2							
	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義		2							2						[石井 佑可子]
	コミュニケーション心理学Ⅱ	講義		2								2					不開講
教育心理学	講義		2				△			2						[山田 佳代子]	
ライフステージと健康	講義		2										2				
食文化論	講義		2					2									
食生活論	講義		2						2								
レクリエーションワークⅠ	講義		2					2									
レクリエーションワークⅡ	講義		2						2								
演習Ⅰ	演習	4						4									
演習Ⅱ	演習	6								6							Boo・田端・吉原・村上・稲富
専 門 コ ア 目 科	現代社会と福祉Ⅰ	講義		2	○	◇	△	2									
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2	○	◇	△	2									
	社会保障論Ⅰ	講義		2	○	◇				2							河野 真
	社会保障論Ⅱ	講義		2	○	◇					2						河野 真
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義		2	○		△	2									
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○		△	2									
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義		2	○		△			2							井上 浩
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2	○		△			2							高橋 千代
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○	◇					2						田端 和彦
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義	2		○	◇						2					
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○	◇					2						[西澤 正一]
	就労支援の制度とサービス	講義		2	○							2					
	権利擁護と成年後見制度	講義		2	○	◇						2					
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義	4		○	◇	△				4						高橋・井上
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義	4		○	◇	△					4					
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1		○		△		2								田端・高橋・井上・桐石	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	1		○		△					2					田端・高橋・井上	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1		○		△						2					
社会調査の基盤	講義		2		○			2									
社会調査の応用	講義		2					2									

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成22年度の 担 当 者		
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 科 目	介護概論	講義		2			△					2						桐石 梢
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習		4	○		△							4				
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習		4	○		△								4			
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習		2	○		△									2		
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△								12			
	社会統計学Ⅰ	講義		2								2						[和田 武夫]
	社会統計学Ⅱ	講義		2								2						[和田 武夫]
	地域経済論	講義		2										2				
	福祉行財政と福祉計画	講義		2	○	◇									2			
	福祉工学	講義		2												2		
	まちづくり論	講義		2											2			
	国際福祉論	講義		2													2	
	スクールソーシャルワーク	講義		2													2	
	更生保護制度	講義		1	○											1		
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○											2		
	インターンシップ	実習		4												12		
	社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2							②	②	②	②	②	②	②	不開講
	社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2							②	②	②	②	②	②	②	不開講
	教 育 科 目	医療福祉論	講義		2	○	◇									2		
応用医療福祉論		講義		2											2			
精神保健福祉論		講義		6									6					桐石 梢
精神医学Ⅰ		講義		2		◇							2					桐石 梢
精神医学Ⅱ		講義		2		◇							2					桐石 梢
精神保健学Ⅰ		講義		2		◇								2				
精神保健学Ⅱ		講義		2		◇									2			
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		講義		2											2			
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		講義		2											2			
精神科リハビリテーション学Ⅰ		講義		2											2			
精神科リハビリテーション学Ⅱ		講義		2											2			
精神保健福祉援助演習		演習		4		◇									4			
精神保健福祉援助実習		実習		4		◇										12		
老年医学		講義		2											2			
認知心理学		講義		2									2					北島 律之
臨床心理学		講義		2									2					琴浦 志津
心理測定法		講義		2									2					北島 律之
心理学基礎実験		実験		2										4				北島 律之
心理療法Ⅰ		講義		2									2					琴浦 志津
心理療法Ⅱ		講義		2									2					琴浦 志津
心理検査法実習		実習		2											4			
行動分析論		講義		2												2		
心理カウンセリング演習		演習		2													2	
老人・障害者の心理	講義		2												2			
色彩論	講義		2												2			
社会福祉特別演習	演習		4													4		
卒業演習	演習		4														4	

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成22年度の担当者	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教職に関する科目	教職概論	講義	2				△	2									
	教育原理	講義	2				△	2									
	教育制度論	講義	2				△	2									
	教育課程論	講義	2				△			2							(廣岡 義之)
	福祉科教育法	講義	4				△				4						
	特別活動論	講義	2				△			2							[上寺 常和]
	教育方法・技術論	講義	2				△			2							(平井 尊士)
	生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2				△			2							(廣岡 義之)
	教育相談 (カウンセリングを含む)	講義	2				△	2									
	総合演習	演習	2				△					2					
	事前・事後指導	演習	1				△						1				
	高等学校教育実習	実習	2				△							4			

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を履修すること。

《専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学Ⅱ				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもからおとなになることについての様々な課題や問題を理解し、大人になることへの支援を学ぶ。そして、おとなが自分の人生を“生きる”こととは何か、自分の人生を“生きる”ことにまつわる困難さや問題を理解し、人生を“生きる”ことへの支援について学ぶ。

子どもから大人への移行、青年期の意味と特徴、学校から社会への移行、働くことと家庭を持つことについての問題、中年期、老年期の人々の抱える種々の問題、成長から成熟へ、老いへの適応、老いから生じる問題を取りあげる。

《授業の到達目標》

青年期の課題・心理、青年が抱える問題について説明できる。成人期の課題、心理、問題について説明できる。中年期の課題、心理、問題について説明できる。老年期の課題、心理、問題について説明できる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《成績評価の方法》

試験 70%、提出物 30%

《授業時間外学習》

青年が関係する事件や出来事について新聞やTV、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。
 成人が関係する事件や家庭の問題について新聞やTV、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。
 熟年といわれる人たちのリストラや、家庭崩壊、離婚などをめぐる事件や問題について新聞、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。老人に関して報道されている事件や問題について新聞やTV、雑誌、ネットなどからピックアップし報告する。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	おとなになるとは 大人の定義と概念 青年期の課題と青年期のとらえ方
第 2 週	青年期の心理的特徴① 周辺人としての青年
第 3 週	青年期の心理的特徴② 青年期前期の心理 1 自我の覚醒と自立への要求
第 4 週	青年期の心理的特徴③ 青年期前期の心理 2 敏感と不安定
第 5 週	青年期の心理的特徴④ 青年期中期の心理
第 6 週	青年期の心理的特徴⑤ 青年期後期の心理
第 7 週	青年から成人へ① 恋愛と結婚 少子化時代の結婚と家庭
第 8 週	青年から成人へ② キャリア形成の心理学 学校から職業世界への移行の問題
第 9 週	成人期の心理 男女共同参画社会での仕事と家庭 自分の人生を生きる・配偶者と生きる・人生を創る
第 10 週	中年期の心理① 職場・家族のなかの自分らしさとは？自分を見失うとき うつ病と自殺
第 11 週	中年期の心理② 夫婦と家庭の危機 人生の成功と挫折 子どもの教育・後進の育成の問題
第 12 週	老年期の心理① 定年（組織社会からの引退）と人生の再出発・再構築
第 13 週	老年期の心理② 老いの受容と老いへの適応
第 14 週	老年期の心理③ 認知症と介護生
第 15 週	まとめ

《専門基礎科目》

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 I				
担当者名	Sung Lai Boo				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

この科目のねらいと概要は、ソーシャルワークの専門的実践とソーシャルワーク専門職の本質と基盤についての知識を獲得し、理解することである。つまり、本科目は、グローバル社会で変化していく日本の社会的、経済的、政治的状況の中で、コミュニティや人間関係の問題、ニーズ、また困難という幅広い領域での文脈において、支援/援助を必要とする個人、家族、コミュニティを対象にサービスを提供するためのソーシャルワークの基礎的知識と共通かつ全般的な要素をジェネラリスト実践の視点から理解できるように構成されている。

ソーシャルワーク実践の入門としての本科目の内容は、国際ソーシャルワーカー連盟、米国、日本によって定義されているソーシャルワーク専門職の使命、目的、価値、倫理である重要な概念に基づいている。

《授業の到達目標》

- (1) ソーシャルワーカーの業務、役割と多様な公私機関の意義について理解し、説明できる。
- (2) ソーシャルワークの概念、範囲、形成過程について理解し、説明できる。
- (3) ソーシャルワークの実践理念、目的、知識、価値について理解し、説明できる。
- (4) ソーシャルワーク実践における権利擁護の意義と範囲について理解し、基本的意味を説明できる。
- (5) ソーシャルワークに関わる専門職の概念、範囲、専門職倫理について理解し、説明できる。
- (6) ジェネラリスト・ソーシャルワークによる総合的・包括的支援とチームアプローチの意義と内容について、農村・小都市の文脈の中で理解し、説明できる。

《テキスト》

特に指定しない。毎回、レジュメを配布する。

《参考文献》

社会福祉学事典、ソーシャルワーク事典など

Barry Locke, *Generalist Social Work Practice: Context, Story, and Partnerships*, 1998

《成績評価の方法》

定期試験 30%、小テスト 30%、課題レポート 40%

《授業時間外学習》

担当教員の指示により、実習指導室にて「福祉新聞」、図書館において社会福祉事典などを讀んだ上で作成する課題がある。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	科目オリエンテーション： 授業全体の概要と学生への期待
第 2 週	ソーシャルワークとは何か： 日本、米国、国際ソーシャルワーカー連盟、国連などの定義を中心とした比較
第 3 週	ソーシャルワークの社会的基盤： マトリックス
第 4 週	ソーシャルワーク専門職と社会の基本的特徴と機能
第 5 週	ソーシャルワークの基本的実践枠組み（1）： 使命、目的、社会的認知、価値と倫理
第 6 週	ソーシャルワークの基本的実践枠組み（2）： 理念、知識、技術
第 7 週	ミルフォード会議の意義： ジェネリックとスペシフィック（1）
第 8 週	ミルフォード会議の意義： ジェネリックとスペシフィック（2）
第 9 週	ホリスティック報告と国連の定義
第 10 週	ソーシャルワーク実践に使用された定義
第 11 週	全米ソーシャルワーク教育協議会(CSWE)の定義と最近の動向
第 12 週	ジェネラリスト・ソーシャルワーク： 仮説、哲学、役割
第 13 週	農村・小都市とジェネラリスト・ソーシャルワーク実践の視点
第 14 週	課題演習
第 15 週	総括

《専門基礎科目》

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ				
担当者名	Sung Lai Boo				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この科目のねらいと概要は、ソーシャルワークの専門的実践とソーシャルワーク専門職の本質と基盤についての知識を獲得し、理解することである。つまり、本科目は、グローバル社会で変化していく日本の社会的、経済的、政治的状況の中で、コミュニティや人間関係の問題、ニーズ、また困難という幅広い領域での文脈において、支援/援助を必要とする個人、家族、コミュニティを対象にサービスを提供するためのソーシャルワークの基礎的知識と共通かつ全般的な要素をジェネラリスト実践の視点から理解できるように構成されている。

ソーシャルワーク実践の入門としての本科目の内容は、国際ソーシャルワーカー連盟、米国、日本によって定義されているソーシャルワーク専門職の使命、目的、価値、倫理である重要な概念に基づいている。

《授業の到達目標》

- (1) ソーシャルワーカーの業務、役割と多様な公私機関の意義について理解し、説明できる。
- (2) ソーシャルワークの概念、範囲、形成過程について理解し、説明できる。
- (3) ソーシャルワークの実践理念、目的、知識、価値について理解し、説明できる。
- (4) ソーシャルワーク実践における権利擁護の意義と範囲について理解し、基本的意味を説明できる。
- (5) ソーシャルワークに関わる専門職の概念、範囲、専門職倫理について理解し、説明できる。
- (6) ジェネラリスト・ソーシャルワークによる総合的・包括的支援とチームアプローチの意義と内容について、農村・小都市の文脈の中で理解し、説明できる。

《テキスト》

特に指定しない。毎回、レジュメを配布する。

《参考文献》

社会福祉学事典、ソーシャルワーク事典など

Barry Locke, *Generalist Social Work Practice: Context, Story, and Partnerships*, 1998

得津 慎子 「ソーシャルワーク援助技術論—理論と演習—」西日本法規出版 2002年4月6日

《成績評価の方法》

定期試験 30%, 小テスト 30%, 課題レポート 40%

《授業時間外学習》

担当教員の指示により、実習指導室にて「福祉新聞」、図書館において社会福祉事典などを讀んだ上で作成する課題がある。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	前期の振り返りとソーシャルワーク専門職の範囲
第 2 週	ソーシャルワーク専門職の初期の形成過程
第 3 週	慈善組織協会とセツルメントハウス運動の流れを学ぶ
第 4 週	ソーシャルワーク教育と専門職団体、組織 「ソーシャルワークは専門職か」—1915年アブラハム・フレックスナーの講演
第 5 週	多様なソーシャルワーク専門職に対する議論
第 6 週	福祉行政と行政組織 官僚制度の本質と専門職の文化
第 7 週	民間の施設、組織における専門職/諸外国における social work の専門職業
第 8 週	ソーシャルワーク実践におけるアドボカシー
第 9 週	ソーシャルワーク専門職の価値の原則と倫理綱領、倫理的ジレンマ
第 10 週	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な実践の意義と内容
第 11 週	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携 (チームアプローチ) の意義と内容
第 12 週	日本におけるソーシャルワーク実践の理念 ①人権尊重 ②社会正義 ③利用者本位 ④尊厳の保持 ⑤権利擁護 ⑥自立支援 ⑦社会的包摂 ⑧ノーマライゼーション
第 13 週	国際連盟と日本、韓国におけるソーシャルワーク専門職の倫理綱領比較
第 14 週	日本におけるソーシャルワーク実践—理念そのものの現実性と応用における課題
第 15 週	総括

《専門基礎科目》

科目名	家族社会学				
担当者名	菊地 真理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、家族社会学の基本的概念や理論をふまえ、家族関係や家族と社会との関係、その歴史的变化について学習する。そして、私たちが経験しがちなライフイベントを、ライフコースの時間軸に沿って各回で取り上げ解説する。未婚・晩婚化、少子高齢化、離婚・再婚の増加といった動向のなかで現れた、多様な家族経験の事例についても紹介する。授業を通じて、家族にいま何が起きているのかを理解するだけでなく、これから家族はどうなっていくのか、それを支える社会のあり方についても、考える手がかりを得ることを目指す。授業のテーマに合わせてVTR資料を視聴することもある。

《授業の到達目標》

- ・「当たりまえの家族」「ふつうの家族」といったイメージや常識を再考できるようになる。
- ・家族を対象として展開してきた、家族社会学の基本的概念と研究関心の射程を理解する。
- ・統計資料や研究事例から、現代家族の動向を読み解くちからを身につける。

《テキスト》

テキストはとくにさだめない。適宜、授業内で配布する。

《参考文献》

野々山久也（編）『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009年
 藤見純子・西野理子（編）『現代日本人の家族－NFRJ からみたその姿－』有斐閣ブックス、2009年
 落合恵美子『21世紀家族へ－家族の戦後体制の見かた・超えかた－』有斐閣、2004年

《成績評価の方法》

平常点（出席・授業態度・リアクションペーパー）20％、ミニレポート20％、定期試験60％

《授業時間外学習》

- ・授業後の復習や自己学習のために、参考文献のなかから関連のあるトピックを選び読んでみる。
- ・日ごろから新聞や情報誌などに触れ、家族に関する記事を積極的に探索すること。

《備考》

私語と遅刻は厳禁（減点の対象となる）。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	イントロダクション： 「多様化」する現代家族を考える
第2週	「家族」とは何か？： 「家族」の定義と範囲について
第3週	近代家族の成立と展開①： 戦前家族とイエ制度
第4週	近代家族の成立と展開②： 高度経済成長のなかの家族
第5週	家族のストレスとサポート： 「家族問題」を分析するための視角とアプローチ
第6週	未婚化社会と親子関係： ポスト青年期、バラサイト・シングル
第7週	家族儀式の変遷： 結婚式からみる家族の変化
第8週	結婚とパートナー関係： 晩婚化、配偶者選択、パートナーシップの多様化
第9週	出産と子育て： 少子化、子育てとジェンダー、子育て支援
第10週	海外の子育て： 子育ての国際比較、海外の子育て支援
第11週	企業社会と家族： 労働とジェンダー、ワーク・ライフ・バランス
第12週	離婚とひとり親家庭： 離婚後の家族関係とその諸問題
第13週	再婚とステップファミリー： 再婚後の家族関係とその諸問題
第14週	高齢期の家族： 少子高齢化、介護
第15週	まとめ： 授業を振り返り、これからの家族のゆくえを考える

《専門基礎科目》

科目名	家族福祉論				
担当者名	高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

近年の家族の小規模化により、社会的な支えがなければ子育てや老親の介護の機能を家族が果たしていくことが困難になった。また、子どもや老親への暴力、夫婦間での暴力が深刻化している。家族福祉は、家族メンバーの福祉を根底に置き、家族の再構築について考える。

《授業の到達目標》

家族福祉を個人々の権利擁護や社会参加との関わりから説明できる。家族における集団と個人、自立と共存についての視点が持てる。子育て、介護、暴力などの家族問題に対応するためのソーシャルワークの実際を知る。

《テキスト》

「臨床に必要な家庭福祉」 宮本和彦 弘文堂

《参考文献》

随時紹介

《成績評価の方法》

レポート（70%）、小テスト（30%）

《授業時間外学習》

多様化する家族と問題を考える。自らの家族の自立・共存関係を考える。現代の家族に必要な家族福祉のあり方を考える。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	家族の自明性とその揺らぎ（家族らしさ、規範としての家族、家族機能）
第 2 週	家族の変化（家族の歴史的变化、現代家族の課題、権利擁護と家族）
第 3 週	家族福祉の基礎概念（家族福祉の考え方、家族集団と個人、夫婦関係、自立と共存）
第 4 週	家族福祉の諸技法（家族福祉の理論、家族福祉の技法、エンパワメント）
第 5 週	家族療法の実際（家族療法について、家族援助の実際、家族の歴史への介入）
第 6 週	子育てと家族福祉（子育ての困難さ、地域子育て支援システム、ワークライフバランス）
第 7 週	介護と家族福祉（介護負担、地域包括ケアシステム）
第 8 週	障がい児・者と家族福祉（家族と当事者の自立、ノーマライゼーション）
第 9 週	暴力と家族福祉①（ドメスティック・バイオレンスの実態、発生要因と支援、支援機関）
第 10 週	暴力と家族福祉②（児童虐待の実態、発生要因と支援、児童虐待防止法）
第 11 週	暴力と家族福祉③（老親虐待の実態、発生要因と支援）
第 12 週	ひとり親家庭と家族福祉（ひとり親家庭の現状、課題と支援）
第 13 週	再婚家庭と家族福祉（再婚家庭の現状、課題と支援）
第 14 週	里子・里親と家族福祉（里親制度の現状、課題と支援）
第 15 週	死別と家族福祉（死別後の悲嘆、グリーフケア）

《専門基礎科目群》

科目名	発達心理学				
担当者名	山田 佳代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

発達とは、人間が受精してから死に至るまでの変化過程のことである。ただし、その変化は、例えば、赤ちゃんが歩けるようになったなどのような進歩的発達だけでなく、退化的発達もある。これは、壮年期以降は、心身の発達は少しずつ衰えていく傾向を示すが、自己の専門性は向上していく。このように、発達心理学は、一生涯の変化を取り扱う。本講義では、各発達段階の基本的事項を押さえ、関心をもてるように最近の話題を取り入れながら、発達心理学の概要をできるだけ分かりやすく説明していく。

《授業の到達目標》

発達心理学の基礎的知識の習得を目指す。そして、発達の各段階を独立してみていくのではなく、発達という枠組みの中で、関連性を見出していくことを目標にする。

《テキスト》

発達心理学 山本利和編 培風館

《参考文献》

適宜、指示する。

《成績評価の方法》

試験(90%)と平常点(出席点など)(10%)で評価する。

《授業時間外学習》

配付プリントがある時には、ファイルなどして整理し、管理すること。次回の予習のために、指定した範囲で教科書を読んでおくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	発達心理学とは？ 発達心理学の概要の説明□
第 2 週	発達の意味を考える
第 3 週	発達の理論 代表的な理論の説明など
第 4 週	胎児期から誕生まで 胎児期の発達などについて
第 5 週	乳児期 新生児期も含め、心身の発達などについて
第 6 週	幼児期前期 幼児期前期(3歳くらいまで)の発達について
第 7 週	幼児期後期 幼児期後期(6歳くらいまで)の発達について
第 8 週	学童期 身体・知的・社会性の発達などについて
第 9 週	種々の発達検査 発達検査の概要について
第 10 週	青年期① 青年期の発達についての概要について
第 11 週	青年期② アイデンティティ、青年期における発達課題について
第 12 週	成人期 成人の認知能力・人格発達・家庭・労働などについて
第 13 週	中年期・老年期① 生理的能力の変化・知的能力の変化・パーソナリティの変化などについて
第 14 週	中年期・老年期② 生理的能力の変化・知的能力の変化・パーソナリティの変化などについて
第 15 週	まとめ

《専門基礎科目》

科目名	人間関係論				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

良好な人間関係は困った時に支え助けてくれるが、良好でない人間関係は敵対的で、時には傷つけられる危険性すらあり、ストレスのもととなる。この授業では人間関係や良好な人間関係の作り方などに関する理論、実験、実践例などについて心理学の観点から学ぶ。授業では、社会の中の人間関係と個人の視点からの人間関係について概念を整理しながら学びを深めていく。前者では集団とリーダーシップのダイナミクスを学び、後者での人間関係を対人関係という概念に置き換え、コミュニケーション、自己理解、自己意識、対人関係の発達、対人関係の分析、対人関係の病理などについて学ぶ。

《授業の到達目標》

人間関係についての基礎的な専門用語について説明できる。
 自分をとりまく人間関係をある程度分析できる。
 良い人間関係をつくるスキルを日々の生活に応用できる。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中に随時紹介する

《成績評価の方法》

試験 70%、レポートなど提出物 30%

《授業時間外学習》

人間関係の悩みについての記事を新聞、雑誌、web 上から探し、報告する
 自分をとりまく人間関係について、授業で学んだこととの関連を探して、報告する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 現代の人間関係の特徴と問題
第 2 週	人間関係論と対人関係のちがひ 人間関係論のはじまり；ホーソン研究と集団力学
第 3 週	集団とリーダーシップ リーダーシップ研究の変遷 その 1
第 4 週	集団とリーダーシップ リーダーシップ研究の変遷 その 2
第 5 週	対人関係と自己理解 1 自己理解を深める ジョー・ハリーの窓
第 6 週	対人関係と自己理解 2 心理テストを通じた自己理解
第 7 週	対人関係と自己理解 3 他者から見た自己理解
第 8 週	対人関係と自己理解 4 印象形成、対人魅力
第 9 週	自己意識・自己概念の発達
第 10 週	対人関係とコミュニケーション
第 11 週	カウンセリングにおける人間関係のあり方 受容と共感的理解
第 12 週	対人関係の分析 1 エゴグラムと交流分析
第 13 週	対人関係の分析 2 交流分析：ストローク、ゲーム、ラケット、脚本分析
第 14 週	対人関係ストレスとストレスコーピング
第 15 週	人間関係の病理

《専門基礎科目》

科目名	健康心理学				
担当者名	山田 佳代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

健康心理学は、比較的新しい心理学の応用分野である。ストレス社会と言われるように、心と健康については、非常に関心の高いところで、その密接な関連性についてはいうまでもない。大人だけではなく子供についても同様である。健康心理学は、健康の増進や、疾病予防や治療などについて、心理学的立場からその解決に役立つようにしていくものである。関連領域も幅が広い。本講義では、できるだけ身近に関心のある分野を中心に、解説していくようにし、基礎事項を習得できるようにつとめていく。

《授業の到達目標》

理論と実践の融合をはかりつつ、健康心理学の基礎的知識の習得を目指す。

《テキスト》

健康心理学がとってもよくわかる本 野口京子著 東京書店

《参考文献》

適宜、指示する

《成績評価の方法》

試験(90%)と平常点(出席点など)(10%)で評価する。

《授業時間外学習》

配付プリントがある時には、ファイルなどして整理し、管理すること。次回の予習のために、指定した範囲で教科書を読んでおくこと。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	健康心理学とは何か? 心理学との関連性
第 2 週	健康心理学の基礎知識①
第 3 週	健康心理学の基礎知識②
第 4 週	ストレスと心の健康①
第 5 週	ストレスと心の健康②
第 6 週	心の病気になりやすい人、なりにくい人①
第 7 週	心の病気になりやすい人、なりにくい人②
第 8 週	いろいろな心の病気
第 9 週	ストレスから心を守る秘訣
第 10 週	劣等感コンプレックスの解消法
第 11 週	人間関係を円滑にするコミュニケーション術
第 12 週	心身を健康に保つリラックス法
第 13 週	心の健康を取り戻すカウンセリング
第 14 週	まとめ①
第 15 週	まとめ②

《専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション心理学 I				
担当者名	石井 佑可子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

コミュニケーションに関わる知見を広く紹介し、それぞれのテーマ毎に自分で考える機会を設けます。どれも身近なテーマですので、授業を通じ議題に対して自由に考える力を養うことがねらいです。講義中、発言や感想の記述を求めることがあります。また、実際のやりとりを経験するロールプレイングやレクリエーションワークも行う予定です。

《授業の到達目標》

人と人が関わるのにはどのような形があり、どのようなやり方があるのかについての知識を身につけ、自分自身や相手との関係にとって良好なコミュニケーションとは何かを考えることを目標とします。

《テキスト》

特にありません。講義中資料を配付します。

《参考文献》

「コミュニケーション入門 心の中からインターネットまで」 船津衛 著 有斐閣アルマ
その他、講義中に適宜紹介します。

《成績評価の方法》

講義中に指定する課題(コミュニケーションに関わる簡単なワーク、レポート等)80%、出席率 20% ※他に授業態度による評価を加えることがあります。

《授業時間外学習》

〈予習〉講義中に出された課題があれば、取り組んで下さい。シラバスを見て、興味を持ったテーマがあれば予め関連する文献などを読んでおいて下さい。

〈復習〉講義中に取り上げられた議題(※)について、関連する文献や日々のエピソードなどから、自分自身の考えをまとめる練習をして下さい。※レポート課題にも関連する予定です。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス
第 2 週	コミュニケーションの種類
第 3 週	コミュニケーションについての定義、モデル
第 4 週	コミュニケーションの重要性、コミュニケーションコンピテンスという考え方
第 5 週	コミュニケーションコンピテンスモデル；要素・過程
第 6 週	コミュニケーションにおける知覚
第 7 週	言語コミュニケーション
第 8 週	非言語コミュニケーション
第 9 週	「聴く」ということ
第 10 週	対人コミュニケーションの要素、モデル
第 11 週	対人コミュニケーションにおけるコンピテンス
第 12 週	対人コミュニケーションにおける困難；対人不安・シャイネス
第 13 週	対人コミュニケーションに関わる要件
第 14 週	対人コミュニケーションにおけるコミュニケーションスキルの発達
第 15 週	総括

《専門基礎科目》

科目名	教育心理学				
担当者名	山田 佳代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育心理学とは、教育に関係ある事象を心理学的に研究していくもので、それには様々な方法があるが、それを心理学の考え方や技術で解決していこうとする学問である。その領域は、従来は、発達、教授・学習、人格・適応、測定・評価が中心であったが、最近では、様々な教育背景もあり、領域は、“カウンセリング”など臨床の分野があげられるなど、多岐に渡っている。本講義では、このような領域をできるだけ平易に講義していく。そして、教育心理学の基礎的知識の習得や問題場面における知識・技能の習得を目指していく。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎的な知識の習得や問題場面における知識・技能の習得を目指す。

《テキスト》

学生・教師のための教育心理学 田中敏隆編著 田研出版

《参考文献》

適宜、指示する

《成績評価の方法》

試験(90%)と平常点(出席点など)(10%)で評価する。

《授業時間外学習》

配付プリントがある時には、ファイルなどして整理し、管理すること。次回の予習のために、指定した範囲で教科書を読んでおくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育心理学とは① 教育心理学の定義について
第 2 週	教育心理学とは② 教育心理学の研究分野や研究法について
第 3 週	発達過程と指導① “発達”の概要と、乳児期(胎児期・新生児期含む)と幼児期について
第 4 週	発達過程と指導② 児童期・青年期を中心に、壮年期・老年期まで
第 5 週	学習と教授の心理 学習の基本的な理論や動機付けなどについて
第 6 週	人格の心理 パーソナリティ研究の代表的なアプローチや人格形成の諸要因について
第 7 週	学級の心理と指導 学校における基本的な単位である学級について
第 8 週	教育評価① 教育評価の目的・意義・学力・評価・指導要録・通知表などについて
第 9 週	教育評価② 知能と測定・人格の測定について
第 10 週	心理検査 各種の心理検査(発達検査・知能検査・性格検査)について
第 11 週	カウンセリングの理解と方法 理論・カウンセリングの方法・学校カウンセリングについて
第 12 週	問題行動と指導及び小児の心身症 幼児期・児童期・思春期の問題行動などについて
第 13 週	障害児の心理と指導 障害児の理解や指導法の研究について
第 14 週	まとめ①
第 15 週	まとめ②

《専門基礎科目》

科目名	演習Ⅱ				
担当者名	Sung Lai Boo・田端 和彦・吉原 恵子・村上 須賀子・稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	6・必	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

演習Ⅱでは、コミュニティ・アワーの経験を通じて、自らのコミュニティの特質を学ぶことになる。そして、①ソーシャルワーカーとして何を知っておかねばならないのか（知識の面）、②どのような方法で問題解決や変化を生み出しいくのか（技術の面）、③どのようなコミュニティが望ましいのか、望ましくないのか（価値の面）、を考えられるようになる。

コミュニティ・アワーは「地域を教科書として」学ぶことにより、学生はジェネラリスト・ソーシャルワーカーとなる基礎的知識と実践的技術を獲得する。加古川市、宍粟市、稲美町に調査に出て社会福祉実践のある側面に関する直接的な知識と情報を得る。小都市・農村的地域において、社会生活を支える資産にはどのようなものがあるか、そこで暮らす人々の福祉ニーズはどのようなものか、また福祉ニーズにコミュニティはどのように対応しようとしているのか、など。

《授業の到達目標》

調査を通して、ソーシャルワークの理論と実践の基礎となる技能（観察能力や問題の認識能力、批判的思考力、分析能力、問題解決能力など）が高まる。

コミュニティ・アワーの経験を通して、ソーシャルワーカーとしての適性を確認しながら、自己認識と専門的自我が成長する。

《テキスト》

特に定めない。プリントを用意する。

《参考文献》

授業中に指示をする。

《成績評価の方法》

参加態度・グループにおける活動への参加の配点：50点

課題や提出物の状況の配点：50点

《授業時間外学習》

夏季休業期間中などに実際にコミュニティに出向き調査を行う。

ほぼ毎回レポートを課すので期限までにそれを仕上げる。

報告会の準備、報告書の作成など授業時間以外にもグループで活動する機会がある。

《備考》

コミュニティ・アワーは教室で学ぶほか、現地での調査を含む。

グループに分かれて学習する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1 オリエンテーション ・ゼミのポリシー（地域をテキストとして学ぶ、共に学ぶ） ・学習の目的 ・到達目標 ・ゼミの運営方法 ・グループ編成の発表 ・アイスブレイキング
第 2 週	2 地域にアプローチする（1） ・ジェネラリストソーシャルワークについて
第 3 週	3 地域にアプローチする（2） ・エコロジカル視点について
第 4 週	4 地域を知る（1） ・基礎情報を把握する
第 5 週	5 地域を知る（3） ・社会資源について
第 6 週	6 地域を観る（1） ・テーマの提示とサブテーマの設定
第 7 週	7 地域を観る（1） ・テーマの提示とサブテーマの設定
第 8 週	8 地域を観る（2） ・サブテーマの検討
第 9 週	9 地域を観る（3） ・聞き取り調査
第 10 週	10 地域を観る（4） ・サブテーマの検討
第 11 週	11 地域を観る（5） ・サブテーマの発表
第 12 週	12 地域を観る（6） ・サブテーマの決定・発表
第 13 週	13 地域を観る（7） ・サブテーマの決定・発表
第 14 週	14 地域を観る（8） ・サブテーマの決定・発表
第 15 週	15 II期の準備

《専門基礎科目》

科目名	演習Ⅱ				
担当者名	Sung Lai Boo・田端 和彦・吉原 恵子・村上 須賀子・稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	6・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

I期に引き続き、コミュニティ・アワーを行う。コミュニティにおける課題を現地で把握する。グループでの調査、ディスカッション、レポート作成、報告会などを行う。一連の演習の作業の中で、チームワークを養い、リーダーシップを発揮する術を学ぶ。一連の作業をチームで行うという学習を通し、ソーシャルワーカーとして、あるいは福祉を学ぶ者としての自覚を促す。

《授業の到達目標》

コミュニティ・アワーにおける調査、分析、報告を通し、異なる個性、能力を持ったメンバーで構成されるチームにおいて、協調性を保ちながら自らの能力を最大限に発揮しチームに貢献する自覚を持ち、そのための能力を向上させることができる。
 チーム活動のためのリーダーシップを発揮することができる。
 調査活動や分析、報告に関するノウハウや知識を身につける。
 社会福祉やソーシャルワーク活動に関する基礎的な知識を身につける。

《テキスト》

特に定めない。

《参考文献》

授業中に指示する。

《成績評価の方法》

授業への参加態度およびグループにおける活動への参加。(配点：50点)
 学習スキルの獲得(課題、提出物)。(配点：50点)
 規定に基づき1/3以上の欠席があれば評価の対象としない。

《授業時間外学習》

ほぼ毎回レポート課題があるので、それを指定された期日までに提出しなければならない。
 自ら調べる活動が多く、授業時間外でもチームによる活動がある。

《備考》

長期休業期間中などに実際にコミュニティに出向き調査を行う。
 ほぼ毎回レポートを課すので期限までにそれを仕上げる。
 報告会の準備、報告書の作成など授業時間以外にもグループで活動する機会がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	Ⅱ期オリエンテーション ・ I期の振り返りと反省点。 ・ II期の授業内容と計画。
第2週	問題解決のための社会資源の活用(1) ・ 現代の地域における問題、課題を抽出する。
第3週	問題解決のための社会資源の活用(2) ・ 抽出した問題の要因はなにか、背景になにかがあるかを抽出する。
第4週	問題解決のための社会資源の活用(3) ・ 現在の政策(国、地方)は何か。(保育政策、就業支援等・・・)
第5週	問題解決のための社会資源の活用(4) ・ 問題に関するテーマとサブテーマの提示。
第6週	問題解決のための社会資源の活用(5) ・ 問題解決のためにどのような社会資源の活用が可能か。 ・ グループで議論をして仮説を立てる。
第7週	問題解決のための社会資源の活用(6) ・ サブテーマとなっている問題の解決に社会資源の活用が可能か、調査方法の検討。
第8週	問題解決のための社会資源の活用(7) ・ 中間発表。 ・ 仮説の説明と調査方法についての説明。
第9週	問題解決のための社会資源の活用(8) ・ 聞き取り調査。 ・ アンケート調査。
第10週	問題解決のための社会資源の活用(9) ・ 聞き取り調査。 ・ アンケート調査。 ・ 地域住民による活動を通してまちづくりを考える
第11週	発表準備 ・ 調査に不十分がないか、確認をする。
第12週	発表準備 ・ 調査に不十分がないか、確認をする。
第13週	発表準備 ・ 調査に不十分がないか、確認をする。
第14週	・ 発表会(報告会)
第15週	・ 演習Ⅱの振り返り

《専門コア科目》

科目名	社会保障論 I				
担当者名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて解説し、制度の体系と概要について理解する。

《授業の到達目標》

社会保障の役割、理念や機能について理解する。
 社会保障の構造を把握し、制度の体系について理解する。
 社会保障の財源と費用を学び、社会保障財政のトレンドについて理解する。
 社会保障を構成する主制度の内容、現状、将来展望について説明できる。

《テキスト》

『社会保障（新・社会福祉士養成講座 12）』社会福祉士養成講座編集委員会（編）、中央法規出版、2009、および授業中に配布するプリント。

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験 70%、授業への参加とその成果 30%（小テスト等により評価する）。

《授業時間外学習》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

市場経済は万能なシステムではなく、常に最適な資源配分をもたらす訳ではない。また、公平性について言えば、市場経済が望ましい結果を生み出す保証はない。こうした市場の失敗から様々な社会問題が発生する。社会保障制度は、社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し、人々の社会的なつながりを強めることを目指してきた。豊かで安定した市民生活を実現するうえで、社会保障サービスの拡充は不可欠であるが、従来の日本では経済的繁栄を追いあまり、制度の充実はなおざりにされてきた。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。
 なお、欠席回数が授業実施回数の3分の1を超えた者には定期試験の受験資格が与えられない。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（講義の課題と対象）：社会の変化と社会保障
第 2 週	社会保障の理念と機能（定義、目的、範囲、体系等）
第 3 週	社会保障の役割と意義（所得保障、医療保障、社会福祉）
第 4 週	社会保障の財源
第 5 週	社会福祉（1） （社会福祉の法制度、動向）
第 6 週	社会福祉（2） （社会福祉の実施体制、社会福祉制度形成史）
第 7 週	社会福祉（3） （社会福祉施策：生活保護、児童福祉、障害者福祉）
第 8 週	社会福祉（4） （社会福祉施策：母子福祉、老人福祉、介護保険）
第 9 週	近年の社会保障・福祉制度改革 （社会福祉基礎構造改革、高齢者介護政策、少子化対策、障害者政策、医療改革、年金改革等）
第 10 週	医療保障（1） （医療費の動向）
第 11 週	医療保障（2） （日本における医療供給システムの特徴、医療保険制度）
第 12 週	医療保障（3） （医療制度改革）
第 13 週	所得保障（1） （年金制度の仕組み）
第 14 週	所得保障（2） （日本の年金制度）
第 15 週	所得保障（3） （児童手当、労働保険）

《専門コア科目》

科目名	社会保障論Ⅱ				
担当者名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

少子高齢化や生活の都市化・核家族化，所得格差の拡大，福祉サービス供給や財源調達，管理運営に関する公私関係等，現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに，諸外国における社会保障制度の発達過程についても理解を深める。

《授業の到達目標》

現代社会における社会保障制度の課題（格差問題，少子化問題，高齢化問題等）について，それらの本質や動向について理解する。社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで，公共サービスの民営化や市場化，再国営化を推し進める意義や背景をより深く理解できるようになる。社会保障制度の歴史的展開に対する学習を通して，制度の本質や形成のメカニズムを理解する。

《テキスト》

『社会保障（新・社会福祉士養成講座 12）』社会福祉士養成講座編集委員会（編），中央法規出版，2009，および授業中に配布するプリント。

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験 70%，授業への参加とその成果 30%（小テスト等により評価する）。

《授業時間外学習》

社会保障制度が直面する諸課題については，基礎的な情報や今日的動向が新聞や書籍，ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し，疑問や関心を持ったうえで受講することが望ましい。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

市場経済は万能なシステムではなく，常に最適な資源配分をもたらす訳ではない。また，公平性について言えば，市場経済が望ましい結果を生み出す保証はない。こうした市場の失敗から様々な社会問題が発生する。社会保障制度は，社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し，人々の社会的なつながりを強めることを目指してきた。豊かで安定した市民生活を実現するうえで，社会保障サービスの拡充は不可欠であるが，従来の日本では経済的繁栄を追いあまり，制度の充実はなおざりにされてきた。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。なお，欠席回数が授業実施回数の3分の1を超えた者には定期試験の受験資格が与えられない。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（講義の課題と対象）：社会政策の新しい課題
第 2 週	現代社会における社会保障制度の課題 1（格差問題）
第 3 週	現代社会における社会保障制度の課題 1（格差問題・労働環境の変化・男女共同参画・ワークライフバランス）
第 4 週	現代社会における社会保障制度の課題 2（少子化をめぐる諸問題 1）
第 5 週	現代社会における社会保障制度の課題 2（少子化をめぐる諸問題 2）
第 6 週	現代社会における社会保障制度の課題 3（高齢化をめぐる諸問題 1）
第 7 週	現代社会における社会保障制度の課題 3（高齢化をめぐる諸問題 2）
第 8 週	現代社会における社会保障制度の課題 4（福祉サービス供給・財源調達・管理運営をめぐる公私関係 1）
第 9 週	現代社会における社会保障制度の課題 4（福祉サービス供給・財源調達・管理運営をめぐる公私関係 2）
第 10 週	現代社会における社会保障制度の課題 4（社会保障と民間保険）
第 11 週	社会保障の歴史的展開（1）（英国 1）
第 12 週	社会保障の歴史的展開（2）（英国他）
第 13 週	社会保障の歴史的展開（3）（日本 1）
第 14 週	社会保障の歴史的展開（4）（日本 2）
第 15 週	学習のまとめ

《専門コア科目》

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度				
担当者名	井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、社会サービスの一つをソーシャルワークとの関連において説明しようとするものである。すなわち、最初に人が障害を負った際、どのような生物学的変化が生じるのかをいくつか例を提示し、その生物学的変化によって心理状態がどのように変わるのか、結果として社会的な行動がいかに変化していくのかを説明する。すなわち、障害を負ったことで人の social functioning がどのように変化するのかを説明する。次に、障害者福祉に関わる政策論を展開する。これには、障害者に対する直接的なサービスを提供する法的根拠と、その法律がどのように運用されているのかを説明する。もちろん、これにはサービスが効果的に・効率的に運用されているかどうかという視点も含んでいる。

《授業の到達目標》

- (1) 障害者が障害をもつ故にどのような dys-functioning を生み出しているかを説明できる
- (2) 障害者についての制度・政策論について説明できる
- (3) 自らの障害者観について他者と論じることができる
- (4) 障害者福祉の現状から、改善点を指摘できる

《テキスト》

毎回レジュメを配布する

《参考文献》

《成績評価の方法》

定期試験…80%
小レポート…20%

《授業時間外学習》

障害を負うことでどのような心理的な変化が生じるのかを理解するために、特に障害当事者が記した手記などを読む必要がある。図書や文献については授業中に指示する。

《備考》

毎回リアクション・メールを求めするので、メール機能のついた携帯電話を持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション、小レポート 【内容】授業の進め方について、成績評価について、障害者に対する見方を知るための小レポート作成
第 2 週	障害者福祉の基本的理念 【内容】ノーマライゼーション・バロリゼーション
第 3 週	障害者とは (1) 【内容】生物学的・心理学的理解
第 4 週	障害者とは (2) 【内容】社会学的理解、生物-心理-社会学的理解
第 5 週	障害者とは (3) 【内容】WHOの定義
第 6 週	障害者とは (4) 【内容】障害者基本法、身体障害者福祉法
第 7 週	障害者とは (5) 【内容】知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法
第 8 週	障害者に対する見方を知る 【内容】第一回目で提出した小レポートについてのグループ討議
第 9 週	障害者支援の法的根拠 (1) 【内容】障害者自立支援法成立の過程-対象者、サービス分配の方法、財政的側面について-
第 10 週	障害者支援の法的根拠 (2) 【内容】障害者自立支援法-介護給付について
第 11 週	障害者支援の法的根拠 (3) 【内容】障害者自立支援法-地域生活支援事業
第 12 週	障害者支援の法的根拠 (4) 【内容】障害者自立支援法-その他のサービス
第 13 週	3 障害者支援の法的根拠 (5) 【内容】バリアフリーとユニバーサルデザイン
第 14 週	障害者支援 【内容】障害者ケアマネジメントについて
第 15 週	まとめ 【内容】障害者福祉をソーシャルワークからとらえ直す

《専門コア科目》

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				
担当者名	高橋 千代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

現代社会に子どもや子育て家庭がおかれている状況を把握し、社会全体で子どもの育ちを支える仕組みを構築しつつある共助社会の新たな取り組みの中での課題を考える。現代社会における児童家庭福祉の意義、対応する福祉制度・実践の体系、対象別分野の知識を深める。

《授業の到達目標》

子どもや子育て家庭の課題を把握する。児童家庭福祉の意義が説明できる。児童家庭福祉制度と実践体系を把握する。

《テキスト》

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考文献》

随時紹介

《成績評価の方法》

筆記試験（100%）

《授業時間外学習》

「児童の権利に関する条約」について調べる。「児童福祉法」、「児童福祉施設最低基準」の内容を把握する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	現代社会と子ども家庭（次世代育成支援、子どもと子育て家庭の問題、子育てのニーズ）
第 2 週	子ども家庭福祉の理念（子どもの発達ニーズ、子ども家庭福祉の意義、内容、領域）
第 3 週	児童福祉から子ども家庭福祉への発達史（欧米、日本、戦後）
第 4 週	子どもと家庭の権利保障（子どもの権利、児童の権利に関する条約、養育の権利と義務）
第 5 週	子ども家庭福祉にかかわる法制度（法体系、実施体制、財政、専門職）
第 6 週	母子保健（目的と内容、現状と課題）
第 7 週	障がい・難病のある子どもと家族への支援（目的と内容、現状と課題）
第 8 週	児童健全育成（目的と内容、現状と課題）
第 9 週	保育（目的と内容、現状と課題）
第 10 週	子育て支援（目的と内容、現状と課題）
第 11 週	ひとり親家庭の福祉（目的と内容、現状と課題）
第 12 週	社会的養護サービス（社会的養護の考え方、機関・施設、現状と課題）
第 13 週	非行児童・情緒障がい児への支援（目的と内容、現状と課題）
第 14 週	児童虐待対策（実態、保護の仕組み、課題）
第 15 週	子ども家庭への相談援助活動（相談援助の方法、施設ケア、地域ケア）

《専門コア科目》

科目名	地域福祉の理論と方法 I				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

福祉国家から福祉社会への移行の中で、地域で福祉を担う必要があり、地域におけるソーシャルワークの重要性が高まっています。その実践は地域にある様々な資源（人や制度、施設）とソーシャルキャピタルを結び、人々の自立の支援が必要です。授業では、地域とソーシャルキャピタルについての概念や定義を示し、福祉社会における地域福祉の意義を歴史的な経緯を含めて説明します。地域福祉に関わる組織や制度を自治体、活動を説明します。後半は地域福祉の理論と地域の組織化のための具体的な方法を例を含め解説します。

《授業の到達目標》

- ・ 地域福祉の概念、地域福祉に係る制度、資源についての知識を獲得する。
- ・ コミュニティの組織化の具体的な手法を獲得し実践の場での応用が可能になる
- ・ 高齢化したニュータウンや限界集落の課題を地域福祉の視点から理解することができる。

《テキスト》

ありません。プリントを配布します。

《参考文献》

必要に応じて指示します。

《成績評価の方法》

テストが70%、日常点（レポート、授業内の発言、小テスト）が30%です。

《授業時間外学習》

事前にプリントを配布したり参考文献を指示しますので読んでおいて下さい。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	1 ガイダンス／地域とは何か
第 2 週	2 地域の定義～コミュニティ、自治体、自治会
第 3 週	3 ソーシャルキャピタルとは何か
第 4 週	4 地域福祉が登場した背景と意義①
第 5 週	5 地域福祉が登場した背景と意義②
第 6 週	6 地域福祉が登場した背景と意義③
第 7 週	7 地域福祉に関連する制度①
第 8 週	8 地域福祉に関連する制度②
第 9 週	9 参画・協働と地域福祉の主体
第 10 週	10 地域福祉に関わる組織①
第 11 週	11 地域福祉に関わる組織②
第 12 週	12 地域福祉に関わる組織③
第 13 週	13 地域福祉に関わる組織④
第 14 週	14 地域包括支援センターと社会福祉士の役割
第 15 週	15 地域福祉教育とは

《専門コア科目》

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度				
担当者名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

「低所得者に対する支援と生活保護制度について学ぶ」

公的扶助制度の基本的な理解と共に、特に低所得者に対する様々な支援と生活保護制度を中心として、現代社会における貧困事例等も取り上げながら、公的扶助制度の運営上の問題や生活保護制度が直面する課題について理解する。具体的には、最近特にマスコミでも取り上げられる現代社会における貧困や低所得者に対する支援と課題を中心に、「人間らしく生きること」を改めて問い直し、自己の問題として考える。

《授業の到達目標》

- ①わが国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を理解する。
- ②生活保護制度の役割と社会的意義、また今日の問題を考える。
- ③昔の貧困と現代社会における様々な貧困について理解する。
- ④現代社会の貧困をめぐる社会的諸課題について自分達の問題として考える。
- ⑤貧困の現実と制度との関連、また歴史や実践を通して公的扶助論の役割を理解する。

《テキスト》

著者名/Authors : 杉村宏・岡部卓・布川日佐史 編著
 書名/Title : 「よくわかる公的扶助」
 出版社・出版年/Publisher・Year : ミネルヴァ書房・2008年9月発行 2310円
 その他、随時プリント等を配布。

《参考文献》

著者名/Authors : 岡部卓・六波羅詩朗
 書名/Title : 新・社会福祉士養成講座 第16巻「低所得者に対する支援と生活保護制度」
 出版社・出版年/Publisher・Year : 中央法規出版・2009年3月刊行 1680円

《成績評価の方法》

出席状況/Attendance (20%)
 学期末試験など/Final exam (60%)
 その他グループ討議の発表態度などを総合的に判断 (20%)

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、その都度指示された期日までに提出のこと。
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見出し、不明の点は連絡先メールなどで確認のこと。

《備考》

- ・連絡用メールアドレス sazanka@guitar.ocn.ne.jp
- ・課題提出先：三木市吉川町大沢418番地 社会福祉法人吉川福祉会 高齢者総合福祉施設さざんかの郷
 電話(0794)72-1170 FAX(0794)72-2355

※授業計画における毎回のテーマや内容は、講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、福祉現場での実践事例やマスコミ報道等の資料を多く活用し、受講者自らが考える授業としたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ガイダンス (コース概要) 公的扶助を学ぶ視点
第2週	現代社会の中の貧困
第3週	公的扶助と関連施策
第4週	公的扶助制度の歴史 (イギリス公的扶助と日本の救貧制度)
第5週	生活保護制度の成立過程
第6週	生活保護制度のしくみⅠ (目的と基本原理・実施上の原則)
第7週	生活保護制度のしくみⅡ (保護基準と保護の種類・方法)
第8週	生活保護制度のしくみⅢ (保護の実施と費用・権利と義務)
第9週	生活保護の政策と動向
第10週	生活保護におけるソーシャルワーク実践
第11週	相談援助技術と実際
第12週	海外の公的扶助
第13週	生活保護制度の課題
第14週	低所得者施策・実践動向と今後の展望
第15週	まとめ

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践 I				
担当者名	高橋 千代・井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

ソーシャルワークは、さまざまな次元で人と環境との相互作用が行われている場に介入していく専門職である。これまで皆さんは、人間の行動に関する諸理論を学んだ。現実には、人々が社会サービスを用いようとしても、サービスの存在そのものを知らなかったり、サービスそのものがなかったりするために、サービスに行き届かないことがある。

本科目では、人間の行動に関する諸理論に基づき、人々が社会的なサービスを効果的に、効率的に用いていくためにはどうすればよいかを、ソーシャルワーク支援の技術という点から説明する。具体的には、ソーシャルワークのエコロジカル視点、人間の生物-心理-社会的視点について、さらにいくつかのソーシャルワークに関する理論やモデルを提示する。

《授業の到達目標》

以下の項目が到達目標である。

- (1) ソーシャルワーク支援の視点や理論、モデルについて説明できる
- (2) ソーシャルワークの過程を説明できる
- (3) クライアントとリソース・システムとの関連性について考えてみようとする
- (4) なぜ支援が必要なのか、クライアントの立場に立って考えることができる

《テキスト》

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

《参考文献》

- H.Hepworth Direct Social Work Practice,1993
 B.Ashford,et.al Human Behavior in the Social Environment,2006
 P.Adams Reinventing Human Services,1995
 J,Rothman Case Management,1998
 T.Tripodi Single-subject Design for Clinical Social Workers,1994

《成績評価の方法》

テスト 70%、小レポート 30%で評価する。評価に含まれる対象は、テストの評価は授業の一般目標で掲げた目標がどの程度達成できているかであり、小レポートは受講生自らの支援者観がどの程度表現されているかである。

《授業時間外学習》

以下の図書の中から範囲を設定するので、小レポートにまとめること。

1. H.M.パートレット著 小松源助訳「社会福祉の共通基盤」
2. Germain,C 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」
3. シャルロット・トール著 小松源助訳「コモン・ヒューマン・ニーズ：社会福祉援助の基礎」
4. 久保絃章・副田あけみ編著「ソーシャルワークの実践モデル」

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 【内容】担当者の紹介、授業の全体的な流れについて
第 2 週	ソーシャルワークの専門性 【内容】価値・知識・技術
第 3 週	Eco-System (1) 【内容】システムという考え方
第 4 週	Eco-System (2) 【内容】Pincus,A&Minahan,A のモデル①
第 5 週	Eco-System (4) 【内容】Pincus,A&Minahan,A のモデル②
第 6 週	Eco-System (5) 【内容】Ecological アプローチ①
第 7 週	Eco-System (6) 【内容】Ecological アプローチ②
第 8 週	人間の行動理解とソーシャルワーク (1) 【内容】Bio-psycho-social-spiritual の視点①
第 9 週	人間の行動理解とソーシャルワーク (2) 【内容】Bio-psycho-social-spiritual の視点②
第 10 週	ソーシャルワークのモデル (1) 【内容】さまざまなモデルの紹介①
第 11 週	ソーシャルワークのモデル (2) 【内容】さまざまなモデルの紹介②
第 12 週	ソーシャルワークのモデル (3) 【内容】さまざまなモデルの紹介③
第 13 週	ソーシャルワークの過程と記録 (1) 【内容】ソーシャルワークの過程について①
第 14 週	ソーシャルワークの過程と記録 (2) 【内容】ソーシャルワークの過程について②
第 15 週	まとめ

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ				
担当者名	田端 和彦・高橋 千代・井上 浩・桐石 梢				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

ソーシャルワークは人と環境との相互作用に介入する専門的な職種である。では、「人」とはどのような存在なのだろうか？また、「環境」とは何を指すのだろうか？さらに、「人と環境との相互作用に介入する」とはどのような意味を持っているのだろうか？このような疑問解決に少しでも近づくためには、ソーシャルワークの基盤となる理論や知識を現場でどのように活かすことができるかを実際に体験する「実習」が必要になる。本科目はその準備のため履修する。学生諸君は施設に5日間出向き、施設業務の流れを知ったり、利用者者と接したりしていただくことで、「人」「環境」「人と環境との相互作用」を知ることになる。

《授業の到達目標》

- (1) 施設の利用者について知る。
- (2) 施設の一日の流れを知る

《テキスト》

実習の手引きを参照すること

《参考文献》

《成績評価の方法》

出席状況（30%）と授業態度（70%）で評価する。後半 15 回で5回以上の欠席があり、それを超えて欠席や遅刻があった場合は、体験実習を済ませていても不可となる。

《授業時間外学習》

実習報告会の準備については、授業時間外も活用すること

《備考》

本科目は1年Ⅱ期からの通年科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】体験実習（配属）
第 2 週	【項目】体験実習（配属）
第 3 週	【項目】オリエンテーション 【内容】後半分の進め方について
第 4 週	【項目】実習振り返り（1） 【内容】カタルシス
第 5 週	【項目】実習振り返り（2） 【内容】深化
第 6 週	【項目】実習振り返り（3） 【内容】グループ討議
第 7 週	【項目】実習振り返り（4） 【内容】実習報告会の説明
第 8 週	【項目】実習振り返り（5） 【内容】実習報告会の準備①
第 9 週	【項目】実習振り返り（6） 【内容】実習報告会の準備②
第 10 週	【項目】実習振り返り（7） 【内容】実習報告会の準備③
第 11 週	【項目】実習振り返り（8） 【内容】実習報告会の準備④
第 12 週	【項目】実習振り返り（9） 【内容】実習報告会
第 13 週	【項目】実習報告会への参加 【内容】基礎実習実習生が開催する報告会への参加
第 14 週	【項目】まとめ 【内容】基礎実習へのつながり
第 15 週	【項目】まとめ 【内容】ソーシャルワークとのつながり

《専門コア科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				
担当者名	田端 和彦・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、現場に赴きソーシャルワークを学ぶ二段階目にあたる実習指導である。社会福祉の問題が発生している。その問題に近づいていくためには、どのような手段が必要なのだろうか。そもそも、社会福祉の問題とはどのような性質を持っているのだろうか。さらに、こうした問題を抱えている「人」に接していくためにはどのような手段が必要なのだろうか。本科目では、具体的な支援過程を学ぶことまでは目標としない。まず支援に必要な問題を理解し分析するため、利用者に近づくにはどのようなコミュニケーションが必要なのかを考える機会とする。二つ目に授業で学ぶことは、施設理解である。学生諸君は、少しずつ社会サービスに関する知識を学んでいる。こうした社会サービスの知識を施設分析という形式で整理する機会となる。

《授業の到達目標》

- (1) ソーシャルワークの過程において、特にアセスメント・プランニングについて内容を説明できる
- (2) 他職種との連携について説明することができる
- (3) 支援者となった場合の態度や価値観について記述ができる

《テキスト》

特に定めない。プリントを配布する。

《参考文献》

授業内で指示をする。

《成績評価の方法》

施設分析レポートと演習中の態度 60%、基礎実習の実習評価 40%。

《授業時間外学習》

授業時間外に行われる基礎実習が当該授業の主な内容である。そのために事前に施設を調べたり、施設での業務を調べることが必要になる。

《備考》

ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは実際に学外に出て学ぶ。実習先の概要や資料を学科にある実習指導室でそろえているので、学生には実習指導室を積極的に活用してほしい。
学年をわたる科目であるが、出欠については半期ごとにカウントする。すなわち、前半 15 回で 1/3 以上欠席し、これを超えて欠席や遅刻などをした者については実習に行くことができない。後半 10 回で 1/3 以上欠席をし、これを超えて欠席や遅刻をした者については、実習に行っていたとしても本科目の単位を出すことはできない。
実習先の施設との対応などもあり、内容についてはガイダンス時に詳細を説明する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】オリエンテーション 【内容】実習の位置づけ、目的、課題
第 2 週	【項目】施設分析① 【内容】体験実習の振り返りと児童施設／高齢者施設の施設分析
第 3 週	【項目】施設分析② 【内容】障害者施設／医療機関の施設分析
第 4 週	【項目】施設分析③ 【内容】社会福祉協議会と公的機関についての施設分析
第 5 週	【項目】倫理・価値 【内容】ソーシャルワーク専門職を価値の観点から理解する
第 6 週	【項目】ソーシャルワーク実習ガイダンス 【内容】基礎実習の実習先発表と配属調整
第 7 週	【項目】実習計画書の作成 【内容】実習テーマ作成基本票の記入と学内用／学外用実習計画書の作成
第 8 週	【項目】記録について 【内容】記録の書き方を学ぶ
第 9 週	【項目】マナー教育
第 10 週	【項目】基礎実習（配属）
第 11 週	【項目】基礎実習（配属）
第 12 週	【項目】スーパービジョン 【内容】基礎実習のふりかえりと共有化
第 13 週	【項目】施設分析④ 【内容】児童施設／高齢者施設の施設分析
第 14 週	【項目】施設分析⑤ 【内容】障害者施設／医療機関の施設分析
第 15 週	【項目】施設分析⑥ 【内容】社会福祉協議会／公的機関の施設分析

《専門コア科目》

科目名	介護概論				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

介護を必要とする対象者の理解を深め、日常生活の援助者として必要な知識を習得する。
可能な限り、VTR教材活用や学生参加型の授業をする。
医療・介護・福祉等他職種との連携を深め、福祉の実践者としての基礎を養う。

《授業の到達目標》

社会福祉士を目指す学生がなぜ介護概論を学ぶ必要があるのか？
社会福祉士と介護福祉士は車の両輪と同じで、お互いに連携しあって人間の福祉向上を目指す。
又、地域への貢献に役立つ知識や技術の基礎を習得することを目的とする。

《テキスト》

新版 社会福祉士養成講座 14「介護概論」 中央法規出版

《参考文献》

学びやすい介護概論 最新版 金芳堂
学びやすい形態別介護技術 最新版 金芳堂

《成績評価の方法》

試験とレポート（50点）と平常点、授業態度（50点）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
毎回、次回の授業内容を示すので予習をしておくこと。
- ・復習の方法
授業内容を再確認し、不明な点は質問する。または自分で調べる。

《備考》

現代の介護をめぐる諸問題に対して、問題解決能力を高めていくことを目指している。
授業の積極的な参加を希望する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会福祉士に求められる介護
第 2 週	介護に関する保健・医療・福祉政策の動向
第 3 週	介護を必要とする人間の理解とケアの本質
第 4 週	自立支援とは何か、自立的に生きるということ
第 5 週	介護に関わる関係職種
第 6 週	介護保険法で求められるケアチームと介護支援専門員の役割
第 7 週	介護福祉士、社会福祉援助技術としての基本的知識と介護技術の役割
第 8 週	介護の問題解決過程
第 9 週	コミュニケーション技法、レクリエーション技法
第 10 週	認知症高齢者の理解と介護
第 11 週	ターミナルケアの実際と家族へのケア
第 12 週	介護現場に求められる福祉用具の概念と福祉用具の活用と効果
第 13 週	居宅介護の特徴と介護の方法を理解する
第 14 週	医療施設、福祉施設の特徴と役割、課題を学ぶ
第 15 週	総括

《専門コア科目》

科目名	社会統計学 I				
担当者名	和田 武夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

各種の白書、官庁統計、社会調査の報告書などに記載されている統計数値を正しく読み、理解できるための統計学の基礎を学ぶ。はじめに、統計学がなぜ必要かを理解させ、次いで、社会調査の報告書などにどのような統計量が見られ、その意味はなにかを学ぶ。前半に、データにはいくつかの種類があり、データの種類によって扱いが異なること、データをグラフ化することなどを習い、後半には、推定、検定など推測統計学の基礎を学習する。

《授業の到達目標》

- Excel を用いて、データの要約統計量を求めることができるようになる。また、その意味を理解する。
- Excel を用いて、グラフが作成出来るようになる。
- 推定や検定の意味を理解でき、2群の平均値の差の検定や平均値の区間推定などが出来るようになる。
- 社会調査などの報告書に記載されている統計量（ここで学ぶ）の意味を正しく理解できる。

《テキスト》

とくに用いず、適時、資料を配布する。

《参考文献》

- 『はじめての統計学』鳥居泰彦（日本経済新聞社）
- 『涙なしの統計学』D.ロウントリー著、加納悟訳（新世社）
- 『パワーアップ確立・統計』辻谷将明、和田武夫著（共立出版）

《成績評価の方法》

レポート 70%
授業内討論などへの参加、時間内演習 30%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
予め配布してある資料について、その日の授業内容を見ておく。
- ・復習の方法
授業内容を再確認する。授業で行った演習などは再度やってみる。

《備考》

- ・アンケート調査をまとめるとき、Excel を用いて作表やグラフを書いたりすることは必須のスキルである。必ず復習し習得すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・統計学とは ・なぜ統計学が必要か ・Excel の使い方①
第 2 週	・データの種類（分類データ、順序データ、連続データなど） Excel の使い方②
第 3 週	・データのグラフ表示：・散布図 ・棒グラフ ・円グラフ ・ボックスプロットなど
第 4 週	・データの要約：・中心位置の指標 ・バラツキの指標
第 5 週	・演 習 ① ・データのグラフ化とデータの要約
第 6 週	・母集団と標本 ・正規分布 ・二項分布
第 7 週	・推定の考え方 ・点推定と区間推定（母平均）
第 8 週	・点推定と区間推定（母分散、母比率）
第 9 週	・検定の考え方（母平均の差の検定）
第 10 週	・分割表の検定（ χ^2 検定）
第 11 週	・演 習 ② ・推定と検定
第 12 週	・相関関係とは ・相関図 ・相関係数
第 13 週	・単回帰分析
第 14 週	・演 習 ③ ・相関と回帰分析
第 15 週	・まとめ

《専門コア科目》

科目名	社会統計学Ⅱ				
担当者名	和田 武夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会現象を定量的に把握するには、社会調査などにより量的なデータを集め、分析しなければならない。本授業では、そのような量的、統計的調査を行うための調査方法、データの集計と分析方法および統計学の応用について学ぶ。はじめに、統計的調査を行うための調査の概要、Excelを用いてのデータの要約、グラフの作成方法を学び、次いで、実際の社会調査データについて、集計と分析方法を学習する。演習を十分に取り入れ、Excelを用いてアンケート調査結果の集計と分析が出来るようになることを目指す。

《授業の到達目標》

- 社会調査の種類やデータの種類の知り、母集団と標本、標本抽出法などを理解する。
- 統計的社会調査を行うときの手順を理解する。
- 調査票の作り方を理解し、作れるようになる。
- Excelを用いて、データの集計とグラフの作成が出来るようになる。

《テキスト》

とくに用いない。適時、資料を配布する。

《参考文献》

- 『調査法講義』豊田秀樹著（朝倉書店）
- 『アンケート調査の方法』辻新六、有馬昌宏著（朝倉書店）
- 『はじめての統計学』鳥居泰彦著（日本経済新聞社）

《成績評価の方法》

レポート 70%

授業内討論などへの参加、時間内演習 30%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
予め配布してある資料について、その日の授業内容を見ておく。
- ・復習の方法
授業内容を再確認する。授業で行った演習などは再度やってみる。

《備考》

- ・ 社会福祉分野では、アンケート調査を行うことが多い。演習を通して、調査票を設計し、調査結果を集計しまとめる、などを学んでおくこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・社会調査の種類 ・統計的社会調査法 ・データの種類の
第 2 週	・データの要約 （平均値、分散、標準偏差など要約統計量の意味と求め方）
第 3 週	・Excelの使い方 ① データの要約
第 4 週	・データのグラフ表示（折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、帯グラフ、レーダーチャートなど）
第 5 週	・Excelの使い方 ② データのグラフ表示
第 6 週	・母集団と標本 ・分布（正規分布、二項分布など）について
第 7 週	・標本抽出（サンプリング）：・サンプリングとは ・サンプリングがなぜ必要か・サンプリングの基礎
第 8 週	・調査データの集計 ：・単純集計 ・クロス集計など
第 9 週	・調査データの分析 ① ・検定（t検定、F検定、 χ^2 検定）
第10週	・調査データの分析 ② ・相関と回帰
第11週	・統計的調査を行うときの調査票の作り方
第12週	・アンケート調査の実際（演習） ① 調査票の作成まで
第13週	② 調査結果の集計
第14週	③ 調査結果の分析、報告書の作成
第15週	・まとめ

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉論				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	6・選	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

精神保健福祉士は、人と環境に介入する専門職である。精神障害者だけでなく、現代社会人のこころの病気や取り巻く環境についても深く考察でき、将来専門職として実践できる能力を養う。

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれた社会的歴史状況を理解し、精神障害者にかかる医療、保健、福祉や雇用、さらに障害者施策の変遷及び現状課題を伝え、精神障害があっても安心して暮らせる環境をどのように整えればよいのかを学ぶ。ノーマライゼーションの思想および権利擁護についての深い理解を得る。最近の精神保健福祉施策及び市町村の精神保健福祉についても理解し、障害者基本法、障害者自立支援法、精神保健福祉法等の法規についても理解する。

《テキスト》

精神保健福祉論 新・精神保健福祉士養成講座 中央法規出版

《参考文献》

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房
 精神保健福祉士養成セミナー「精神保健福祉論」へるす出版
 これからの精神保健福祉 精神保健福祉ガイドブック へるす出版

《成績評価の方法》

試験、レポート(50点)・平常点、授業態度(50点)

《授業時間外学習》

予習の方法： 毎回次回の授業内容を示すので予習しておくこと
 復習の方法： 授業内容の再確認し、不明な点は質問する。又は自分で調べる

《備考》

授業の積極的な参加を希望する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	障害者福祉の理念 障害者福祉の発達
第 2 週	障害及び障害者の理解 ノーマライゼーションとは何か
第 3 週	リハビリテーションについて 生活の質(3つのQOL)
第 4 週	生活のしづらさと生活支援について 障害の理念・精神障害の特性
第 5 週	障害分類および国際障害分類の理解 障害者基本法
第 6 週	障害者プランの背景と動向 精神障害者施策の転換と改革のグランドデザイン
第 7 週	精神障害者ノーマライゼーション 精神障害者施策の理解と生活支援
第 8 週	障害者自立支援法 障害者サービスと地域ケア
第 9 週	精神障害者と家族 地域における精神障害者と現状
第 10 週	精神障害者と成年後見制度について 精神障害者と地域福祉権利擁護事業
第 11 週	精神保健福祉の発達と理解 精神保健福祉法ができるまでの法と意義
第 12 週	精神保健福祉士の対象と業務 精神保健福祉士の専門性と守るべき職業倫理
第 13 週	精神障害者のバリアフリー 精神障害者の主体性の尊重ということ
第 14 週	医療施設における相談援助と精神保健福祉士 社会復帰施設等の相談援助と精神保健福祉士
第 15 週	地域における相談活動と精神保健福祉士 事例にみる精神障害者相談援助の実際

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉論				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	6・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

1期15回の障害者福祉全般の知識や理解を踏まえて、更にⅡ期15回で現代の様々な環境とこころの健康障害を理解する。

《授業の到達目標》

精神障害者を生活者としてみるソーシャルワークの視点を培う。
利用者が持つ社会的問題に対するソーシャルワーカーの対応の課題を明らかにできる。

《テキスト》

精神保健福祉論 新・精神保健福祉士養成講座 中央法規出版

《参考文献》

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房
精神保健福祉士養成セミナー「精神保健福祉論」へるす出版
これからの精神保健福祉 精神保健福祉ガイドブック へるす出版

《成績評価の方法》

試験、レポート(50点)・平常点、授業態度(50点)

《授業時間外学習》

予習の方法： 毎回次回の授業内容を示すので予習しておくこと
復習の方法： 授業内容の再確認し、不明な点は質問する。又は自分で調べる

《備考》

授業の積極的な参加を希望する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	精神保健福祉法の意義及び要点の理解
第2週	福祉的就労・雇用・就業の現状と課題
第3週	医療法・地域保健法等の関連法規の理解
第4週	精神保健福祉行政組織の理解
第5週	精神保健福祉の各種公的負担制度
第6週	精神保健福祉施策の現状と方向及び課題
第7週	精神障害者社会復帰施設施策の発達と現状
第8週	精神障害者社会復帰施設施策の発達と現状
第9週	社会資源と多様な社会資源の活用
第10週	福祉的就労・雇用・就業の現状と課題
第11週	所得保障(手当・年金制度の知識)と理解
第12週	経済的負担の軽減と制度の知識と理解
第13週	生活環境の改善と精神障害者
第14週	精神保健福祉調査の知見と展望
第15週	総括

《専門コース科目》

科目名	精神医学 I				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

精神医学は人間の精神現象とその障害、すなわち、精神障害を扱う学問である。精神保健福祉士の国家試験を目指すものは、心の病を持つ当事者やその当事者とかかわりのある家族や関係多職種の人たちと接することが求められる。精神保健福祉分野で将来仕事を行う専門家に必要とされる精神医学の基礎的、臨床的知識を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

- ◎人間の心の病、疾患の概略が理解できる。
- ◎人間の精神発達の過程をライフサイクルの視点から捉え、その発達段階に起こりやすい精神病理現象（さまざまな精神疾患）をおおそ、理解できる。
- ◎精神医学・精神医療の歴史を知る
- ◎脳及び神経の解剖・生理がわかる

《テキスト》

『精神医学』 新・精神保健福祉士養成校講座 中央法規出版 2009年

《参考文献》

- 『精神医学ハンドブック第6版』 日本評論社 山下 格著 2007年
- 『看護のための精神医学』 中井久夫・山口直彦著 医学書院
- 『学生のための精神医学』 大田保之・上野武治編 医歯薬出版 2010年

《成績評価の方法》

- ★授業中の積極的な参加（ディスカッションなど発表態度他）20%
- ★課題に対するレポート提出 20%
- ★定期試験 60%

《授業時間外学習》

次週の課題を適宜出したりするので、その課題を前もって予習しておくこと。
最近では、新聞記事の特に家庭欄（朝日、読売、毎日、神戸、産経、日経など）で、心の問題について、メンタルヘルスケアのみならず、精神保健福祉を取り巻く幅広い分野で、法律改正の動きなども含めて取り上げられている。常に新聞の最新記事に目を通して、読んでおくこと。

《備考》

精神医学は精神保健福祉論や精神科リハビリテーション学、老年医学などとも関連するので、関連付けながら学ぶことが必要です。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	精神医学とは？イントロダクション	
第 2 週	精神医学・精神医療の歴史	古代より近代
第 3 週	精神医学・精神医療の歴史	現代の精神医学
第 4 週	脳及び神経の生理・解剖	神経系の構成
第 5 週	脳及び神経の生理・解剖	中枢神経系の解剖と機能
第 6 週	脳及び神経の生理・解剖	末梢神経系
第 7 週	精神医学の概念	精神医学の特徴と諸分野
第 8 週	精神医学の概念	精神障害の概念
第 9 週	精神医学の概念	精神障害の成因と分類
第 10 週	診断法	診断の手順と方法
第 11 週	診断法	精神症状と状態像
第 12 週	診断法	心理検査、身体検査
第 13 週	代表的な精神障害	症状性を含む器質性精神障害
第 14 週	代表的な精神障害	精神作用物質使用による精神及び行動の障害
第 15 週	精神障害の歴史や精神障害（一部）のまとめ、Ⅱ期へとリンクしてゆく	

《専門コース科目》

科目名	精神医学Ⅱ				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

精神医学Ⅰに続いて、精神障害への理解を深めてゆく。精神保健福祉も施設中心から地域での当たり前の生活を実現するための作業が進められている。精神医療福祉も、子どもから高齢者までを対象としたメンタルヘルスにかかわる課題に答えてゆかねばならない。精神保健福祉の外部環境、内部環境の変化に応じて、精神医学も進歩している。病院精神医療、精神科救急医療、地域精神医療医療観察法による医療などの概略を知るとともに、精神医療・保健福祉の専門職が相互理解に基づいて、精神障害（者）への適正な知識と態度を共有し、誤った知識や偏見を持つことのないことも精神医学の学びのねらいとする。

《授業の到達目標》

- 精神医学の概念の理解ができる
- 精神科の治療法（身体療法特に薬物療法、精神療法、環境・社会療法）の概略がわかる
- 病院の医療、地域での精神医療の違いがわかる
- 精神医学と法律との関係、司法精神医学の概要を述べるができる

《テキスト》

『精神医学』 新・精神保健福祉士養成校講座 中央法規出版 2009年

《参考文献》

『精神医学への招待』 清水 彰・頼藤和寛 南山堂
 『精神看護学』 野田文隆編 南江堂 2010
 『精神医学』 精神保健福祉士養成セミナー 編集委員会編 へるす出版

《成績評価の方法》

- ★授業中の積極的な参加 20%
- ★課題に対してのレポート提出 20%
- ★定期試験 60%

《授業時間外学習》

- ◎次の課題を適宜出したりするので、その課題を前もって予習をしておくこと。
- ◎新聞記事に最近ではよく心の問題や精神医療のことが取り上げられている。精神科の薬の副作用のことや精神科の医療と絡めてリハビリテーションのことも頻繁に出ているので読んでおくこと
- ◎精神科は法律改正とも関連するので、よく自己学習しておくこと

《備考》

精神医学は精神科リハビリテーション学、最近では高齢化が進むとともに重度認知症や寝たきりとも関係が深くなるので関連付けて、学ぶことも必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	代表的な精神障害 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害
第 2 週	代表的な精神障害 気分障害
第 3 週	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
第 4 週	生理的障害及び「身体的要因に関連した行動症候群
第 5 週	成人のパーソナリティおよび行動の障害
第 6 週	精神遅滞
第 7 週	心理的発達の障害
第 8 週	小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害
第 9 週	神経系の疾患
第 10 週	治療法 身体療法
第 11 週	治療法 精神療法
第 12 週	治療法 環境・社会療法
第 13 週	精神科リハビリテーション
第 14 週	病院精神医療および地域精神医療
第 15 週	司法精神医学、医療観察法、医療観察法による医療

《専門コース科目》

科目名	認知心理学				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

認知心理学は心理学の中で人間の知的機能全般についての基盤となる部分を担います。情報の入力(感覚)、最低限の意味の成立(知覚)、情報の処理(狭義の認知)をテーマとし、人の心の基礎過程について実験とモデルを両輪として理解します。それにより、人間の様々な心理・社会的な活動をより深く考察できるようになります。「感覚」では、視覚の特性について生理的なデータも交えて解説します。「知覚」では、対象の体制化や錯視現象などについてデモを行いながら解説します。そして「認知」では、記憶や問題解決など多くのトピックスについて、映像教材などを用いながら解説します。別途配布するプリント「認知心理学講義ノート」はテキストの役割をもつとともに、受講者が内容を整理するため活用できます。

《授業の到達目標》

- 「認知心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 感覚、知覚、認知の各過程を理解し類別することができる。
- 実験やモデルといった科学的な視点で心をとらえることができる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、認知心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《テキスト》

プリント(認知心理学講義ノート)を配布

《参考文献》

「知性と感性の心理 認知心理学入門」 行場次郎, 箱田裕治(編) 福村出版
 「グラフィック 認知心理学」 森敏昭・井上毅・松井孝雄 サイエンス社

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 80% レポート・小テストなど 10% 受講態度 10%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
特に予習は必要としない。
- ・復習の方法
復習には力を入れてください。授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まず、各用語の意味を理解し覚えてください。次に、図や表、様々なデータを参照しつつ、実験やモデルが示すことを理解するように努めてください

《備考》

本科目は、「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておく必要があります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	「認知心理学って何？」 認知心理学の概要を説明。
第 2 週	「眼からの情報は脳へどう伝わるかⅠ(視覚の基礎過程)」 網膜の役割。光信号から電気信号への変換。
第 3 週	「眼からの情報は脳へどう伝わるかⅡ(エッジと形)」 エッジの強調から形を知るまでの流れ。
第 4 週	「感覚の黄金法則(感覚についての3つの法則)」 ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則。
第 5 週	「おかしいのは世界か？自分か？(体制化と錯視)」 錯視のデモやその見えの仕組み。いくつかの対象がまとまって見える性質。
第 6 週	「わたしたちの世界(三次元知覚)」 三次元に世界を知覚するために必要な要素。大きさの恒常性。
第 7 週	「見えていても見えていない(注意)」 網膜に投影されることと「見える」こととの違い。注意の空間的および時間的性質。
第 8 週	「自分が自分であるために(記憶)」 記憶の分類。短期記憶から長期記憶へのシフト。ワーキングメモリ。
第 9 週	「いつも言葉で考える(言語)」 言葉と脳。文の理解にかかわる処理。
第 10 週	「人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)」 顔を認識する能力。人種と顔。感情と顔。
第 11 週	「一難去ってまた一難(問題解決)」 洞察と情報処理による問題解決。
第 12 週	「使いやすいのはどんなもの(デザインとアフォーダンス)」 情報デザイン。感性デザイン。エコロジカル(生態学的)デザイン。
第 13 週	「どっちを選ぶ？(意思決定)」 期待効用。ヒューリスティックス。
第 14 週	「認知心理学の現代的トピックス」 進化心理学的アプローチ、計算論的アプローチなど。
第 15 週	「これまで何を学んだか(まとめ)」 実験とモデルによる心の理解。

《専門コース科目》

科目名	臨床心理学				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

臨床心理学とは、こころの治療に関する心理学である。フロイトは、大人の患者との精神分析的治療の中で、人の情緒発達における幼児期の体験の重要性を発見した。フロイト以降の研究者は、フロイトの理論を基礎にしながら、より年少の乳幼児と母親との関係性に焦点をあて、対象関係論をうちたてていった。この授業では、このようなこころの治療の歴史をたどりながら、人の情緒発達の理論について学ぶことを目的とするが、対人関係上の問題を呈する人々への理解と自分自身の理解を深めるためにも役立ててほしい。

《授業の到達目標》

人の不安の源泉はどこにあるかを知る。
人の心の成長において大切なことは何かを知る。
対人関係はどのような関係から育つのかを知る。

《テキスト》

「保育・教育に生きる 臨床心理学」松島恭子監修・篠田美紀編著 光生館 2200円

《参考文献》

「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」滝口俊子・田中慶江編

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% 授業内容の理解50% レポート20%

《授業時間外学習》

上記の参考文献は、「こころを理解するための参考文献」である。配布するリスト 112冊の本の中から、各自1冊の本を選び、手書きで原稿用紙又はレポート用紙5枚の「感想文」を期日までに提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション 「臨床心理学とは何か」
第2週	フロイトの発見
第3週	フロイトの精神分析
第4週	フロイト以降の研究者の理論
第5週	対象関係論
第6週	遊戯療法
第7週	芸術療法
第8週	芸術療法
第9週	行動療法
第10週	認知行動療法
第11週	家族療法
第12週	ユングの臨床心理学
第13週	来談者中心療法
第14週	フォーカシング
第15週	臨床心理学の理解について

《専門コース科目》

科目名	心理測定法				
担当者名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

心理学は科学的な性質を強くもっており、新たな知見を見出すためには、仮説を構築し実際に検証することが重要です。そのためには体系的なデータの取得方法や解析方法を心得ていなければなりません。本科目では、科学的に「ものをいう」ための基本的な作法について勉強します。テキストに従い、「研究に対する考え方の基礎」「実験法」「測定法」「分析法」などについて順序だてて説明するとともに、別途配布するプリントにて内容を整理し、基本事項の理解が促されるようにします。また、受講生自身が計算問題やコンピュータを用いた統計解析にも挑み、最後は自らが計画した簡単な実験を行って分析を試みます。

《授業の到達目標》

- 心理学の研究について、どのような方法論があるか類別できる。
- 研究における手順や留意点を説明することができる。
- 結果の解析に基本的な統計手法を用いることができる。

《テキスト》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 〔改訂版〕 加藤司 北樹出版

《参考文献》

『心理測定法への招待』 市川伸一編著 サイエンス社
 『はじめての心理統計法』 鶴沼秀行・長谷川桐 東京図書

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 80% レポート・小テストなど 10% 受講態度 10%

《授業時間外学習》

・予習の方法

下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。

・復習の方法

授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まずは用語の意味を理解し覚えてください。次に具体的な手法などを順を追って振り返ってください。

《備考》

- ・本科目は、「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておくことが必要です。
- ・心理学が科学的な性質を強くもつため、研究で得られた数値を解析する必要があります。特に授業の後半では、比較的容易ではありませんが、実際に計算を行ったりコンピュータを用いたりします。そのあたりを十分心得て受講してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	「心理学における研究の基礎①」 科学的な心理学の成立までを概観
第 2 週	「心理学における研究の基礎②」 基本用語や心理学を支える幾つかの考え方
第 3 週	「実験法①」 独立変数や従属変数を考慮した実験計画
第 4 週	「実験法②」 実験結果を歪める剰余変数
第 5 週	「さまざまな研究法」 実験法以外の研究法：観察法、質問紙法
第 6 週	「心理学的測定法①」 刺激と心の関係を数量的にとらえる精神物理学
第 7 週	「心理学的測定法②」 被験者の意見や態度などを調べる評定法、性格などを調べる検査法
第 8 週	「データ分析の基礎①」 測定尺度、記述統計の基礎
第 9 週	「データ分析の基礎②」 推測統計の基礎
第 10 週	「変数間の差の検定①」 t 検定の説明と練習
第 11 週	「変数間の差の検定②」 「変数間の関係」 分散分析および相関
第 12 週	「フリーソフトウェア JavaScript・STAR の利用」 分散分析、相関係数の算出など、コンピュータによる実習
第 13 週	「学生による簡単な実験①」 研究計画
第 14 週	「学生による簡単な実験②」 実験と分析
第 15 週	実験の発表、授業の振り返り

《専門コース科目》

科目名	心理学基礎実験				
担当者名	北島 律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

心理学の代表的な研究方法である実験法を、心理学の各領域における基礎的な実験を実際に行うことによって体験的に学びます。また、「実験目的」「実験方法」「実験結果」「考察」をレポートにまとめ、さらにそれを発表することで、心理学の科学的な考え方を体系的に身につけます。本科目での学びは、様々な領域や場面において、実際にデータを取得したり報告書を作成したりすることに役立ちます。

《授業の到達目標》

- 心理学の代表的な研究方法である実験法の特徴について、どのようなものを説明することができる。
- 心理学の各領域における基礎的な実験について実際に行うことができる。
- 実験結果を適切なやり方でまとめることができる。
- 結果から自分の考えを述べることができる。

《テキスト》

『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版

《参考文献》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 [改訂版]』 加藤司 北樹出版 <授業「心理測定法」のテキスト>

《成績評価の方法》

レポート 80% 受講態度 10% 発表 10%

《授業時間外学習》

授業時間中に完成させることができなかったレポートを仕上げてください。レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください。送信先のメールアドレスは授業中に示します。レポートは添削し、次の授業の前半で講評を行います。

《備考》

- ・本科目を受講するためには、前もって「心理学」「認知心理学」「心理測定法」を修得しておく必要があります。
- ・実験は少人数のグループで行うものであるため、欠席や遅刻はしないようにしてください。事情がある場合は必ず担当教員に連絡してください。
- ・すべての実験に参加しレポートを提出することが、単位修得のための最低条件です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	「ガイダンス」 実験に関する基本の説明. 心理測定法の復習
第 2 週	「実験をしてみよう1(ミューラー・リヤー錯視)」<知覚心理学> 実験の説明、実験
第 3 週	「実験をしてみよう1(ミューラー・リヤー錯視)」<知覚心理学> 実験のつづき、基本的なレポートの書き方説明、レポートの作成
第 4 週	「実験をしてみよう2(触二点閾)」<感覚心理学> 実験の説明、実験
第 5 週	「実験をしてみよう2(触二点閾)」<感覚心理学> 実験のつづき、レポートの作成
第 6 週	「実験レポートの書き方」 より本格的なレポートの書き方の説明
第 7 週	「実験1：自由再生の実施」<認知心理学> 実験の説明、コンピュータを用いた実験の準備
第 8 週	「実験1：自由再生の実施」<認知心理学> 実験、レポートの作成
第 9 週	「実験2：両側性転移の実施」<学習心理学> 学習・知覚運動協応など重要概念の説明、反転メガネによる知覚運動協応の体験
第 10 週	「実験2：両側性転移の実施」<学習心理学> 実験の説明、実験
第 11 週	「実験2：両側性転移の実施」<学習心理学> 実験のつづき、レポートの作成
第 12 週	「実験3：パーソナルスペースの実施」<社会心理学> 実験の説明、実験
第 13 週	「実験3：パーソナルスペースの実施」<社会心理学> 実験のつづき、レポートの作成
第 14 週	「実験のプレゼンテーション」 発表準備
第 15 週	「実験のプレゼンテーション」 プレゼンテーション

《専門コース科目》

科目名	心理療法 I				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、カウンセリングの基本である、受容・共感・傾聴、そして支持について学び、福祉の現場で会う人たちが話をしたくなるような援助者になれるよう、いくつかのロールプレイを行う。また、ストレス社会といわれる現代において、私たちが知っておくべき、ストレスとうまくつきあっていく方法（ストレスマネジメント）についても学ぶ。後半にはテキスト「心理療法の基本」を読みながら、人が人をささえる、ということについて考えていく。

《授業の到達目標》

カウンセリングの基本を理解し、日常生活でも必要に応じて活用することができる。
ストレスマネジメントの方法を少なくとも一つ身につけ、自分の日常的なストレス対処法に役立てることができる。

《テキスト》

前半の授業に必要な資料は配布します。各自きちんとファイルすること。
後半には、テキストを使用しますので、第9週の授業が始まるまでに購入しておいてください。

「心理療法の基本」日常臨床のための提言 村瀬嘉代子・青木省三著 金剛出版 (2400円＋税)

《参考文献》

マンガで学ぶフォーカシング入門 からだをとおして自分の気持ちに気づく方法 村山正治監修 誠信書房 1900円＋税

《成績評価の方法》

授業への取り組み 30% 授業内容の理解 50% レポート 20%

《授業時間外学習》

前半のストレスマネジメントについては、各自の自宅での練習が必要です。努力の結果、成果、変化については、レポートにまとめてください。後半は、声に出してテキストを読んでくれるという予習が必要です。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション「心理療法とは」
第 2 週	カウンセリングの基本
第 3 週	ストレスマネジメント①自己コントロール法
第 4 週	ストレスマネジメント②対人関係に基づく方法
第 5 週	ストレスマネジメント③認知的ストレスマネジメント
第 6 週	ストレスマネジメント④自律訓練法
第 7 週	うまく悩めるために・・・フォーカシング
第 8 週	フォーカシング実習
第 9 週	「心理療法における支持」について①
第 10 週	「心理療法における支持」について②
第 11 週	「つなぐ」ということ①
第 12 週	「つなぐ」ということ②
第 13 週	「言葉」をめぐる
第 14 週	「統合的心理療法」
第 15 週	心理療法 I についてのまとめ

《専門コース科目》

科目名	心理療法Ⅱ				
担当者名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

心理療法Ⅰで学んだカウンセリングの基本をもとに、心理療法のプロセスについて学ぶ。関係性という視点から、遊びの意味や、治療の中で描かれる絵の意味や、イメージが伝えるものについて考える。ここでとりあげるいくつかの心理療法から、人と人の関わりのなかで生じることについて「気づく」視点を身につけ、福祉の現場での対人援助において役立ててほしい。

《授業の到達目標》

“カウンセリングの基本”である、受容・共感・傾聴といった人のところへの向き合い方から一歩前進して、人と人が関わる関係性の変化のプロセスを思い描けるようになること。

《テキスト》

特になし。必要な資料は配布する。

《参考文献》**《成績評価の方法》**

授業への取組み 30% 毎回の授業ごとに提出するレポート 30% 全体のまとめ 40%

《授業時間外学習》

心理療法Ⅰを受講していない者は、「心理療法の基本」村瀬嘉代子・青木省三 金剛出版（2400円＋税）を購入し、よく読み込んだうえで、この授業に臨んでほしい。また、日常的にこのころに関する本を1冊でも多く手にとって読んでほしい。リストは配布する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（心理療法をめぐって）
第 2 週	心理療法Ⅰの復習
第 3 週	遊戯療法について①
第 4 週	遊戯療法について②
第 5 週	描画療法について
第 6 週	描画療法実習①
第 7 週	描画療法実習②
第 8 週	箱庭療法について
第 9 週	箱庭療法の事例
第 10 週	箱庭療法実習①
第 11 週	箱庭療法実習②
第 12 週	箱庭療法実習③
第 13 週	箱庭療法実習④
第 14 週	箱庭療法実習⑤
第 15 週	心理療法Ⅱのまとめ

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を理解することが、この講義の眼目である。そのために以下の項目を中心に論ずる。

- (1) わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について
- (2) 教育課程の意義と目的について
- (3) 教育課程及び学習指導要領編成の内容について
- (4) 道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》

教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、主体的に考えることができる。

《テキスト》

1. 『教育課程入門(仮)』 広岡 義之編著 (ミネルヴァ書房) 2010年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小テスト 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読して、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教育課程の意義
第 3 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷 (1)
第 4 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷 (2)
第 5 週	教育課程編成の教育目的・目標および社会的基盤
第 6 週	教育課程の諸形態について
第 7 週	教育課程の編成 (幼稚園)
第 8 週	教育課程の編成 (小学校)
第 9 週	教育課程の編成 (中学校)
第 10 週	教育課程の編成 (高等学校)
第 11 週	道徳教育の内容について
第 12 週	教育課程における特別活動の意義・役割・位置づけ
第 13 週	総合的な学習の時間の取り扱いについて
第 14 週	教育課程実施上の配慮事項について
第 15 週	新しい学習指導要領の変更点について

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論				
担当者名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在の小学校・中学校・高等学校における特別活動の枠組みと内容を理解することが、この講義のねらいである。そのために以下の項目を中心に論ずる。

- (1) わが国の特別活動の歴史と変遷について
- (2) 特別活動の意義と目的について
- (3) 学習指導要領における特別活動の位置づけについて
- (4) 道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、わが国の特別活動は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の特別活動はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることを目指す。

《テキスト》

『新しい特別活動論』 広岡義之編著（創言社）2009年

《参考文献》

小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編
その他、必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

到達目標にかかわる出題範囲の定期試験（80%）、指定された教材を読む等の受講態度（20%）により評価する。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは、試験の受験資格を失う。

《授業時間外学習》

- ・受講前に、教材の指定された箇所を読んでおくこと。
- ・講義中に解説した内容を一旦ノートに記した後、重要と思われる内容を教科書の余白に転記する、あるいは付箋に記して教科書に張り付けるなどし、同時に教科書と読み合わせて講義内容を復習する。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	特別活動の意義
第 3 週	特別活動の歴史
第 4 週	特別活動の目標
第 5 週	学級会活動について
第 6 週	ホームルーム活動について
第 7 週	児童会活動について
第 8 週	生徒会活動について
第 9 週	学校行事について
第 10 週	クラブ活動と部活動
第 11 週	特別活動と教科指導の関連
第 12 週	道徳教育の内容について
第 13 週	特別活動の今日的課題と役割
第 14 週	「総合的な学習の時間」と特別活動の関係・区分
第 15 週	本講義のまとめと重要個所の復習

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者名	平井 尊士				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業全体を通して、授業計画に基づき、幅広く講義と演習の繰り返しを実施します。特に現代人の社会と心についても様々な視点（例えば、家族・メディア・教育・文化など）からも考察する

《授業の到達目標》

各教職科目の教育目標、内容、指導方法について、特に各専門教科の学習目標や学習内容にポイントを置き、教育方法論、教育工学全般の知識、授業設計の方法、評価方法、それらを取り巻く環境等について学習する。特に、演習（模擬授業も含む）を通して、質の高い授業を実施するための、必要な教材研究等についても理解・習得し、教育現場に出ても新任教師として自立できることを到達目標とする。

《テキスト》

佐藤典子編『現代人の社会とこころ：家族・メディア教育・文化』弘文堂（2009）

《参考文献》

適宜指示し使用します。

《成績評価の方法》

[評価方法] 毎回、各授業後に課すレポートや課題

[評価の割合] 毎回、各授業後に課すレポートや課題（100点）

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません

《授業時間外学習》

毎回配布する資料は学内システム（新統合 HUMANS）に電子ファイルとしておいておきます。毎回出す課題をするために必ず熟読して取り組むこと。

《備考》

テキストは必ず熟読すること。また必要に応じ、学内新統合 HUMANS システムおよび e-Learning システムを積極的に活用します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1. 教育方法論の位置づけ 情報化社会における教師教育では、理念に留まらない「教育方法論」が展開しなければならない。新学習指導要領の実施に伴い、「総合的な学習」「情報」「国際化」等の教育領域に応じて教育工学的アプローチがどのように必要か併せ「教育方法論」の位置づけを概観する。さらに現代人を取り巻く環境についてもしっかりと考える。特に「私」とは誰かなどについても事例を踏まえながら考える
第 2 週	2. 「教育方法」研究の歴史的背景について 諸外国の主な代表的な教育学者（ソクラテス・コメニウス、フレーベル・ペスタロッチ、デューイ・デュール、スキナー・ブルーナー等）の「教育方法」研究の歴史と日本における「教育方法」研究の歴史的背景を考察する。
第 3 週	3. 「教育工学」の概要について 教育工学の意義、歴史、研究領域、研究法について論じた後、「録画授業」を視聴する。
第 4 週	4. 教育工学と教師教育について 教育課程編成の基本を説明し、伝統的なカリキュラム構造を持つ教科学習と、柔らかな構造の学習活動との指導と評価の違いについて「教育課程（教育内容）」と「教育方法」の検討を行う。
第 5 週	5. 授業実践方法の考察について 授業研究の方法論、具体的な授業研究の例をあげながら、行動科学的・認知科学的、定量的・定性的、サーベイ/ケース・スタディ、仮説検証/仮説生成の4つの観点から、授業方法を検討する。
第 6 週	6. 授業設計の方法 現在、授業設計から学習支援へと授業設計の考え方が変容している。そこで実際の「学習指導案」を例に挙げ、その中心である学習方略の内容について学習する。
第 7 週	7. 授業におけるコミュニケーションについて：人間関係およびコミュニケーション 「発問」「指示」は重要な教師の行動であるが、その方法に注目したとき、特に「発問」の方略が学習者の応答に対処するための「処置」と密接に関係していることがわかる。授業での「発問」の機能と役割を学ぶ。特に人間関係って何？・コミュニケーションの多様性について学問上からも考究する
第 8 週	8. 授業研究および実践授業 わが国や諸外国の総合的な学習について、その歴史的変遷や背景にある理論を説明し、「総合的な学習の時間」の授業作りの視点と方法やこれに向けた小・中学校の先導的事例を紹介する。その後、学習指導案の作成の演習を行う。
第 9 週	9. 授業研究および評価 「8.」で演習を行った内容の解説を行う。さらに授業者および学習者の観察分析評価の方法と事業改善について、総合的授業評価法としての「生徒による授業評価」や、「形成的授業評価法」による授業評価の実践とその成果を紹介しながら、評価の意義と方法について解説する。
第 10 週	10. 学校教育におけるメディア環境 国の施策に基づき、コンピュータや情報通信ネットワークに代表される多種多様な情報機器が学校に導入されつつある。こうしたメディア環境を活用する授業の展開と課題について考察を行う。
第 11 週	11. 情報教育カリキュラムの開発と授業実践 実際の情報教育実践や理論を取り上げ、情報活用の実践力の育成としての授業の目標と実践上の工夫について、「ITを用いた学習指導方法の工夫改善」を目的としたシステムティックな単元設計、学習環境設計、先行経験との関係について考察を行う。
第 12 週	12. 教育情報データベースの開発と利用 教師のマルチメディア教材の作成（方法）や生徒が利用し調べ学習等に利用できる主な映像情報データベース（各種ポータルサイトや地域映像データベース）や学校放送番組と、その利用法について考察を行う。
第 13 週	13. 遠隔共同交流学习と学習環境について テレビ会議システム及びSCSを用いて遠隔地の小中学校が結ばれ、総合的学習課題に共同して取り組む事業が多い。そこで開かれた学習環境における学習の特質とその授業構成と学習指導の方略について、事例をもとに解説し、現状と課題について考察を行う。
第 14 週	14. まとめ：P-D-S サイクルにおける評価を用いた演習 授業全体を通して、「教育工学」の内容を基本的に理解させ、それが単なる机上論に終わらず実践のレベルで自作教材を作成させる。
第 15 週	15. 最終まとめとレポート：職業生活と心や異文化を知ることで育む人間力などについて、しっかりと考察する。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）				
担当者名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健康と体力）を積極的に推進するには、生徒指導、進路指導、いわゆるガイダンス・カンセリングが必要不可欠である。本講義では、このような生徒の全人的な育成を主眼とした生徒指導と進路指導を目指し、それぞれの事項についての深い理解ができることをねらいとする。

《授業の到達目標》

学校教育における生徒指導と進路指導の意義と役割を明らかにする。生徒指導と進路指導とは生徒が自己実現を図るためには車の両輪のように必須の内容であり、学校教育の上で重要な位置を占めるものである。本講義では現代における生徒指導及び進路指導の在り方の確立を目指す。

《テキスト》

『新しい生徒指導・進路指導』加澤恒雄・広岡義之編著（ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	生徒指導の教育的意義と課題
第 3 週	生徒指導の原理と理論
第 4 週	児童・生徒理解の進め方
第 5 週	学級経営の進め方
第 6 週	教科指導と生徒指導
第 7 週	生徒指導実践における教師像と研修
第 8 週	学校の生徒指導体制と家庭・地域との連携
第 9 週	進路指導の意義と課題
第 10 週	自己の発見と自我同一性の確立
第 11 週	就労観・職業観の形成と変容
第 12 週	進路指導実践の学校体制
第 13 週	学校教育における進路指導の実践展開（1）
第 14 週	学校教育における進路指導の実践展開（2）
第 15 週	本講義のまとめと重要箇所の復習

平成 20 年度
(2008 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	PSW	高等学 校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成22年度の 担 当 者
			必修	選択				1年		2年		3年		4年		
								I	II	I	II	I	II	I	II	
専 門	生涯発達心理学Ⅰ	講義	2						2							
	生涯発達心理学Ⅱ	講義	2						2							
	生涯学習論	講義	2						2							
	ソーシャルワーク論	講義	2						2							
	ライフデザイン論	講義	2											2		
	法学Ⅰ	講義	2		◎	※			2							
	法学Ⅱ	講義	2						2							
	行政法	講義	2						2							
	家族社会学	講義	2							2						
	家族福祉論	講義	2							2						
基 礎	社会福祉学入門	講義	2						2							
	発達心理学	講義	2				▲		2							
	人間関係論	講義	2							2						
	親子関係の心理学	講義	2								2					不開講
	健康心理学	講義	2							2						
	集団心理学	講義	2									2				[石井 佑可子]
	社会心理学	講義	2						2							
	コミュニケーション心理学Ⅰ	講義	2							2						
	コミュニケーション心理学Ⅱ	講義	2								2					
	教育心理学	講義	2					△			2					
教 育 目 的	ライフステージと健康	講義	2											2		
	医学概論Ⅰ	講義	2		○	◇		2								
	医学概論Ⅱ	講義	2		○	◇		2								
	食文化論	講義	2					2								
	食生活論	講義	2					2								
	レクリエーションワークⅠ	講義	2					2								
	レクリエーションワークⅡ	講義	2					2								
	演習Ⅰ	演習	4					4								
	演習Ⅱ	演習	6							6						
	専 門 コ ア ス 目 的	社会福祉学原論Ⅰ	講義	2		○	◇	△	2							
社会福祉学原論Ⅱ		講義	2		○	◇	△	2								
社会保障論		講義	2		●	◆			2							
老人福祉論Ⅰ		講義	2		○		△	2								
老人福祉論Ⅱ		講義	2		○		△	2								
障害者福祉論Ⅰ		講義	2		○		△			2						
障害者福祉論Ⅱ		講義	2		○		△			2						
児童福祉論Ⅰ		講義	2		○		△			2						
児童福祉論Ⅱ		講義	2		○		△			2						
地域福祉論		講義	2		●	◆					2					
ア ス 目 的	公的扶助論	講義	2		●	◆					2					[西澤 正一]
	社会福祉援助技術論A	講義	4		○	◇	△			4						
	社会福祉援助技術論B	講義	4		○	◇	△				4					高橋・井上
	介護概論	講義	2		○		△			2						
	人間の行動と社会環境	講義	2						2							
	社会福祉援助技術演習A	演習	4		○		△				4					牧田・村上・高橋・井上
	社会福祉援助技術演習B	演習	4		○		△					4				牧田・村上・高橋・井上
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	講義	1		○		△		1							
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	講義	1		○		△			2						田端・高橋・井上・桐石
	社会福祉援助技術現場実習	実習	4		○		△					12				牧田・村上・高橋・井上・桐石

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	PSW	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 22 年 度 の 担 当 者
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年		
								I	II	I	II	I	II	I	II	
専 門 コ ア 科 目	社会統計学Ⅰ	講義	2							2						
	社会統計学Ⅱ	講義	2								2					
	社会調査論Ⅰ	講義	2					2								
	社会調査論Ⅱ	講義	2						2							
	地域経済論	講義	2								2					田端 和彦
	社会福祉行財政論	講義	2									2				[西澤 正一]
	福祉工学	講義	2										2			
	まちづくり論	講義	2										2			稲富 恭
	国際福祉論	講義	2											2		
	スクールソーシャルワーク論	講義	2												2	
専 門 コ ス 科 目	医療福祉論Ⅰ	講義	2									2				村上 須賀子
	医療福祉論Ⅱ	講義	2									2				村上 須賀子
	精神保健福祉論	講義	6			◇				6						
	精神医学Ⅰ	講義	2			◇				2						
	精神医学Ⅱ	講義	2			◇				2						
	精神保健学Ⅰ	講義	2			◇						2				村上 須賀子
	精神保健学Ⅱ	講義	2			◇						2				村上 須賀子
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	講義	2			◇						2				[知念 奈美子]
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	講義	2			◇						2				[知念 奈美子]
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	講義	2			◇						2				[光田 豊茂]
精神科リハビリテーション学Ⅱ	講義	2			◇						2				[光田 豊茂]	
専 門 コ ス 科 目	精神保健福祉援助演習	演習	4			◇						4				村上・桐石・[光田]
	精神保健福祉援助実習	実習	4			◇							12			
	老年医学	講義	2									2				桐石 梢
	認知心理学	講義	2								2					
	臨床心理学	講義	2								2					
	心理測定法	講義	2								2					
	心理学基礎実験	実験	2									4				
	心理療法Ⅰ	講義	2								2					
	心理療法Ⅱ	講義	2								2					
	心理検査法実習	実習	2									4				北島 律之・琴浦 志津
専 門 コ ス 科 目	心理カウンセリング演習	演習	2										2			
	老人・障害者の心理	講義	2									2				[奥 典之]
	色彩論	講義	2									2				浜島 成嘉
	社会福祉特別演習	演習	4										4			
卒業演習	演習	4											4			

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目、●◎は社会福祉士国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）

◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目、◆※は精神保健士（PSW）国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成20年度（2008年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成22年度の担当者	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教職に関する科目	教職概論	講義	2				△	2									
	教育原理	講義	2				△	2									
	教育制度論	講義	2				△		2								
	教育課程論	講義	2				△			2							
	福祉科教育法	講義	4				△					4					不開講
	特別活動論	講義	2				△			2							
	教育方法・技術論	講義	2				△			2							
	生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2				△		2								
	教育相談 (含カウンセリング)	講義	2				△		2								
	総合演習	演習	2				△					2					吉原・今井・稲富
	事前・事後指導	演習	1				△						1				吉原 恵子
高等学校教育実習	実習	2				△							4				

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目、●◎は社会福祉士国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）

◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目、◆※は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格選択必修科目（各1科目必要）

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を履修すること。

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成22年度の担当者	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
関連資格に関する科目	社会福祉基礎講座 I	講義	2									2					田端・河野・今井
	社会福祉基礎講座 II	講義	2										2				牧田・高橋・井上
	行動分析論	講義	2										2				(森田 義宏)

※ 資格に関する科目を修得しても卒業要件の単位数には含まれません。

《専門基礎科目》

科目名	集団心理学				
担当者名	石井 佑可子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

集団が個人に、個人が集団に与える影響について、また見知らぬ人同士の集団間、集合、文化における現象についての知見を紹介し、講義では、少人数の集団からより大きな集団、集合、文化についての順で取り上げていくので、それぞれの視点の違いを学習することがねらいです。後半には、実際の研究がどのようなテーマで、どのような手法で行われているのかを知るために集団心理学に関連する文献（主に短い研究論文）講読を予定しています。

《授業の到達目標》

我々の社会認知や行動におけるさまざまな集団、集合、文化の影響について、また個人が集団へ与える影響についての知識を深めることを目指します。また社会心理学におけるマクロな視点を用いることで、人間の社会行動に対する多角的な理解を進めることも目標とします。

《テキスト》

特にありません。講義中に資料を配付します。

《参考文献》

「社会心理学 アジアからのアプローチ」山口勲 編著 東京大学出版会
 「よくわかるコミュニティ心理学」植村勝彦 高島克子 箕口雅博 原裕視 久田満 編著 ミネルヴァ書房
 「組織行動の社会心理学」田尾雅夫 編集 高木修監修 北大路書房 その他、講義中に適宜紹介します。

《成績評価の方法》

レポートなどの課題 80%、出席 20% ※他に授業態度などを評価に付与することがあります。

《授業時間外学習》

〈予習〉講義中に出された課題があれば、取り組んで下さい。シラバスを見て、興味を持ったテーマがあれば予め関連する文献などを読んでおいて下さい。

〈復習〉講義中に取り上げられた議題（※）について、関連する文献や日々のエピソードなどから、自分自身の考えをまとめる練習をして下さい。※レポート課題にも関連する予定です。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション、集団心理学の視点
第 2 週	集団の構造；定義、形成、組織
第 3 週	小集団 1；集団と個人の相互作用
第 4 週	小集団 2；集団での情報処理
第 5 週	集団間関係；内集団外集団、社会的アイデンティティ、集団間差別、ステレオタイプ
第 6 週	群集行動；うわさ、流行、社会運動
第 7 週	コミュニティにおけるコミュニケーション；コミュニティ様式の変化、地域情報化
第 8 週	公衆関係におけるコミュニケーション 1；演説
第 9 週	公衆関係におけるコミュニケーション 2；聴衆のコンピテンス
第 10 週	インタビューのコンピテンス
第 11 週	プレゼンテーションのコンピテンス
第 12 週	文献購読 1
第 13 週	文献購読 2
第 14 週	文献購読 3 ※履修人数に応じて、変更することもある。
第 15 週	総括

《専門コア科目》

科目名	公的扶助論				
担当者名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

「低所得者に対する支援と生活保護制度について学ぶ」

公的扶助制度の基本的な理解と共に、特に低所得者に対する様々な支援と生活保護制度を中心として、現代社会における貧困事例等も取り上げながら、公的扶助制度の運営上の問題や生活保護制度が直面する課題について理解する。具体的には、最近特にマスコミ等でも取り上げられる現代社会における貧困や低所得者に対する支援と課題を中心に、「人間らしく生きること」を改めて問い直し、自己の問題として考える。

《授業の到達目標》

- ①わが国における公的扶助の代表的制度である生活保護制度の理念と内容を理解する。
- ②生活保護制度の役割と社会的意義、また今日の問題を考える。
- ③昔の貧困と現代社会における様々な貧困について理解する。
- ④現代社会の貧困をめぐる社会的諸課題について自分達の問題として考える。
- ⑤貧困の現実と制度との関連、また歴史や実践を通して公的扶助論の役割を理解する。

《テキスト》

著者名/Authors : 杉村宏・岡部卓・布川日佐史 編著
 書名/Title : 「よくわかる公的扶助」
 出版社・出版年/Publisher・Year : ミネルヴァ書房・2008年9月発行 2310円
 その他、随時プリント等を配布。

《参考文献》

著者名/Authors : 岡部卓・六波羅詩朗
 書名/Title : 新・社会福祉士養成講座 第16巻「低所得者に対する支援と生活保護制度」
 出版社・出版年/Publisher・Year : 中央法規出版・2009年3月刊行 1680円

《成績評価の方法》

出席状況/Attendance (20%)
 学期末試験など/Final exam (60%)
 その他グループ討議の発表態度などを総合的に判断 (20%)

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、その都度指示された期日までに提出のこと。
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見出し、不明の点は連絡先メールなどで確認のこと。

《備考》

- ・連絡用メールアドレス sazanka@guitar.ocn.ne.jp
- ・課題提出先：三木市吉川町大沢418番地 社会福祉法人吉川福祉会 高齢者総合福祉施設さざんかの郷
 電話(0794)72-1170 FAX(0794)72-2355

※授業計画における毎回のテーマや内容は、講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、福祉現場での実践事例やマスコミ報道等の資料を多く活用し、受講者自らが考える授業としたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ガイダンス (コース概要) 公的扶助を学ぶ視点
第2週	現代社会の中の貧困
第3週	公的扶助と関連施策
第4週	公的扶助制度の歴史 (イギリス公的扶助と日本の救貧制度)
第5週	生活保護制度の成立過程
第6週	生活保護制度のしくみⅠ (目的と基本原理・実施上の原則)
第7週	生活保護制度のしくみⅡ (保護基準と保護の種類・方法)
第8週	生活保護制度のしくみⅢ (保護の実施と費用・権利と義務)
第9週	生活保護の政策と動向
第10週	生活保護におけるソーシャルワーク実践
第11週	相談援助技術と実際
第12週	海外の公的扶助
第13週	生活保護制度の課題
第14週	低所得者施策・実践動向と今後の展望
第15週	まとめ

《専門コア科目》

科目名	社会福祉援助技術論B				
担当者名	高橋 千代・井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

ソーシャルワークは、さまざまな次元で人と環境との相互作用が行われている場に介入していく専門職である。Aに引き続き、人間の行動に関する諸理論に基づき、人々を支援するためのソーシャルワーク技術を説明する。ケースマネジメント、ネットワーキングなどの技術の理解を深めてほしい。

《授業の到達目標》

ケースマネジメントの目的と内容を理解する。ネットワーキングの目的と内容を理解する。

《テキスト》

「相談援助の理論と方法Ⅱ」社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考文献》

随時紹介

《成績評価の方法》

レポート（70%）、小テスト（30%）

《授業時間外学習》

Aで学んだソーシャルワーク支援の視点や理論、モデルについて復習する。事例研究を行う。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション（授業の流れについて） Aで学んだアプローチの復習（心理社会的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容）
第2週	グループを活用した相談援助（人間にとっての集団、グループワークの意義、展開過程）
第3週	ケースマネジメント①（目的、構成要素、展開過程）
第4週	ケースマネジメント②（ケアプランの意義、作成、実施）
第5週	コーディネーション（意義、方法、技術）
第6週	ネットワーキング（意義、方法、内容）
第7週	社会資源の活用・調整・開発（社会資源、ソーシャルアクション）
第8週	スーパービジョン（意義、内容）
第9週	コンサルテーション（意義、内容）
第10週	ケースカンファレンス（意義、内容）
第11週	面接（目的、特性、展開、コミュニケーション）
第12週	記録（意義、目的、種類、倫理的課題）
第13週	交渉（意義、目的、方法）
第14週	事例研究
第15週	事例分析

《専門コア科目》

科目名	社会福祉援助技術演習 A				
担当者名	牧田 満知子・村上 須賀子・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

本演習の目的は、以下の通りである。

- ①社会福祉援助技術論で学んだ内容を、演習形式で実体験する。
- ②対人援助職者としての自己理解を深める。
- ③社会福祉援助技術現場実習につなげる。

《授業の到達目標》

- ①社会福祉援助技術論で学んだ価値・知識・技術を具体的に体得し、表現できる。
- ②対人援助職者として、自らの価値観や特性を自覚する。

《テキスト》

特に用いない。

《参考文献》

《成績評価の方法》

演習は毎回出席が原則である。遅刻した場合、3回の遅刻で1回の欠席と見なす。評価は出席状況（30%）と授業態度（70%）で評価する。

《授業時間外学習》

ロールプレイなどから、個人面談が必要となってくる場合がある。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 【内容】社会福祉援助技術のスキル構造を理解する
第 2 週	自己の理解（1） 【内容】対人援助職者としての自己覚知（自己理解、他者からの目）を深める
第 3 週	自己覚知（2） 【内容】自己覚知を深めるとともに自己の活用法を考える
第 4 週	面接技法（1） 【内容】面接技術の基本のうち、構造化された面接技法を学ぶ
第 5 週	面接技法（2） 【内容】面接技術の基本のうち、半構造化された面接技法を学ぶ
第 6 週	面接技法（3） 【内容】面接技法をロールプレイで体験的に学ぶ
第 7 週	ソーシャルワークのミクロの視点（1） 【内容】ソーシャルワークのミクロの視点から事例を理解する
第 8 週	ソーシャルワークのミクロの視点（2） 【内容】ロールプレイを通じてミクロの視点を学ぶ
第 9 週	ソーシャルワークのミクロの視点（3） 【内容】ロールプレイの結果を振り返る
第 10 週	ソーシャルワークの記録について 【内容】ソーシャルワークの記録について学ぶ
第 11 週	利用者理解 【内容】当事者をゲストスピーカーとして招聘する
第 12 週	ソーシャルワークのメゾの視点（1） 【内容】ソーシャルワークのメゾの視点から事例を理解する
第 13 週	ソーシャルワークのメゾの視点（2） 【内容】ロールプレイを通じてメゾの視点を学ぶ
第 14 週	ソーシャルワークのメゾの視点（3） 【内容】ロールプレイの結果を振り返る
第 15 週	ソーシャルワークを「縦の軸」から理解する 【内容】生活歴把握の意味を理解する／生活歴聞き取りの課題に取り組む

《専門コア科目》

科目名	社会福祉援助技術演習B				
担当者名	牧田 満知子・村上 須賀子・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本演習は、Ⅰ期に引き続きソーシャルワークに必要な価値、知識、技術を演習形式で実体験することにある。さらに、Ⅱ期の演習では次年度社会福祉援助技術現場実習に向けた実習指導の位置づけも同時に持ち合わせている。演習では、まずソーシャルワークにおけるメゾレベルからマクロレベルでの実践を机上で組み立てることを目的とし、次に学生自身が、支援者としてどのような価値観を持ち合わせているかを知るためにプロセス・リコードを実際に用いられるようにする。演習の半分は実習指導に当てるため、実習先の選定から計画書作成までを行う。

《授業の到達目標》

- (1) 事例の中で、地域の中で社会資源がどのように存在しているのかを説明できる。
- (2) 地域を取り上げた事例の中から、日本型ソーシャルワークについて考えてみようとする。
- (3) 自らの実践者としての価値観を掘り下げてみようとする。

《テキスト》

特に用いない。

《参考文献》

《成績評価の方法》

演習のため、出席状況（30%）と授業態度（70%）で評価する。ただし、出席についてはⅠ期と同じく、3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

《授業時間外学習》

実習先選定と実習計画書作成については、時間外で指導を必要とする場合がある。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ソーシャルワークのメゾ～マクロの視点（1） 【内容】ソーシャルワークのメゾ～マクロの視点で事例を理解する
第 2 週	ソーシャルワークのメゾ～マクロの視点（2） 【内容】ロールプレイを通じてメゾ～マクロの視点を学ぶ
第 3 週	ソーシャルワークのメゾ～マクロの視点（3） 【内容】ロールプレイの結果を振り返る
第 4 週	自己理解を深める（1） 【内容】プロセス・リコードについての説明
第 5 週	自己理解を深める（2） 【内容】プロセス・リコード記述の演習
第 6 週	自己理解を深める（3） 【内容】プロセス・リコード記述の演習
第 7 週	実習事前指導（1） 【内容】ソーシャルワーク実習の目的と課題についての説明
第 8 週	実習事前指導（2） 【内容】実習先選定のための面接
第 9 週	実習事前指導（3） 【内容】実習先調整
第 10 週	実習事前指導（4） 【内容】利用者理解（ゲストスピーカー）
第 11 週	実習事前指導（5） 【内容】アセスメントとプランニング演習①
第 12 週	実習事前指導（6） 【内容】アセスメントとプランニング演習②
第 13 週	実習事前指導（7） 【内容】記録の書き方演習
第 14 週	実習事前指導（8） 【内容】実習計画書作成
第 15 週	実習事前指導（9） 【内容】実習計画書作成

《専門コア科目》

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ				
担当者名	田端 和彦・高橋 千代・井上 浩・桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

本科目は、現場に赴きソーシャルワークを学ぶ二段階目にあたる実習指導である。社会福祉の問題が発生している。その問題に近づいていくためには、どのような手段が必要なのだろうか。そもそも、社会福祉の問題とはどのような性質を持っているのだろうか。さらに、こうした問題を抱えている「人」に接していくためにはどのような手段が必要なのだろうか。本科目では、具体的な支援過程を学ぶことまでは目標としない。まず支援に必要な問題を理解し分析するため、利用者に近づくにはどのようなコミュニケーションが必要なのかを考える機会とする。二つ目に授業で学ぶことは、施設理解である。学生の皆さんは、少しずつ社会サービスに関する知識を学んでいる。こうした社会サービスの知識を、施設分析という形式で整理する機会となる。

《授業の到達目標》

- (1) 福祉の問題を知る
- (2) 福祉の問題と関係をつくる

《テキスト》

「実習の手引き」を参照すること

《参考文献》

《成績評価の方法》

学年をわたる科目であるが、出欠については半期ごとにカウントする。すなわち、前半 15 回で 1/3 以上欠席し、これを超えて欠席や遅刻などをした者については実習に行くことができない。後半 15 回で 1/3 以上欠席をし、これを超えて欠席や遅刻をした者については、実習に行っていたとしても本科目の単位を出すことはできない。

成績評価は出欠状況（演習中の態度を含む）と基礎実習の実習評価に基づいて実施する。出欠状況 70%、実習評価 30%の評価である。

《授業時間外学習》

実習報告会の準備で時間外学習を要することがある。

《備考》

本実習指導は昨年度Ⅱ期からの続きである。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	【項目】基礎実習（配属） 【内容】
第 2 週	【項目】基礎実習（配属） 【内容】
第 3 週	【項目】オリエンテーション 【内容】後半の進め方について
第 4 週	【項目】実習振り返り（1） 【内容】カタルシス
第 5 週	【項目】実習振り返り（2） 【内容】深化
第 6 週	【項目】施設分析（5） 【内容】
第 7 週	【項目】施設分析（6） 【内容】
第 8 週	【項目】実習報告会（1） 【内容】実習報告会の意義と説明
第 9 週	【項目】実習報告会（2） 【内容】報告会準備
第 10 週	【項目】実習報告会（3） 【内容】報告会準備
第 11 週	【項目】実習報告会（4） 【内容】報告会準備
第 12 週	【項目】実習報告会 【内容】
第 13 週	【項目】実習報告会 【内容】
第 14 週	【項目】まとめ 【内容】ソーシャルワーク本実習へのつながり
第 15 週	【項目】まとめ 【内容】ソーシャルワークの中での位置づけ

《専門コア科目》

科目名	社会福祉援助技術現場実習				
担当者名	村上 須賀子・牧田 満知子・高橋 千代・井上 浩・桐石 梢				
授業方法	実習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

【目的】

これまで学んできたソーシャルワークに関する諸理論を統合し、具体的な支援計画に結びつける試みを行う

【概要】

社会福祉援助技術現場実習は、学部レベルでのソーシャルワーク専門職者養成のための実習である。実習期間が4週間であるため、受講生各自がテーマをもって臨むとともに、できる限り利用者の支援計画を立ててみる努力をしてほしい。実習先施設や機関の役割を認識するとともに、利用者のより深い理解と援助技術の体験に努め、自分なりの支援の基本スタンスを確立することを目的とする。

《授業の到達目標》

学部レベルでのソーシャルワーク支援の立ち位置を確立できる

《テキスト》

特に設けない

《参考文献》

配属中は「実習の手引き」を必ず携帯すること

《成績評価の方法》

実習先からの評価票（30%）、実習記録（70%）で評価する

《授業時間外学習》

実習記録は、ほとんどの場合実習外の時間で作成することになる

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
	以下の内容について、15回に分けて学習する。 《学習内容》 施設等の現場体験を通して、ソーシャルワーク専門職に必要な以下の内容を学習する。 I 社会福祉現場を知る 1. 施設・機関の役割を知る 2. 利用者やクライアントの生活の流れを知る 3. 職員の業務内容を理解する 4. 現状の社会福祉制度や諸問題を考える 5. 実習のテーマを深める II 利用者の多面的理解を図る 1. 利用者やクライアントの特徴を生物-心理-社会-精神文化的に理解する 2. 利用者やクライアントの言動や感情を受けとめる 3. 利用者やクライアントとの関わりを持つ 4. 利用者やクライアントの社会的環境を理解する 5. ケース記録や職員から情報を集める 6. 自分の関わり方について考える III 援助技術を用いる 1. 利用者やクライアントの functioning を改善させる社会サービスはどのようなものか考えてみる IV 自己を見つめる 1. 自分の感情を見つめる 2. ソーシャルワーク専門職者としてどのような癖をもっているのかを見つめる
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第 10 週	
第 11 週	
第 12 週	
第 13 週	
第 14 週	
第 15 週	

《専門コア科目》

科目名	地域経済論				
担当者名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

グローバル化時代であるからこそ、ローカルが重要になる時代、これがグローバル化と呼ばれるものです。この中で、各地では特徴ある経済が発展しています。世界の中の地域経済、という視点で、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを例に、地域の事情を理解しながら、経済の過去と現在を学びます。事例を中心として、地域経済の発展を知ることができます。

《授業の到達目標》

- ・ 海外の経済事情に関心を持ち、ニュースで取り上げられる海外の経済事情の背景を理解し、説明することができる。
- ・ イノベーションや産学連携、社会的企業など地域経済のキーワードを理解し、説明することができる。

《テキスト》

テキストはありません。プリントを配布します。

《参考文献》

M.E.ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論1・2』ダイヤモンド社
A.サクセニアン著、山形浩生訳『現代の二都物語』日経BP社
細内信孝『コミュニティ・ビジネス』中央大学出版部
L.M.サラモン著、江上哲訳『NPOと公共サービス』ミネルヴァ書房
山崎朗『日本の国土計画と地域開発』東洋経済新報社

《成績評価の方法》

テストが60%、日常点（レポート、授業内の発言、小テスト）が40%です。

《授業時間外学習》

事前にプリントを配布する場合には、目を通しておいて下さい。
グループディスカッションを行う場合、事前に資料を配布しますので、目を通しておいて下さい。
グループディスカッションの結果をグループ毎にまとめてレポートにして提出して下さい。

《備考》

履修者の人数によりませんが、グループに分けて、議論をする機会を設ける予定です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1.ガイダンス。
第 2 週	2.グローバル化の中で地域が重要になること。
第 3 週	3. M.ポーターの理論とイノベーションの重要性。
第 4 週	4.シリコンバレーの歴史を紐解く。
第 5 週	5.シリコンバレーの文化は独自。サクセニアンの気づき。
第 6 週	6.IT 先進国のフィンランド。小国ゆえの競争政策。
第 7 週	7.ヨーロッパの中心。連邦国家ベルギーの分権論。
第 8 週	8.金融だけではない。スコットランドの目指すもの。
第 9 週	9.公害から環境先進地へ。ドイツのルール地方。
第 10 週	10.イタリアブランドは地域ブランド。
第 11 週	11.ハンガンの奇跡からハンリュウへ。韓国の産業政策。
第 12 週	12.1993 年の大転換。中国の経済発展。
第 13 週	13.三線計画から西部大開発へ。
第 14 週	14.都市国家シンガポール。
第 15 週	15.予備日

《専門コア科目》

科目名	社会福祉行財政論				
担当者名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

「社会福祉に関する法律と行財政について学ぶ」

福祉六法を基盤とする社会福祉も、近年の「社会福祉基礎構造改革や三位一体の改革」に伴って、また一方では介護保険制度や障害者自立支援法の施行等によって大きな転換が図られ、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へ、また措置から利用契約型へと、行財政のあり方も改めて問われる時代となってきた。社会福祉の現状と今後の動向を理解するため、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《授業の到達目標》

- ①基本的な福祉政策の形成過程を理解する。
- ②これまでの国と地方の役割や福祉サービス供給体制や制度の経緯を知る。
- ③福祉サービスを利用する住民の視点で制度・政策を理解する。
- ④高齢者・障がい者等が地域で自立して生活できる「総合的支援策」を組み立てることができる。
- ⑤少子高齢化社会の問題を自分達ひとり一人の課題として考える。

《テキスト》

著者名/Authors : 西村健一郎・品田充儀 編著
 書名/Title : 「よくわかる社会福祉と法」
 出版社・出版年/Publisher・Year : ミネルヴァ書房・2008年10月発行
 その他、随時プリント等を配布。

《参考文献》

書名/Title : 「よくわかる行政学」
 出版社・出版年/Publisher・Year : ミネルヴァ書房・2009年4月発行

著者名/Authors : 編集委員（河幹夫・小林良二・和気康太）
 書名/Title : 新・社会福祉士養成講座 第10巻「福祉行財政と福祉計画」
 出版社・出版年/Publisher・Year : 中央法規出版・2009年3月刊行

著者名/Authors : 河野正輝、増田雅暢、倉田聡ほか編
 書名/Title : 「社会福祉法入門（第2版）」
 出版社・出版年/Publisher・Year : 有斐閣・2008年

《成績評価の方法》

出席状況/Attendance (20%)
 学期末試験など/Final exam (60%)
 その他グループ討議の発表態度などを総合的に判断 (20%)

《授業時間外学習》

- ・授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示された期日までに提出のこと。
- ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見出し、不明な点は連絡用メールアドレス等にて確認して下さい。

《備考》

- ・連絡用メールアドレス sazanka@guitar.ocn.ne.jp
- ・課題提出先：三木市吉川町大沢418番地 社会福祉法人吉川福祉会 高齢者総合福祉施設さざんかの郷
 電話(0794)72-1170 FAX(0794)72-2355

※授業計画における毎回のテーマや内容は、講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

基本的にはテキストに沿って講義を進めるが、福祉現場での実践事例やマスコミ報道等の資料を多く活用し、受講者自らが考える授業としたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ガイダンス（コース概要）社会福祉をめぐる最近の話題
第2週	社会福祉の法体系と目的
第3週	社会福祉法制の展開
第4週	社会福祉における給付の法構造
第5週	社会福祉の財政と利用者負担
第6週	福祉サービスの提供体制
第7週	福祉サービス利用者の権利とその擁護
第8週	高齢者福祉
第9週	障害者福祉
第10週	児童・母子福祉
第11週	低所得者福祉（生活保護を中心として）
第12週	苦情解決・不服申立てと行政訴訟等
第13週	社会福祉の将来像
第14週	社会福祉法制の今後の課題と展望
第15週	まとめ

《専門コア科目》

科目名	まちづくり論				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・本授業のねらいは、「まちづくり」の実践に必要な価値判断能力と、多分野にわたる知識を習得することにある。ここで、「まちづくり」とは望ましい生活環境を実現するための物理的、社会的な様々な行動の総体を意味する。
- ・授業は各回のテーマに沿った座学形式の講義と、参加者による事例調査の発表・分析によって構成される。

《授業の到達目標》

- 「まちづくり」に必要な専門的知識、手法について理解しする。
- 積極的に「まちづくり」に関与できる能力を身につける。

《テキスト》

- ・テキストは用いない。

《参考文献》

- ・『まちづくりキーワード事典』三船 康道,学芸出版社,2002

《成績評価の方法》

- ・授業中に不定期に実施する小テスト(50%)、事例調査レポート(50%)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
各回の授業内容に関連したまちづくり事例を新聞、Web等の媒体を用いて調査する。
- ・復習の方法
授業内容に従い、ノートを制作する。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス:諸学問分野における「まちづくり」の位置づけ
第 2 週	社会環境としての「まちづくり」(1):「まちづくり」に関連する法制度
第 3 週	社会環境としての「まちづくり」(2):コミュニティの役割と現状
第 4 週	社会環境としての「まちづくり」(3):市民参加によるまちづくり
第 5 週	社会環境としての「まちづくり」(4):少子高齢化の影響と今後のまちづくり
第 6 週	建築環境としての「まちづくり」(1):町並みとと景観
第 7 週	建築環境としての「まちづくり」(2):生活環境のデザイン
第 8 週	建築環境としての「まちづくり」(3):交通環境とバリアフリー
第 9 週	「まちづくり」と安全:防災とセキュリティ
第 10 週	「まちづくり」と経済活動(1):スプロールと中心市街地活性化
第 11 週	「まちづくり」と経済活動(2):再開発事業
第 12 週	「まちづくり」と地球環境:コンパクトシティとサステナビリティ
第 13 週	「福祉のまちづくり」の事例と考察
第 14 週	事例調査のプレゼンテーション
第 15 週	授業のまとめ

《専門コース科目》

科目名	医療福祉論Ⅰ				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉専門職の基礎知識としての保健医療サービスを理解する。テキストを使用して保健医療サービス全般の基本的知識を押さえ、ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者(患者・家族)を中心とした連携のあり方を考えることができるようになる。

《テキスト》

「保健医療サービス」 村上須賀子・横山豊治編著 久美出版 2010
医療福祉総合ガイドブック2010年度版 村上須賀子・佐々木哲二郎編著 医学書院 2010

《参考文献》

患者、精神障害者の闘病記や介護体験記

《成績評価の方法》

定期試験 60% レポート 40%

《授業時間外学習》

患者および精神障害者、その家族など当事者の闘病記や体験記を複数読み込みレポートにまとめる。
医療福祉問題に関する新聞をスクラップにし、レポートにまとめる。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	保健医療分野のソーシャルワークの実際を学ぶ
第 2 週	病むことの意味を学ぶ
第 3 週	各医療専門職の役割を理解する
第 4 週	医療ソーシャルワーカー業務指針を理解する
第 5 週	保健医療サービスの概要を理解する
第 6 週	診療報酬制度を理解する
第 7 週	保健医療対策を理解する
第 8 週	連携の意味を学ぶ
第 9 週	保健医療サービスにおける連携の意味を学ぶ
第 10 週	地域の社会資源との連携を理解する
第 11 週	医療機関別実践・低所得者への医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
第 12 週	医療機関別実践・総合病院における医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
第 13 週	当事者に学ぶ
第 14 週	医療保険制度を理解する
第 15 週	介護保険制度を理解する

《専門コース科目》

科目名	医療福祉論Ⅱ				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

医療福祉分野、精神保健福祉分野のソーシャルワークの専門性を理解し、その実践の組み立てを学ぶ。テキストを中心に事例検討も重ね、各専門分化した実践を具体的に学ぶ。Ⅰ期の医療福祉論Ⅰの発展科目に位置する。

《授業の到達目標》

専門分化した医療環境の変化を理解し、各専門分野における医療ソーシャルワークの特性を理解する。事例検討を重ねることにより、各事例に対して支援プロセスの対案を考えられるようになる。

《テキスト》

「改訂2版・実践的医療ソーシャルワーク論」 村上須賀子・大垣京子編著 金原出版株式会社 2009
 「在宅医療ソーシャルワーク」 村上須賀子・京極高宣他編著 勁草書房 2008

《参考文献》

医療福祉総合ガイドブック2010年度版 村上須賀子・佐々木哲二郎編著 医学書院 2010

《成績評価の方法》

レポート70% プレゼンテーション30%

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、ディスカッションに参加できるように疑問点や自己の意見などをまとめておくこと。

《備考》

進路として、医療領域・精神医療領域希望の学生は必須である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	医療ソーシャルワークの実践指針を学ぶ
第2週	医療福祉環境の変化と医療ソーシャルワーカー 医療政策・社会福祉政策の変遷を理解する。
第3週	医療福祉環境の変化と医療ソーシャルワーカー 医療ソーシャルワーカー実践の場の分化を理解する。
第4週	医療機関機能分化と医療ソーシャルワーカー業務実践を理解する。 特定機能病院
第5週	医療機関機能分化と医療ソーシャルワーカー業務実践を理解する。 地域医療支援病院
第6週	医療機関機能分化と医療ソーシャルワーカー業務実践を理解する。 回復期リハビリテーション
第7週	医療機関機能分化と医療ソーシャルワーカー業務実践を理解する。 亜急性期病床
第8週	医療機関機能分化と医療ソーシャルワーカー業務実践を理解する。 療養型病床群
第9週	医療機関機能分化と医療ソーシャルワーカー業務実践を理解する。 緩和ケア
第10週	在宅医療ソーシャルワークの実践指針を学ぶ
第11週	在宅医療ソーシャルワーク事例検討をする。 1
第12週	在宅医療ソーシャルワーク事例検討をする。 2
第13週	在宅医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
第14週	在宅医療ソーシャルワークへの展望を学ぶ。
第15週	地域医療ソーシャルワークへの展望を学ぶ。

《専門コース科目》

科目名	精神保健学Ⅰ				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際を理解し精神保健福祉士の役割について考察できるようになる。

《授業の到達目標》

テキストを使用して精神保健の基本的知識を押さえる。ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ

《テキスト》

「精神保健学」 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2009

《参考文献》

「医療福祉総合ガイドブック2010年度版」 村上須賀子・佐々木哲二郎 編集代表 医学書院 2010

《成績評価の方法》

レポート課題等に対する取り組み（50%）
授業への取り組み各回コメント（50%）

《授業時間外学習》

学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	統合失調症の理解と支援
第2週	統合失調症の理解と支援
第3週	患者家族が求める精神医療
第4週	患者家族が求める精神医療
第5週	患者家族が求める精神医療
第6週	統合失調症からの回復、早期発見、早期支援
第7週	統合失調症の回復、リハビリテーション
第8週	精神保健に関する対策 自殺防止対策
第9週	精神保健に関する対策 自殺防止対策
第10週	精神保健に関する対策 うつ病対策
第11週	精神保健に関する対策 うつ病対策
第12週	精神保健に関する対策 うつ病対策
第13週	ゲストスピーカー
第14週	精神保健に関する対策 アルコール依存症対策
第15週	精神保健に関する対策 アルコール依存症対策

《専門コース科目》

科目名	精神保健学Ⅱ				
担当者名	村上 須賀子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際を理解し精神保健福祉士の役割について考察できるようになる。

《授業の到達目標》

テキストを使用して精神保健の基本的知識を押さえる。ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ

《テキスト》

「精神保健学」 日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規 2009

《参考文献》

「医療福祉総合ガイドブック2010年度版」 村上須賀子・佐々木哲二郎 編集代表 医学書院 2010

《成績評価の方法》

レポート課題等に対する取り組み (50%)

授業への取り組み各回コメント (50%)

《授業時間外学習》

学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	精神保健に関する対策 薬物依存対策
第 2 週	精神保健に関する対策 薬物依存対策
第 3 週	精神保健に関する対策 摂食障害
第 4 週	精神保健に関する対策 摂食障害
第 5 週	精神保健に関する対策 若者のこころの病
第 6 週	精神保健に関する対策 若者のこころの病
第 7 週	精神保健に関する対策 認知症高齢者に対する対策
第 8 週	精神保健に関する対策 認知症高齢者に対する対策
第 9 週	ライフサイクルと精神保健
第 10 週	ライフサイクルと精神保健
第 11 週	地域精神保健に関する諸法規
第 12 週	地域精神保健に関する諸法規
第 13 週	保健師等の役割と連携
第 14 週	ゲストスピーカー
第 15 週	地域精神保健に係る行政機関の役割及び連携

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論 I				
担当者名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

精神科ソーシャルワークの個別援助技術、集団援助技術および地域援助技術について学ぶ。

《授業の到達目標》

精神科ソーシャルワークの個別援助技術、集団援助技術および地域援助技術について、支援プロセスと方法を説明できる。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉援助技術総論 中央法規

《参考文献》

精神科ソーシャルワーカーの実践とかかわり～御万人の幸せを願って～ 名城健二 中央法規

《成績評価の方法》

定期試験（55%）

毎回の講義後に実施するレポート（45%）

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書は授業前に読んでおくこと。

《備考》

授業では、講義の他アクティビティもあるため、積極的に参加し学ぶ態度が求められる。

授業は、疑問や質問を解消するための時間として、積極的に活用する態度が求められる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	自己紹介、個別援助技術の展開過程①
第 2 週	個別援助技術の展開過程②
第 3 週	ケースワークの実際①
第 4 週	ケースワークの実際②
第 5 週	ケースワークの実際③
第 6 週	集団援助技術の展開過程①
第 7 週	集団援助技術の展開過程②
第 8 週	集団援助技術の実際①
第 9 週	集団援助技術の実際②
第 10 週	集団援助技術の実際③
第 11 週	地域援助技術の展開過程①
第 12 週	地域援助技術の展開過程②
第 13 週	コミュニティワークの実際①
第 14 週	コミュニティワークの実際②
第 15 週	まとめ

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ				
担当者名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

精神科ソーシャルワークにおけるケアマネジメント、チームアプローチ、障害者福祉計画作成・進行管理、精神保健福祉士の共通技術について学ぶ。

《授業の到達目標》

精神科ソーシャルワークにおけるケアマネジメントのプロセスと方法が説明できる。
精神科ソーシャルワークにおけるチームアプローチおよび連携の方法が説明できる。
障害者福祉計画作成の過程と進行管理および評価方法を説明できる。
精神保健福祉士の共通技術である面接、記録、スーパービジョン、効果測定の方法を説明できる。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉援助技術総論 中央法規

《参考文献》

ACT 入門—精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム 西尾雅明 金剛出版

《成績評価の方法》

定期試験（55%）
毎回の講義後に実施するレポート（45%）
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書は授業前に読んでおくこと。

《備考》

授業では、講義の他アクティビティもあるため、積極的に参加し、学ぶ態度が求められる。
授業は、疑問や質問を解消するための時間として、積極的に活用する態度が求められる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ケアマネジメントの展開過程
第 2 週	ケアマネジメントの実際①
第 3 週	ケアマネジメントの実際②
第 4 週	チームアプローチと連携①
第 5 週	チームアプローチと連携②
第 6 週	チームアプローチと連携③
第 7 週	障害者福祉計画①
第 8 週	障害者福祉計画②
第 9 週	障害者福祉計画③
第 10 週	精神保健福祉士の共通技術①
第 11 週	精神保健福祉士の共通技術②
第 12 週	精神保健福祉士の共通技術③
第 13 週	精神保健福祉士の共通技術④
第 14 週	精神保健福祉士の共通技術⑤
第 15 週	まとめ

《専門コース科目》

科目名	精神科リハビリテーション学 I				
担当者名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

精神科リハビリテーションは精神疾患を抱えた人達に対して、その人達が生きていく上での生活の質（QOL）を少しでも良くするための援助の方法です。この援助の基本的知識として、精神科リハビリテーションの概念や歴史、その構成、及びプロセスについて講義する。

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの目的、意義を理解し、病院、施設、地域での精神科リハビリテーションのプロセスを知る。

《テキスト》

『精神科リハビリテーション学』日本精神保健福祉士養成協会編集、中央法規、2009年

《参考文献》**《成績評価の方法》**

レポート課題に対する取り組み（50%）

授業への取り組み（50%）

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと

《備考》

授業中、積極的な質問や意見を期待する

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	リハビリテーションの概念と歴史
第 2 週	リハビリテーションの理念、意義と基本原則
第 3 週	精神科リハビリテーションの概念
第 4 週	精神科リハビリテーションの基本原則と技法
第 5 週	わが国および諸外国の精神科リハビリテーションの現状
第 6 週	精神科リハビリテーションの対象
第 7 週	精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
第 8 週	精神科リハビリテーションにかかわる専門職等との連携
第 9 週	精神科リハビリテーションの施設
第 10 週	精神科リハビリテーションの関連領域
第 11 週	リハビリテーション計画
第 12 週	病院におけるリハビリテーション
第 13 週	社会復帰施設等におけるリハビリテーション
第 14 週	地域におけるリハビリテーション
第 15 週	学習のまとめ

《専門コース科目》

科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ				
担当者名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

精神科リハビリテーションⅠをふまえ、医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を提示し、そこにおける精神保健福祉士の役割について講義する。

《授業の到達目標》

医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を知り、そこにおける精神保健福祉士の果たす役割を理解する。

《テキスト》

『精神科リハビリテーション学』日本精神保健福祉士養成協会編集、中央法規、2009年

《参考文献》

《成績評価の方法》

レポート課題に対する取り組み (50%)
授業への取り組み (50%)

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと

《備考》

授業中、積極的な質問や意見を期待する

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	医療機関におけるリハビリテーション概説
第 2 週	医療機関におけるリハビリテーション：作業療法
第 3 週	医療機関におけるリハビリテーション：レクリエーション療法
第 4 週	医療機関におけるリハビリテーション：集団精神療法
第 5 週	医療機関におけるリハビリテーション：行動療法
第 6 週	医療機関におけるリハビリテーション：認知行動療法と社会生活技能訓練
第 7 週	医療機関におけるリハビリテーション：家族教育プログラム
第 8 週	医療機関におけるリハビリテーション：デイケア、ナイトケア
第 9 週	医療機関におけるリハビリテーション：訪問看護・指導
第 10 週	精神保健福祉士が行うリハビリテーション：集団精神療法について
第 11 週	精神保健福祉士が行うリハビリテーション：社会生活技能訓練において
第 12 週	精神保健福祉士が行うリハビリテーション：デイケア、ナイトケアにおいて
第 13 週	精神保健福祉士が行うリハビリテーション：訪問業務において
第 14 週	地域リハビリテーション：ケアマネジメント
第 15 週	地域リハビリテーション：家族会・セルフヘルプグループ

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助演習				
担当者名	村上 須賀子・桐石 梢・光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・I期分

《授業のねらい及び概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワーク等）及びリハビリテーション技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し小グループで議論し合う形で事例研究及びロールプレイ等を行う。

《授業の到達目標》

- ・精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその技術・技法を習得する。
- ・学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。

《テキスト》

精神保健福祉士養成セミナー第7巻、「精神保健福祉援助演習」、へるす出版、定価（本体価格2,800円+税）

《参考文献》

《成績評価の方法》

- レポート課題等に対する取り組み（50%）
- 授業への取り組み各回コメント（50%）

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える知識・技術の習得を目指すので、学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション・自己紹介・グループ分け
第2週	ケースワーク事例：保健所・危機介入事例（事例番号②）
第3週	同上（上記事例の続き）
第4週	インテークの取り方
第5週	ケースワーク事例：病院・資源紹介事例（事例番号①）
第6週	同上（上記事例の続き）
第7週	入院形態・精神保健診察の流れについて
第8週	専門職としての基本的態度・ゲスト予定
第9週	当事者理解：当事者体験談・ゲスト予定
第10週	社会復帰施設見学予定
第11週	ケースワーク事例：退院援助事例（事例番号③）
第12週	同上（上記事例の続き）
第13週	ケースワーク事例：社会復帰施設による生活援助事例（事例番号④）
第14週	兵庫県内の社会復帰施設について
第15週	夏休暇課題説明・精神保健福祉領域の社会資源調査

《専門コース科目》

科目名	精神保健福祉援助演習				
担当者名	村上 須賀子・桐石 梢・光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワーク等）及びリハビリテーション技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し小グループで議論し合う形で事例研究及びロールプレイ等を行う。

《授業の到達目標》

- ・精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその技術・技法を習得する。
- ・学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。

《テキスト》

精神保健福祉士養成セミナー第7巻、「精神保健福祉援助演習」、へるす出版、定価（本体価格2,800円+税）

《参考文献》

《成績評価の方法》

- レポート課題等に対する取り組み（50%）
- 授業への取り組み各回コメント（50%）

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える知識・技術の習得を目指すので、学生自身の率直な意見・質問を積極的に考えてきて、報告すること。

《備考》

《授業計画》

週	授業計画
第1週	グループワーク事例：依存症患者セルフヘルプ・グループ事例（事例番号⑩）
第2週	同上（上記事例の続き）
第3週	アルコール依存症の理解と自助グループの役割について
第4週	グループワーク事例：精神科デイケア事例（事例番号⑥）
第5週	同上（上記事例の続き）
第6週	精神科病院デイケア見学予定
第7週	コミュニティーワーク事例：社会復帰施設におけるリハビリテーション相談事例（事例番号⑫）
第8週	同上（上記事例の続き）
第9週	ケースワーク事例：地域生活における生活支援事例（事例番号⑤）
第10週	地域生活支援事例：チームアプローチによる援助事例（事例番号⑭）
第11週	同上（上記事例の続き）
第12週	地域生活支援事例：ケアマネジメントによる援助事例（事例番号⑮）
第13週	同上（上記事例の続き）
第14週	学習の振り返り
第15週	現場実習の意味について・オリエンテーション

《専門コース科目》

科目名	老年医学				
担当者名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

世界に類を見ない急激な高齢人口の増加に対して、我が国の老年医学にどう対応すべきか、医療経済的にも多大な影響を与えるケアも含めてどうあるべきなのか？社会福祉士・精神保健福祉士などの福祉職として、今後ますます必要とされる介護職や看護職、医療職種などとの連携を深めるためにも、最低必要な臨床老年医学の基礎知識をライフサイクルのなか、生活者の視点で、身体的・精神的・社会的・霊的な WHO の健康の定義から、概論を習得する。

《授業の到達目標》

- ◎老化の及ぼす身体的・精神的・社会的変化を知る
- ◎老年期に起こりやすい疾患とその特徴を包括的に理解できる。
- ◎老年期の疾患の名前を各臓器別にあげ、それぞれの主な症状を知ることができる

《テキスト》

医学書院 『臨床老年医学入門』 監修：日野原重明 著者：道場信孝、 2005年

《参考文献》

- 『老年看護学』 Vol.14 No. 1 『老年看護学』 Vol.14 No. 2
- 『老年看護 病態・疾患論』 第3版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院
- 『人体の構造と機能及び疾病』 新・社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2009年

《成績評価の方法》

- 授業中の積極的な参加（ディスカッションなど） 20%
- レポート課題等の提出物 20%
- 定期試験 60%

《授業時間外学習》

翌週の課題を適宜出すので、その課題を調べておくこと。そして授業を受けて、授業内容を講義後でも、理解できないときはまず自分でよく調べることそれでもわからないときは連絡用のメールアドレスでの質問や研究室での質問など積極的に学習をすること

《備考》

いま日本は少子高齢社会です。高齢者の医学の基礎をしっかりと学び、関連科目とも合わせ学んでください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	高齢者の生理的特徴
第 2 週	健康の捉え方と対応の変化
第 3 週	高齢者医療の特徴
第 4 週	高齢者のフィジカルアセスメント
第 5 週	認知障害と認知症 うつ
第 6 週	脳血管障害
第 7 週	心臓血管疾患・心不全
第 8 週	呼吸器疾患
第 9 週	悪性腫瘍・加齢とともに増える癌
第 10 週	変形性関節症
第 11 週	骨粗鬆症
第 12 週	高齢者と薬
第 13 週	高齢者のリハビリテーション
第 14 週	終末期の医療・ケア
第 15 週	老年医学のまとめ及び高齢者における健康評価：生き方の重点

《専門コース科目》

科目名	心理検査法実習				
担当者名	北島 律之・琴浦 志津				
授業方法	実習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉士として福祉の現場に出て行く時、知ってくと役に立つ「心理学検査」について学ぶ。授業では様々な種類の「心理テスト」を取り上げるが、体験・実習した心理テストについては、レポートにまとめて自己理解を深めることにも役立ててほしい。

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査、性格検査、パーソナリティーテストを体験・理解し、自己理解・他者理解を深める。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

現在のエスプリ別冊 臨床心理学シリーズII 「心理査定プラクシス」

《成績評価の方法》

毎回の授業に参加し心理テストを知ることが重要であるため、授業実施回数の3分の1以上を欠席した場合は単位を与えない。成績は受講態度30%、ほぼ毎回の授業時のレポート提出70%で評価する。

《授業時間外学習》

配布する資料は、将来 福祉の現場でも活用できるものであるため、各自 ファイルを用意してファイリングしておくこと。

《備考》

同じ日に2コマ連続で実施する授業である。遅刻厳禁。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	パーソナリティーテスト①
第 3 週	パーソナリティーテスト②
第 4 週	児童相談所の「心理学的判定」で用いられる心理テスト①
第 5 週	児童相談所の「心理学的判定」で用いられる心理テスト②
第 6 週	児童相談所の「心理学的判定」で用いられる心理テスト③
第 7 週	病院で使用される心理テスト ①
第 8 週	病院で使用される心理テスト ②
第 9 週	病院で使用される心理テスト ③
第 10 週	投影法①
第 11 週	投影法②
第 12 週	描画テスト①
第 13 週	描画テスト②
第 14 週	親子関係を知る心理テスト
第 15 週	高齢者のための心理テスト・まとめ

《専門コース科目》

科目名	老人・障害者の心理				
担当者名	奥 典之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

老人・障害者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行うことにより、老人や障害者をよりよく理解することをねらいとする。又、本講は認定心理士資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、心理学専攻者としてのアイデンティティをもてることにも留意する。

《授業の到達目標》

具体的には、老人・障害者をよりよく理解することにより、彼らに適切に接し、あるいは支援したり介護したりし、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになることを目標とする。

《テキスト》

中野 善達・守屋 國光 編著「老人・障害者の心理」(改訂版) 福村出版

《参考文献》

下山 晴彦 編「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房

《成績評価の方法》

出席状況と筆記試験、及び課題レポートによる。
全評価に対する割合(%)については、最初の授業で説明する。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめること。

《備考》

講義中心であるが、随時課題レポートの作成を求める。
課題レポートのテーマについては、場合によってはゲストスピーカーを招く事がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	老人の心理：総論（1）
第 2 週	老人の心理：総論（2）
第 3 週	障害とその心理的影響（1）
第 4 週	障害とその心理的影響（2）
第 5 週	老人の心理的特性（1）
第 6 週	老人の心理的特性（2）
第 7 週	老人の心理的特性（3）
第 8 週	障害の原因・程度・種類別心理的特性（1）
第 9 週	障害の原因・程度・種類別心理的特性（2）
第 10 週	障害の原因・程度・種類別心理的特性（3）
第 11 週	老年期の精神障害・機能障害とその心理（1）
第 12 週	老年期の精神障害・機能障害とその心理（2）
第 13 週	高齢者、障害者への対応・事例研究（1）
第 14 週	高齢者、障害者への対応・事例研究（1）
第 15 週	試験・まとめ

《専門コース科目》

科目名	色彩論				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

「騒音」という言葉に対して「騒色」という表現がマスコミで用いられている。この言葉は特に、都市における景観色のあり方について、警告の意味として「騒色公害」などとも表現されている。色彩が生活のなかで無秩序で刺激的な色彩の氾濫により私達の日常生活に影響を与える。「色彩と生活」、「色彩と文化」、「環境と色彩等々について、改めて色彩の意味を考えます。

《授業の到達目標》

私達は、多くの色彩に囲まれています。無意識にそれらの色彩にかかわっていて、色が無言で発しているメッセージを「色彩科学」「色彩の感情効果」「社会と色彩」等々の視点から解き明かし、色彩のもつ不思議さを学習する事により、色彩をきれいな色とか汚い色といった感覚的だけでなく、理論的にそしてまた情報伝達の役割を果たしており、自分の生活にも取り入れ役立てることが出来ます。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

- ・『色彩科学入門』（日本色彩研究所・編 日本色研事業）
- ・『色彩』（大井義雄他・著 日本色研事業）

《成績評価の方法》

- ・レポート課題（100%）
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

- ・各自の身の回りの生活用品(携帯電話、Tシャツ、口紅等々)の色彩を見ておくこと。

《備考》

- ・日常生活のなかで色に注目すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・色彩論の概説 色彩を科学的、理論的視点からだけではなく、私達の生活のなかでどの様に、活用されているのかを改めて見直す。
第 2 週	・色彩と生活 色彩の時代を迎え、私達の周りにはおびただしい数の色が氾濫しており、色彩の果たす役割りは何かを考える。
第 3 週	・色彩と文化 各国によって同じ色ども、解釈の違いがありそれは何故なのか？
第 4 週	色の見え方(色知覚のメカニズム) 色はただ単に見ているのではなく、ある現象によって色の見え方が異なることがあり、それはどうして起こるのか？
第 5 週	・色彩の感情効果 色は無言で、暖寒、軽重感等々我々に語りかけてくることについての解説
第 6 週	・イメージと色彩・Ⅰ 色は可愛い、落ち着いた、エレガンスというようなイメージを表わすことが出来る。
第 7 週	・シンボルとしての色彩・Ⅱ (例)フランス国旗の色：トリコロールカラ・・・ 青(自由) 白(平等) 赤(博愛)
第 8 週	・シグナルとしての色彩・Ⅲ
第 9 週	・色の表示方法 数限りの無い色はどのように表わすのか？
第 10 週	・色名 それぞれの色には色の名前が付けられており、日本の色名の由来について説明。
第 11 週	・環境と色彩 ピンクの色のマンションが周辺住民の人達から大反対された？
第 12 週	・企業と色彩 企業戦略としての色彩：コーポレートカラー(例・ユニクロ、セブンイレブンの色は)
第 13 週	・社会と色彩・Ⅰ 流行色が求められる背景とその時代的変遷
第 14 週	・社会と色彩・Ⅱ 安全色彩について
第 15 週	・現代社会における色彩

《教職に関する科目》

科目名	総合演習				
担当者名	吉原 恵子・今井 俊介・稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

教科指導を中心とした教職イメージではなく、学校現場の視点から見た教員とその職務について学習することを中心として、これまでの教職課程で得られた知識・技術を総合的に用いる能力を実践的授業方法により養う。

《授業の到達目標》

本演習では、教職課程においてすでに習得している教科に関する専門的な知識・技能および教職に関する科目の統合を図る。主として、教員として基本的な身につけるべき職務上の知識や技術を習得することに加えて、教員としての使命感や責任感を認識することを目指す。さらに、教科指導のほか生徒指導など教員の多様な職務内容を理解するだけでなく、それらを実践するために必要な諸能力（汎用的技能など）を身につけることを目標とする。

具体的目標は以下の通りである。

- (1) 教員の資質と使命について理解し、説明できる。
- (2) 学校組織と運営について理解し、説明できる。
- (3) 教科指導以外の教育活動について理解し、説明できる。
- (4) 学級経営の問題点について指摘し、解決できる。
- (5) 学校をとりまく社会変化と問題点について指摘し、解決できる。

《テキスト》

教職問題研究会編『教職必修 新教職論』

《参考文献》

教職問題研究会編『教職論 ―教員を志すすべてのひとへー』

《成績評価の方法》

毎回の授業記録に基づく学生による自己評価(40%)と教員による評価(60%)の相互評価による。

《授業時間外学習》

- (1) できるだけ、テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) 授業以外でも、新聞などにより教職や教育活動全般に関する情報収集に心がけ、教育問題への理解を深めるよう努めて下さい。

《備考》

この授業では、演習を通して、受講者が共に学ぶことにより、知識や技術の習得だけでは身につけることのできない汎用的能力を身につけることもねらいとしています。この汎用的能力は、社会人として、職業人として、そして教職に携わる者にとって必要不可欠な能力です。授業に出席するだけでなく、演習に積極的に参加することが重要になります。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育関係法規の体系、教職員の職務についての理解（講義および討議）
第 2 週	教員の資質と使命（1）教員に求められる資質能力を考える（事例研究）
第 3 週	教員の資質と使命（2）望ましい教員像を考える（事例研究）
第 4 週	学校の組織と運営（1）職務構成の理解（講義および討議）
第 5 週	学校の組織と運営（2）教員の勤務とサービス（ロールプレイングおよび討議）
第 6 週	教員の教育活動の実際（1）学級担任の職務（講義および討議）
第 7 週	教員の教育活動の実際（2）教科指導の基本と課題（模擬授業）
第 8 週	教員の教育活動の実際（3）生徒理解と生徒指導（ロールプレイングおよび討議）
第 9 週	教員の教育活動の実際（4）進路指導の意義と役割（講義および討議）
第 10 週	実際の学級経営（1）特別活動の領域（模擬授業）
第 11 週	実際の学級経営（2）生徒理解に基づく教科指導（模擬授業）
第 12 週	実際の学級経営（3）問題行動への対処（ロールプレイングおよび討議）
第 13 週	学校教育の広がりや課題（保護者および地域との連携）（講義および討議）
第 14 週	社会の変化と教育問題（カウンセリングマインドと福祉マインド）（討議）
第 15 週	学習のまとめ（学習のふり返りと学習成果の自己評価）

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導				
担当者名	吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習（研究授業）等を行うことである。本科目は、(1)自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験を振り返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイや模擬授業などを中心とする。

《授業の到達目標》

- (1)教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。
- (2)教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。
- (3)教科指導について、模擬授業を実施し、自己評価できる。
- (4)学級経営について、ロールプレイにより、問題点を発見し、解決できる。
- (5)実習の経験を踏まえて、研究授業を行い、自己評価できる。
- (6)実習の経験を踏まえて、学級経営について、問題点を発見し、解決できる。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

授業時に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

事前指導においては、(1)演習への参加意欲 10%、(2)知識・技術の習得 10%、(3)模擬授業 30%の配点により評価する。事後指導においては、(1)演習への参加意欲 10%、(2)研究授業 20%、(3)問題解決力 20%の配点により評価する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心をもち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。とりわけ、教職における諸問題（教科指導、特別活動、学級経営等）については、教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

演習という授業形態であるので、全回出席することが望ましい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育実習の全体 1) 教師(教員)養成と教育実習 2) 教育実習の目標 3) 教育実習の展開 4) 教育実習の心得
第 2 週	教育実習の内容 (1) 1) 学校経営 2) 学校の組織 3) 生徒の理解事項 4) 教育課程 5) 学習指導
第 3 週	教育実習の内容 (2) 1) 道徳と特別活動 2) 生徒指導と学級経営 3) 学校の施設と環境 4) 教師としての勤務
第 4 週	教育実習の実際 1) 教材研究の実際 2) 学習指導の実際 3) 学習指導案の事例 4) 授業研究の実際 5) 道徳・特別活動・生活指導
第 5 週	教育の方法及び技術 (ビデオ視聴) 1) 『授業の仕組みとはたらき』 2) 『授業を創る』 3) その他
第 6 週	教材研究と指導案づくり (1) (講義および演習)
第 7 週	教材研究と指導案づくり (2) (講義および演習)
第 8 週	教材研究と指導案づくり (3) (講義および演習)
第 9 週	模擬授業 (および討議)
第 10 週	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価
第 11 週	「教育実習」全体の振り返り (実習内容の明確化・体系化) : 討議・発表 (実習内容の反省・共有化)
第 12 週	事後の教材研究と事後の授業研究
第 13 週	研究授業 (および討議)
第 14 週	学級経営の問題点と課題 (発表と討議)
第 15 週	「教育実習」全体の総括

《資格に関する科目》

科目名	社会福祉基礎講座 I				
担当者名	田端 和彦・河野 真・今井 俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・要件外	開講年次・開講期	3年・I期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉基礎講座 I は社会福祉士国家試験の指定科目の変更に伴い、一部不足する科目部分を補うもので、地域福祉論、成年後見制度、社会保障論から構成される。

まず、地域福祉の実践に関わるために、地域福祉の理論とコミュニティオーガニゼーション、及び地域における福祉サービスの評価を中心に学習する。続いて、権利擁護の観点から成年後見制度の概要ならびに運用の実情を理解する。精神の障害により日常生活上支援を必要とする多種・多様の者についてそれぞれの権利擁護のあり方を学び、その方策を考える。最後に、少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係等、現代社会における社会保障制度の諸課題について学習するとともに、社会保障制度の発達過程についても理解を深める。

《授業の到達目標》

- ・ 地域福祉に関わる国内外の理論について理解し、それが実践に応用することが可能であるかの判断基準を身につける。
- ・ 地域での福祉ニーズ把握、サービス提供の実態など、実態の資料から読み解く能力を持つ。
- ・ 民法を中心とする法知識の習得を基礎に、成年後見制度の理念及びこれを支えている人的資源、諸機関について理解する。
- ・ 兵庫県弁護士会の高齢者・障害者総合支援センター（愛称「たんぽぽ」）など関係諸機関の活動から収集した資料、担当者の法曹実務家としての実務経験を踏まえての解説から全体的な理解を深める。
- ・ 現代社会における社会保障制度の課題（格差問題、少子化問題、高齢化問題等）についてそれらの本質や動向について理解する。
- ・ 社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで、公共サービスの民営化や市場化、再国営化を推し進める意義や背景をより深く理解できるようになる。
- ・ 社会保障制度の歴史的展開に対する学習を通して、制度の本質や形成のメカニズムを理解する。

《テキスト》

授業内での指示を待つこと。

《参考文献》

新井誠ほか2名著「成年後見制度—法の理論と実務」有斐閣資料等随時はコピーのうえ配布する。

《成績評価の方法》

基本的にはペーパーテストによるが（80%）、中間にレポートを提出させペーパーテストの一部に補充する（20%）。

《授業時間外学習》

授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

地域福祉や社会保障制度が直面する諸課題については、基礎的な情報や今日の動向が新聞や書籍、ウェブサイトを通じても入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持ったうえで受講することが望ましい。

少ない時間内で各種法制の相互関連を理解するに必然的に予習・復習が要請される。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	地域福祉の理論
第 2 週	地域における福祉のニーズ
第 3 週	地域における福祉サービスの評価
第 4 週	コミュニティオーガニゼーション①
第 5 週	コミュニティオーガニゼーション②
第 6 週	成年後見制度の理念と設立に至るいきさつ
第 7 週	成年後見、保佐、補助、任意後見の概要
第 8 週	成年後見制度支援事業の概要
第 9 週	成年後見制度を支える人（弁護士、司法書士、社会福祉士、行政職員、民間人）と関係機関（家庭裁判所、法務局、市町村）
第 10 週	権利擁護活動の実際（1）認知症高齢者、知的障害者、精神障害者 （2）被虐待児・虐待者、非行少年 （3）消費者被害者、多重債務者
第 11 週	現代社会における社会保障制度の課題 1（労働環境の変化・格差問題等）
第 12 週	現代社会における社会保障制度の課題 2（少子化諸問題）
第 13 週	現代社会における社会保障制度の課題 3（高齢化諸問題）
第 14 週	現代社会における社会保障制度の課題 4（福祉サービス供給・財源調達・管理運営をめぐる公私関係）
第 15 週	社会保障の歴史的展開（日英を中心に）

《資格に関する科目》

科目名	社会福祉基礎講座Ⅱ				
担当者名	牧田 満知子・高橋 千代・井上 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・要件外	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

Ⅱ期は社会福祉の主要専門科目である「現代社会と福祉」（旧「社会福祉概論」）、「高齢者に対する支援と介護保険制度」（旧「老人福祉論」）、「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」（旧「児童福祉論」）、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」（旧「障害者福祉論」）について、新カリキュラムの内容を中心に、旧カリキュラムとの比較をふまえて講義する。

《授業の到達目標》

2009年度から新カリキュラムに改訂されたことを受け、旧カリキュラムとの相違点、および新しく盛り込まれた内容に焦点をあてて講義し、社会福祉専門科目の理解を深めることを目的とする。

《テキスト》

テキストは旧カリキュラムの時に使用したものをを用いる。

《参考文献》

各担当教員が適宜指示する。

《成績評価の方法》

授業への積極的な参加等の評価 50%、定期試験による評価 50%

《授業時間外学習》

2009年度のテキストは図書館、生涯福祉センターに所蔵しているので適宜活用し、事前・事後学習を徹底しておくことが望まれる。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会福祉の主要専門科目である「現代社会と福祉」（旧「社会福祉概論」）、「高齢者に対する支援と介護保険制度」（旧「老人福祉論」）、「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」（旧「児童福祉論」）、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」（旧「障害者福祉論」）についての新・旧対照についてオリエンテーションを行う。
第 2 週	「現代社会と福祉」（旧「社会福祉概論」） 1990年以降の社会福祉政策について概観し、現代社会における社会福祉の全体像を再構築する。
第 3 週	「現代社会と福祉」（旧「社会福祉概論」） 社会福祉の機能、および現代社会の病理である雇用問題について詳述し、セーフティネット、コミュニティ・オーガニゼーションなどの方法論へと考察を深めていく。
第 4 週	「現代社会と福祉」（旧「社会福祉概論」） 新カリで重要性を増してくる国際社会福祉比較政策について概説する。とりわけ E.アンデルセンの理論を中心にデータに基づいた分析視点を養う。
第 5 週	「高齢者に対する支援と介護保険制度」（旧「老人福祉論」） 2005年の改正介護保険によって大幅に変更が加えられた要介護の内容、および居宅介護中心の施策に焦点をあてて詳述し、介護保健制度の理解を徹底する。
第 6 週	「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」（旧「児童福祉論」） 非行臨床の概要（犯罪少年、触法少年、虞犯少年、福祉との関連）について詳述し、理解を深める
第 7 週	「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」（旧「児童福祉論」） 更生保護制度とはどのようなものなのか。保護観察の目的、および方法について概説し、事例に基づいて考察を深める。
第 8 週	中間まとめと学生発表
第 9 週	「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」（旧「児童福祉論」） 更生保護の担い手である保護監察官、保護司について概説し、更生保護制度の全体像を把握できるようにする。
第 10 週	「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」（旧「児童福祉論」） 更生保護の実際を学ぶため VHS、あるいは DVD などのヴィジュアル教材を用いる。さらに更生保護制度の今後の展望についてクラスディスカッションを行う。
第 11 週	「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」（旧「障害者福祉論」） 第 1 回目は国家試験対策としての障害者福祉の動向について概説し、障害者福祉についての全体像を把握できるようにする。
第 12 週	「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」（旧「障害者福祉論」） 第 2 回目は障害福祉サービスについて詳述する。ソーシャルワークに関わる重要な位置づけであり、受講生には予習・復習の徹底を望む。
第 13 週	「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」（旧「障害者福祉論」） 第 3 回目は権利擁護事業と障害者福祉について、事例にもとづいて概説し、クラスディスカッションを行い理解の徹底をはかる。
第 14 週	「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」（旧「障害者福祉論」） 第 4 回目はまとめとして国家試験過去問題を教材とし、問題を解いていく中からさらに理解を深めていく。
第 15 週	定期試験

《資格に関する科目》

科目名	行動分析論				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・要件外	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

動物は環境に様々な行動によって働きかけ、その結果によって行動は支配される。この行動主義の考え方や理論を学ぶ。ある行動を支配する先行刺激と結果にもとづき、その行動をコントロールする行動分析（機能的分析）のテクニックについて、実験事例を通して詳しく学ぶ。授業では、レスポナントおよびオペラント条件づけ、強化随伴性、行動分析（機能的分析）、行動分析のテクニック、行動療法、認知行動療法などをテーマとして取り上げる。

《授業の到達目標》

動物にとって学習とは何か、学習の持つ意味を説明できる。
代表的な学習理論について説明できる。
強化と罰および汎化と分化の違いを説明できる。
行動分析（機能的分析）の代表的なテクニックを説明できる。

《テキスト》

杉山尚子 「行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由」 集英社新書

《参考文献》

ポール・A. アルバート、アン・C. トルートマン、佐久間徹ほか訳 「はじめての応用行動分析」 二弊社

《成績評価の方法》

試験 70%、提出物 30%

《授業時間外学習》

日々の生活での、強化随伴性、消去、分化、汎化の事例を探し、報告する。
ターゲット行動を決めて、行動分析を体験し、報告する。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	行動主義心理学のはじまりと発展
第 2 週	スキナーの考え方とオペラント条件づけ 1
第 3 週	スキナーの考え方とオペラント条件づけ 2
第 4 週	オペラント条件づけの研究法 1
第 5 週	オペラント条件づけの研究法 2
第 6 週	オペラント条件づけの研究法 3
第 7 週	オペラント条件づけによる言語獲得
第 8 週	フリーオペラントとディスクリートオペラント
第 9 週	応用行動分析 1 強化の適用 事例と問題点
第 10 週	応用行動分析 2 消去法適用 事例と問題点
第 11 週	応用行動分析 3 分化強化法の適用 事例と問題点
第 12 週	応用行動分析 4 罰の適用 1 レスポンスコスト法ほか
第 13 週	応用行動分析 5 罰の応用 2 罰適用の問題点
第 14 週	ソーシャルスキルの獲得 対人的ソーシャルスキルについて
第 15 週	スキナー理論への反証と認知行動療法について